

# hp OpenView Performance Manager 管理者ガイド

HP-UX, Solaris, Windows

バージョン 6.01

この PDF は、オンライン ヘルプと同じ内容を含んでおり、  
印刷用の目的で提供されています。

## 目次

このドキュメントで使用される表記法.....	5
OVPM 管理者の作業.....	6
OVPM の初期設定.....	6
OVPM ポート設定およびファイアウォールについて.....	7
クラスタ環境での OVPM の実行.....	8
OVPM で使用する言語の選択.....	8
休日の定義.....	9
OVPM コマンド.....	10
OVPM ライセンス キーのインストール.....	11
OVPM 管理者ユーザー インターフェイスの使用.....	13
OVPM サーバーへのリモート アクセス.....	14
データソースの設定.....	14
システム (OVPA、OVO-EPC、SPI) のデータ.....	16
OVO 8 とのセキュアな通信.....	17
システム リストのバッチ エントリ.....	18
ログファイルのプロキシ化.....	21
Reporter の統合.....	21
OVPM の Reporter および OVIS との統合の設定.....	22
OVPM と Reporter または OVIS 間の統合に関する問題.....	23
OVIS 制限表示機能の使用.....	23
Reporter からのシステム グループの除外.....	24
その他のデータベースに対する設定.....	25
データベース設定項目.....	27
フラット ファイル データソース.....	29
顧客、ユーザー、ログイン.....	32
顧客.....	32
OVPM ユーザーの定義.....	34
ログイン.....	35
ログイン、ユーザーの定義.....	35
セキュリティ.....	37
クライアント認証セキュリティの有効化.....	37
Web サーバーのポート番号の変更.....	39
Secure Socket Layer (SSL または https) の使用.....	39
別の方法による OVPM へのアクセス.....	41
OVPM への直接リンク.....	41
バッチによるグラフの実行.....	42
テキスト ファイルへのエクスポート.....	45
OVPM の保守.....	46
出力ファイルとディスク容量の管理.....	46

日常的な保守 .....	48
グラフ テンプレート ファイルの高度な操作 .....	48
グラフ テンプレート ファイルの直接編集 .....	49
ユーザーが設計したグラフの恒久的な使用 .....	51
OVPМ インターフェイスの外観のカスタマイズ .....	53
スタイル ファイルによるデフォルト設定 .....	53
プレゼンテーション スタイルに影響するスキンの作成 .....	58
クライアント設定によるデフォルト設定 .....	60
トラブルシューティング .....	61
OVPМ クライアントのトラブルシューティング .....	61
特定のクライアントにより OVPМ が動作する .....	62
グラフが更新されない .....	62
Java プラグインの問題 .....	63
Java 画面が中断される .....	64
グラフにデータが表示されない .....	64
Java ロギングの有効化 .....	65
OVPМ が応答しない .....	66
[システム名] ボックス (Web フォーム) または [データソース] ウィンドウ (Java インターフェイス) に名前が表示されない .....	66
Java インターフェイスでグラフが表示されない .....	67
面グラフにおけるデータのオーバーラップ .....	67
エージェントがシステム上に見つからない .....	67
選択した期間内に設定データが見つからない .....	68
OVPМ に接続できないクライアントがある .....	68
警告: マニフェスト: Depends-On で名前が重複している .....	70
sun.plugin.cache.DownloadException .....	70
OVPМ サーバーのトラブルシューティング .....	71
手順 1: OVPМ が正しく動くようにサーバーが 設定されているかどうかのチェック .....	71
手順 2: アプリケーション サーバーのチェック .....	72
手順 3: 動作のテスト .....	73
手順 4: ステータス ファイルのチェック .....	74
手順 5: トレースの有効化 .....	74
最初の Web ページが見つからない .....	75
グラフが見つからない .....	75
キーワードが認識されない .....	76
データベース オープン エラー .....	76
データベース接続のトラブルシューティング .....	76
ホスト名を解決できない .....	77
仕様の詳細 .....	77
メトリック .....	78
表示期間 .....	78

ポイント数.....	81
フィルタ.....	82
表 フィルタ.....	85
ラベル.....	85
パラメータ.....	86
日付形式文字列.....	87
時間形式文字列.....	87
キーワード.....	88

©Copyright 2003-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## このドキュメントで使用される表記法

OVPМ サーバー システム上のファイルの場所を説明する場合、以下の省略形が使用されます。(スラッシュは UNIX では「/」、Windows では「\」と表記されることに注意してください。本書では、「/」は例に使用されます)。

<install_dir>	<p>OpenView Performance Manager (OVPМ) がインストールされたディレクトリ。</p> <p>HP-UX および Solaris の両システムでは、このディレクトリは /opt/OV です。</p> <p>Windows ではディレクトリは一定ではありませんが、デフォルトは C:¥Program Files¥HP OpenView です。</p>
<data_dir>	<p>OVPМ で作業ファイルの格納先に選択されるディレクトリ。</p> <p>HP-UX および Solaris では、このディレクトリは /var/opt/OV です。</p> <p>Windows ではディレクトリは一定ではありませんが、デフォルトは C:¥Program Files¥HP OpenView¥data です。</p>
<java_dir>	<p>Java 1.4 SDK がインストールされたディレクトリ。</p> <p>HP-UX および Solaris では、このディレクトリは /opt/OV/nonOV/jdk/a です。</p> <p>Windows ではディレクトリは一定ではありませんが、デフォルトは C:¥Program Files¥HP OpenView¥nonOV¥jdk¥a です。</p>
<tomcat_dir>	<p>Tomcat アプリケーション サーバーがインストールされたディレクトリ。</p> <p>HP-UX と Solaris では、このディレクトリは /opt/OV/nonOV/tomcat/a です。</p> <p>Windows ではディレクトリは一定ではありませんが、デフォルトでは、C:¥Program Files¥HP OpenView¥nonOV¥tomcat¥a です。</p>
<system>	<p>OVPМ サーバーが実行されているシステムの名前。これは通常、Web ブラウザから URL で使用され、ネットワーク ネーム サーバーが OVPМ システムに解決できる名前になります。</p>
<stdout.log>	<p>Tomcat ログ ファイルがインストールされた場所。</p> <p>Windows ではディレクトリは一定ではありませんが、デフォルトは C:¥Program Files¥HP OpenView¥nonOV¥tomcat¥a¥logs です。</p>
<conf>	<p>設定ファイルがインストールされた場所。</p> <p>Windows ではディレクトリは一定ではありませんが、デフォルトは C:¥Program Files¥HP OpenView¥nonOV¥tomcat¥a¥conf です。</p>

[目次へ戻る](#)

---

---

## OVPM 管理者の作業

OVPM はエンド ユーザーに対して Web ベースのユーザー インターフェイスを提供しています。このインターフェイスは、データをグラフ、表、スプレッドシートといったさまざまな形式で表示するのに使用できます。エンド ユーザーは Web ベースのインターフェイスを使用してかなりの程度まで作業を制御できますが、OVPM サーバー システム上での設定を必要とする項目もいくつかあります。

必要な項目にはセキュリティ ポリシーの設定、ログインの定義、OVPM でデータの取得に使用されるデータソースへの接続設定、OVPM の試用および正式なライセンスキーの管理、高度なカスタマイズの要求ベースの実行などがあります。このドキュメントでは、このようなトピックを扱いますが、OVPM サーバーの管理を担当するユーザー (以降、「OVPM 管理者」と呼ぶ) を対象としています。

[目次へ戻る](#)

---

---

## OVPM の初期設定

OVPM の操作は非常に柔軟です。OVPM を使用した起動のために、各機能を設定する必要はありません。ほとんどの機能は、あらかじめデフォルト動作に設定されています。OVPM の設定変更は、デフォルト動作を変更し書き直すことにより、いつでもできます。それぞれの設定オプションの詳細は、本書内で説明しています。

OVPM は他のデータソースのデータを使用します。正しく動作するように、他のデータソースの場所がわかるように OVPM を設定する必要があります。

デフォルトでは、OVPM のインストール時に、OpenView Internet Services (OVIS) と OpenView Reporter (Reporter) が 同じシステムにインストールされている場合、OVPM for Windows はこれらのデータソースを検出します。同じシステムにインストールされていない場合、OVPM からアクセスする前に各データソースを設定しておく必要があります。

OVPM では、一部のデータソースのデータを顧客別に分離できます。OVIS のような一部のデータソースでは、この分離機能はデフォルトで有効になっています。その他の Reporter などのデータソースでは、オプションでデータの顧客別分離が許可されます。その他の OpenView Performance Agent (OVPA) のようなデータソースの場合、顧客別分離は機能に含まれていませんが、このデータソースにアクセスするときに、OVPM を使用して顧客別分離の機能を追加できます。

デフォルトでは、OVIS または Reporter がデータソースとして設定されている場合、このデータソースを定義した顧客はすべて OVPM に通知されます。それ以外の場合、顧客が OVPM に設定されるまでデータの顧客別分離は有効になっていません。

詳細は、「[Reporter の統合](#)」、「[OVPM の Reporter および OVIS との統合の設定](#)」、「[OVIS 制限表示機能の使用](#)」を参照してください。

OVPM は Web ベースのユーザー インターフェイスを使用するため、サーバー システム利用時のログインは必要ありません。変更されたグラフおよびユーザー設定は全ユーザーで共有されます。オプションで、グラフとユーザー設定を保存するための専用の領域を持つユーザーを定義することができます。

デフォルトでは、OVPM で有効になっているユーザーはありません。すべての OVPM クライアントは、グラフおよびユーザー設定の領域を共有します。詳細は、「[顧客、ユーザー、ログイン](#)」を参照してください。

セキュリティ対策を強化するために、OVPM では Web ユーザーが OVPM サーバーの検索に使用する URL を部分的に制御できます。ポート番号は `ovpm config` コマンドで上書きできます。OVPM の許可されたクライアントのリストは、クライアントのネットワーク名またはクライアントの IP アドレスのいずれかを使用して設定できます (詳細は[セキュリティ](#)を参照してください)。

デフォルトでは、ポート 8080 は OVPM の Web ページに、ポート 8443 はセキュアな通信に使用されます。すべてのクライアント システムは、OVPM サーバーへの接続が許可されています。

---

## OVPM ポート設定およびファイアウォールについて

OVPM は実行時に Web インターフェイスを提供します。OVPM をインストールしたシステム以外から OVPM Web ページにアクセスするには、このようなアクセスが可能になるように環境設定する必要があります。標準の OVPM ユーザー インターフェイスへのアクセスは、単一の TCP ポート (デフォルトでは 8080) を介して行われます。OVPM 管理者インターフェイスを実行する場合、HTTPS の TCP ポート (デフォルトでは 8443) も有効にする必要があります。

OVPM 管理者インターフェイスを有効にする正確なメカニズムは、システムの種類、ファイアウォールの種類などにより異なります。

### Microsoft Windows XP、Service Pack 2 の場合:

1. コントロール パネルから [ネットワーク接続] を選択します。
2. [ローカル エリア接続] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [詳細設定] タブ内の [Windows ファイアウォール] で [設定] ボタンを選択します。
4. [例外] タブを選択します。
5. [プログラムおよびサービス] リストに、"tomcat5.exe" と "tomcat5w.exe" のプログラムが表示されていない場合、以下の手順を実行します。
  - a. [プログラムの追加] ボタンを押します。
  - b. [参照] ボタンで、Tomcat 実行ファイルを探します。通常の場合は `<tomcat_dir>\bin\tomcat5.exe` および `<tomcat_dir>\bin\tomcat5w.exe` です。
6. Tomcat5.exe と Tomcat5w.exe の両プログラムにチェックを付けて終了します。

[目次へ戻る](#)

---

## クラスタ環境での OVPM の実行

OVPM はクラスタ環境で使用できます。このクラスタ環境では、複数のプロセッサが共通のディスク領域へのアクセスを共有し、ハードウェア障害が発生した場合に 1 つ以上のシステムが他のシステムの「フェイルオーバー」プロセッサとして機能します。たとえば、2 ノード クラスタ構成でノード A がシャットダウンした場合、クラスタ管理システムはノード A が使用できなくなったことを検出し、クラスタ フェイルオーバーが発生します。クラスタ管理システムはノード B で OVPM の実行を開始します。ただし、ノード A が実行中であった状態で OVPM が停止しても、OVPM は自動的にノード B にはフェイルオーバーしません。

クラスタで OVPM を実行するには、プライマリ ノード (プロセッサとも呼ばれる) およびフェイルオーバーで使用される各ノードに OVPM をインストールしておく必要があります。フェイルオーバーの場合、OVPM の設定情報と保存されたユーザー グラフを維持するには、すべてのプロセッサで共有されるディスク システムに、これらのファイルを格納する必要があります。

クラスタでのインストールの詳細は、『OVPM インストール、アップグレード、および移行ガイド』を参照してください。

[目次へ戻る](#)

---

## OVPM で使用する言語の選択

OVPM 製品は多言語化されているため、日付、時刻、数字形式などの機能は OVPM サーバー システムの言語に従います。英語版は、ユーザー インターフェイスとマニュアルは英語表記のままですが、日付、時刻、数字の形式は調整できます。

OVPM が特定の言語にローカライズされている場合、英語およびその言語で利用できます。ローカライズ版は Web ページ、オンライン ヘルプ、ユーザー マニュアル、およびユーザー インターフェイスのドロップダウン メニューの選択項目が翻訳されています。

OVPM で使用する言語は、OVPM をインストール時に、OVPM サーバー システムの言語を選択します。

- Microsoft Windows では、コントロール パネルの [地域と言語のオプション] 機能で言語を設定します。システムのデフォルト ロケールを、使用する言語に設定します。この変更を有効にするには、再起動が必要になる場合があります。
- Unix では、環境変数 LANG と、場合によっては LC\_ALL を、サーバー システムのインストール先ロケールにエクスポートします。インストールされたロケールのリストは、コマンド `locale -a` で取得できます。



言語を設定した後、OVPM サービスを再起動します。

ローカライズされた OVPM を実行している場合、ローカライズに合わせて言語を設定する必要があります。それ以外の場合、OVPM は英語で利用します。

OVPM のクライアントは、OVPM サーバーと同じ言語で実行されている必要があります。同じ言語で実行されていない場合、サーバーまたはクライアントで数字が書式設定されているかどうかにより、日付、時刻、数字の形式が混ざって表示されます。Java ユーザー インターフェイスがクライアント システムで実行され、クライアント システムの言語に従ったデータの書式設定が試みられます。サーバーから取り出したデータをクライアントのデータと一致させるための変換は行われません。このため、クライアントとサーバーのシステムが異なる言語で実行されている場合、特定の機能が正しく動作しない場合があります。

### タイムゾーンについて:

OVPM サーバーとエージェントのタイムゾーンが異なる場合、OVPM サーバーのタイムゾーンが優先されます。OVPM サーバー、エージェント、クライアントのタイムゾーンがすべて異なる場合は、OVPM サーバーのタイムゾーンが優先されます。

メモ: OVPM は複数ロケールには対応していません。クライアントと OVPM サーバーのロケールが異なる場合、予期しない動作が発生する可能性があります。

[目次へ戻る](#)

---

## 休日の定義

グラフを作成する場合、休日のデータを除外できます。どの曜日を休日にするかの定義は、OVPM 管理者が行います。休日のリストはグローバルに設定することも、顧客ごとに個別に設定することもできます。休日は、テキストファイル `VPI_Holidays.txt` を作成して設定します。`VPI_Holidays.txt` ファイルが顧客の設定ディレクトリ (`<data_dir>/conf/perf/VPI_CUST_<顧客名>/VPI_Holidays.txt`) 内にある場合、このファイルはこの顧客へのすべてのログインに使用されます。顧客の休日ファイルが作成されていない場合、`<data_dir>/conf/perf/VPI_Holidays.txt` のグローバル休日ファイルが使用されます。顧客の休日ファイルとグローバル休日ファイルが見つからない場合、[休日をスキップ] 機能は有効になりません。

`VPI_Holidays.txt` ファイルは、主に日付を 1 行に 1 つずつ記述したテキストファイルです。このファイルには、空白行とコメント行 (# で始まる) を含めることができます。ファイルの先頭行で、そのファイルのデータフィールドの順序を指定できます。デフォルトでは、日付は年、月、日の順です。空白を除く数値以外の区切り文字を使用して、3 つのフィールドを区切ることができます。年は 4 桁以下に短縮できます。2004,12,25 は 2004/12/25、および 4.12.25 と同じです。

年、月、日以外の順序で日付を入力する場合、ファイルの先頭行で、希望する日付の順序で "Y"、"M"、"D" の文字を入力します。文字の繰り返しも、区切り文字として

機能するため使用できます。行の定型は次のとおりです。

MDY

MM/DD/YY

dmy

ファイル内のその他の日付はすべて、3つの数値フィールドを使ってこの形式の順序で表現されます。

3番目の数値フィールドの後に続く内容はすべて無視され、コメントに使用できます。

次に休日ファイルの例を示します。

MM/DD/YY

1/1/04 New Year's Day

1/19/04 Martin Luther King Day

2/16/04 President's Day

5/31/04 Memorial Day

9/6/04 Labor Day

11/25/04 Thanksgiving Day

11/26/04 Friday following Thanksgiving

12/27/04 Monday after Christmas Day

12/28/04 Company Floater

1/3/05 New Year's Day

1/17/05 Martin Luther King Day

2/21/05 President's Day

5/30/05 Memorial Day

7/4/05 Independence Day

9/5/05 Labor Day

11/24/05 Thanksgiving

12/23/05 Company Floater

12/26/05 Christmas Day

[目次へ戻る](#)

---

## OVPM コマンド

システム管理者は、さまざまなオプションを指定した ovpm コマンドを使用して OVPM を管理できます。Windows では、ovpm コマンドは MS-DOS コマンド ウィンドウか Windows スクリプト ファイルを使用して入力する必要があります。OVPM コマンドは次のように指定します。

<install\_dir>/bin/ovpm オプション

オプションは以下のとおりです。

status - OVPM 実行状態を表示します。

start - OVPM アプリケーション サービスを開始します。

stop - OVPM アプリケーション サービスを停止します。

restart - OVPM アプリケーション サービスを停止した後、開始します。

license - 製品ライセンスを表示または更新し、AutoPass GUI を表示します。

admin - OVPM 管理者のインターフェイスを起動します(OVPM 管理者のみ)。

trace [log] [off] - 詳細なトレース ファイルの生成を開始または停止します。

config [-port portnumber] - デフォルトでポート 8080 を使用する設定を変更します。変更を有効にするには、OVPM アプリケーションを再起動する必要があります。

---

## OVPM ライセンス キーのインストール

OVPM を使用するにはライセンス キー パスワードが必要です。ソフトウェアをインストールして初めて使用する場合は、60 日間有効な試用ライセンスが付与されます。製品の使用を継続するには、この 60 日の試用期間内に、正式なライセンス キー パスワードを取得するか試用期間を延長する必要があります。

正式なライセンスを取得するには、次のコマンドを実行します。

```
<install_dir>/bin/ovpm license
```

ライセンスの状態が表示された後、コマンドライン プロンプト "License Command>" が表示されます。OVPM を試用ライセンスで実行している場合は、「Instant On: Yes」というメッセージが表示されます。「Instant On」は試用ライセンスを意味します。正式な製品ライセンスが既にインストールされている場合、メッセージ「HP OpenView Performance Manager は恒久ライセンスです。」が表示されます。

インターネットに接続して、正式なパスワードを取得するためには、OVPM サーバーでコマンド `gui` を入力します。これにより、HP OpenView AutoPass GUI が表示されます。HP-UX と Solaris では、`ovpm license` コマンドを実行する前に、AutoPass GUI を適切な表示ウィンドウに送る `DISPLAY` 変数をエクスポートする場合があります。

### AutoPass を使用してパスワードをインストールする:

AutoPass GUI を初めて実行する場合は、[OK] をクリックして [評価用パスワードについて] 画面をスキップします (このダイアログはライセンスの状態に関係なく必ず表示されます)。続いて、以下の手順を実行します。

1. [インターネットへ接続] ダイアログで、[直接接続する] を選択するか、必要なプロキシ情報を入力します。
2. ダイアログで [恒久パスワードの取得] を選択し、権利証明書 (Entitlement Certificate) をもとに HP OpenView 購入注文情報を入力します。
3. 購入したライセンスの数に応じて LTU (License To Use) 番号を選択します。  
メモ: 1 台のサーバーへのインストールにつき必要なライセンスは 1 つだけです。
4. 顧客情報フォームに記入します。
5. ここまでの手順が完了すると、パスワード キーが自動的にインストールされます。

### パスワードを申請し手動でインストールする:

Web サイト ([www.webware.hp.com](http://www.webware.hp.com)) を使用してライセンス パスワードを申請し、電子メールで返信を受け取った場合は、ライセンス パスワードを手動でインストールする必要があります。この場合の手順は以下のとおりです。

1. 電子メールに添付されているパスワードを抽出し、OVPM がインストールされているシステム上に、ライセンス キーを ASCII テキスト ファイルで保存します。
2. コマンド `<install_dir>/bin/ovpm license` を入力します。
3. 現在のライセンスの状態が表示された後、プロンプト "License Command>" が表示されます。「install」と入力します。
4. 手順 1 で作成したファイルの名前の入力を求められます。該当ファイルの絶対パスを入力します。このプロセスが正常に終了すると「パスワードは正常に追加されました。」というメッセージが表示されます。正しく終了しなかった場合はエラー メッセージが表示されます。

試用 (評価用) ライセンスの延長を申請する場合は、webware の Web サイトに試用ソフトウェアのパスワードに関する連絡先情報が掲載されています。最寄りのライセンス センターへ試用 (評価用) ライセンスの延長を申請してください。製品番号と製品名は「TRIAL-OVPM6」です。延長は 1 回のみ可能で、期間は 60 日間です。電子メールでパスワード キーが届きますので、前述のプロセスを使用して手動でインストールしてください。

ライセンスに関する詳細は、`<install_dir>/paperdocs/PM/C` ディレクトリにある `AutoPass_guide.pdf` を参照してください。

[目次へ戻る](#)

## OVPM 管理者ユーザー インターフェイスの使用

OVPM 管理者ユーザー インターフェイスは、OVPM に次のローカル設定を行う場合に使用します。

- 顧客
- ユーザー
- グループ
- システム

OVPM が Reporter 製品に接続されている場合、顧客、グループ、システムは Reporter から取得されます。

OVPM が OVIS 製品に接続されている場合、顧客は OVIS から取得されます。

これらの非ローカル項目を編集するためには、直接 Reporter および OVIS インターフェイスを使用する必要があります。OVPM 管理者インターフェイスは、Reporter と OVIS から取得された情報を追加し、ユーザーを定義するのに使用できます。

OVPM 管理者のインターフェイスは、OVPM によりローカルに定義された顧客、ユーザー、システムのみを表示します。OVPM Java インターフェイスと Web フォーム インターフェイスを実行する場合、Reporter と OVIS から取得した顧客、ユーザー、システムのリストはローカル定義に統合されるため、このリストは OVPM 管理者のインターフェイス内のリストとは異なる場合があります。

OVPM 管理者のインターフェイスには、コマンドライン (Java アプリケーション) と Web ブラウザ (Java アプレット) の 2 つの方法でアクセスできます。

OVPM 管理者のインターフェイスは、OVPM がインストールされたシステムで次のコマンドを呼び出してローカルに実行できます。

```
<install_dir>/bin/ovpm admin
```

Windows では、スタート / すべてのプログラム / HP OpenView / Performance Manager / Performance Manager の管理 のショートカットが使用できます。

管理者インターフェイスは、Web ブラウザで次のセキュアな Web URL を参照することでリモートに実行できます。

```
https://<system>:8443/OVPM/PAdmin.htm
```

<system> は OVPM システムの名前、8443 は Tomcat サーバー用に設定された Secure Sockets Layer (SSL) ポート番号です。いずれの場合も、OVPM 管理者のパスワードを指定しなければ項目の表示または編集が許可されません。

OVPM 管理者インターフェイスの使用の詳細は、インターフェイスの実行後に [ヘルプ] ボタンを押します。

---

## OVPM サーバーへのリモート アクセス

リモート サーバーで SSL ポートを設定していれば、OVPM 管理クライアント (Java アプリケーション) または Web ブラウザから別の OVPM サーバー上にある「HP OpenView 管理者クライアント」にアクセスできます。

HP OpenView 管理者クライアントを使用して別の OVPM サーバーにアクセスする手順は、以下のとおりです。

1. 管理者のインターフェイスを起動します。コマンドラインから「ovpm admin」と入力するか、または [スタート] - [すべてのプログラム] - [HP OpenView] - [Performance Manager] - [Performance Manager の管理] を選択します。
  2. HP OpenView 管理者クライアント プログラムが表示されます。
  3. [ファイル] - [接続...] を選択します。
  4. [OVPM サーバーに接続] が表示されます。
  5. ホスト名を、アクセスするサーバーの完全修飾名に変更します。
  6. ポート番号を、アクセスするサーバーの SSL ポート番号に変更します。
  7. [OK] を選択します。
  8. HP OpenView 管理者クライアントが、新しいサーバーの HP OpenView 管理者クライアントに変更されます。
- 
1. ローカル OVPM サーバー システムで Web ブラウザを起動します。
  2. ブラウザの [アドレス] ボックスに、リモート サーバーの名前を入力します。たとえば、  
「https://moon:8443/OVPM/PMAdmin.htm」  
と入力して、Enter キーを押すか、[OK] を選択します。
  3. [OVPM サーバーに接続] が表示されます。

メモ: Web ブラウザからリモート サーバーに接続する場合、HP OpenView 管理者クライアントのメニュー バーにはメニュー項目 [ファイル]、[ヘルプ] ではなく、[更新]、[保存]、[ヘルプ] が表示されます。メニューに [更新] と [保存] が表示されることで、リモート システムであることが示されます。ローカル システムに戻るには、[Web アドレス] ボックスのシステム名を変更します。

[トップへ戻る](#)

---

---

## データソースの設定

OVPM は、データ収集プログラムではありません。さまざまなソースからのデータを表示します。OVPM を使用する前に、そのデータソースを検索する設定を OVPM で行う必要があります。このセクションでは、データソースの設定方法を扱います。

OVPM は、下記の OpenView 製品のデータソースおよびデータベースからのデータを表示できます。

- **OpenView Performance Agent (OVPA)** は、システムの各種パフォーマンス情報を確実に提供します。システム状態の情報のほか、特定の期間にシステム上で何が起こったのかを詳細かつ正確に把握するために必要な情報も効果的に記録します。OVPA は、以前は "MeasureWare (MWA)"、"VantagePoint Performance Agent (VPPA)"、および "Performance Collection Software (PCS)" という名称でリリースされていました。
- **OpenView Operations** は、OpenView Operations Agent (OVOA) を監視対象システムに展開します。OVOA バージョン 7 以降では、このエージェントに組み込みのパフォーマンス コンポーネント (OVO-EPC) が含まれており、システムの全般的な状態とパフォーマンスに関する情報を記録できます。
- **OpenView Reporter** には OVPA や OVOA といった他の各種パフォーマンス製品のデータを連結するデータベースが用意されています。これらのエージェントのいずれかが設定されているシステムを検出し、システム管理者が設定したルールに従ってシステムをグループ化します。Reporter を使用して、管理対象の顧客とシステムを構成できます。Performance Manager と併用する場合は、システム、グループ、顧客のリストを両製品で共有できます。
- **OVIS** は Web ページ (HTTP、HTTPS)、電子メール、ネットワーク ネーム サーバーなどのネットワーク サービスを調べて、可用性と応答時間に関する情報をデータベースに保存します。Performance Manager はこの情報を単独で表示することも、他のソースのデータと併せて表示することもできます。
- Oracle および SQL Server の各データベースは、時系列データの提供という要件を満たす場合は、データソースとして使用できます。OVPM はデータベースの表およびビューの定義に従ってデータを提示し、複数の表の結合を実行しません。表の結合やその他の機能の実行には、ビュー、すなわちストアド プロシージャが使用できます。表またはビュー単位で、レコードの時間を示す日付 / 時間型のメトリックの提示が必要です。

OVPM は汎用データベース レポート ツールではありませんが、汎用データベースから時系列データを制限付きで表示できます。このような汎用データベースのデータソースの設定方法は、

- [「その他のデータベースに対する設定」](#)セクションで後述します。

OVPM は、Reporter を実行しているシステム と OVIS を実行しているシステムへの同時アクセスをサポートしますが、それぞれ 1 台ずつに限定されます。また、OVPA または OVOA を実行している多数のシステムにアクセスできます。このようなシステムの名前は Reporter 製品から取得できますが、OVPM 管理者のインターフェイスを使用してローカルに入力したり、ファイルからロードしたりできます。

- [システムのデータ](#)
- [OVO 8 とのセキュアな通信](#)
- [システムのバッチ エントリ](#)
- [ログファイルのプロキシ](#)
- [Reporter および OVIS](#)
- [OpenView Performance Agent](#)
- [OpenView Operations Agent](#)



- [その他のデータベース](#)

[目次へ戻る](#)

---

## システム (OVPA、OVO-EPC、SPI) のデータ

OpenView には、コンピュータ システムからパフォーマンス データを収集する方法がいくつかあります。OpenView Operations は、システムの全般的な状態を評価するのに使用されるパフォーマンスデータを収集する **OVO-EPC** を提供しています。OVO-EPC は 5 週間分のデータを記録し、OVPM などのツールで検索し、表示することができます。データが記録されると、オペレータの注意を促す必要のある状況が迅速に認識され、OpenView Operations コンソールで検知できるようにデータの評価が行われます。

OVPA は、特定のシステムの詳細なパフォーマンス データを収集し、指定した間隔で分析用のデータを記録します。OVPA はパフォーマンス データを自己分析し、修正作業を実行したり、または OpenView Operations などの他のツールに通知を送り注意を促したりします。

OVO-EPC と OVPA はいずれも、監視対象システムでそれぞれのデータを記録します。このため、ネットワークや中央サーバーに負担をかけることなく、拡張性を高めることができます。必要に応じてシステムに接続すると、いつでもデータが利用できます。

アプリケーション データは、OpenView Smart Plug-Ins (**SPI**) で捕捉できます。データベース、メール サーバー、主要なアプリケーションなどの監視に、幅広い種類の SPI が使用できます。これらの SPI は、パフォーマンス エージェント (OVO-EPC または OVPA) のいずれかを使用してデータを記録および管理します。

OpenView Reporter 製品 (**Reporter**) は、OVO-EPC と OVPA の両収集プログラムの要約情報を集中的に管理するデータ ウェアハウスを提供します。Reporter は、設計上、パフォーマンス エージェントを保有するシステムを検出し、毎晩データ概要を収集して中央データベースに保存できます。その後、さまざまな方法でシステムのデータをグループ化し、ランク付けしてレポートを作成します。Reporter は、企業内のシステムのパフォーマンスに関する管理レベルの概要を示したレポートを毎晩、新たに生成します。

OVPM は上記のようなすべてのデータソースからのデータにアクセスし、表示できませんが、独自にデータを生成したりアーカイブすることはありません。OVPA のデータを示すグラフを作成する場合など、OVPM は OVPA が実行されているシステムに通信で接続し、OVPA ログ ファイルから直接データを取得します。このデータは**リアルタイムに近いもの**と見なされ、数分間で破棄されます。OVPM のグラフが破棄されると、そのデータは OVPM では維持されません。グラフを再作成する場合、OVPM はシステムにアクセスし、再びデータを取得するため、取得されるデータはその間に記録された新しいものになります。



Reporter 製品からのデータを表示する場合、データは Reporter の中央データベースからアクセスされます。データは単一のシステムについても、複数のシステムについても同時に取得できます。データの詳細度は、Reporter がデータ収集時に実行する集計内容により制限されます。データはシステムから直接取得されないため、Reporter データベース内に集められたデータのみが Reporter データソースからのデータとして表示されます。これは通常は、昨夜までのデータになります。この理由により、Reporter のデータは**非リアルタイム**と見なされます。Reporter データベースからのデータを表示することで、システムがピーク利用時にパフォーマンス データの取得が要求されません。

OVPM 製品は、OVO-EPC または OVPA と対話するために、必要なシステムの名前または IP アドレス、および使用している通信の種類を認識する必要があります。OVPA バージョン 3 以前では、DCE プロトコルまたは NCS プロトコルに基づいて通信が使用されます。OVO-EPC と OCPA バージョン 4 以降では、HTTP プロトコル (内部的には「BBC」または「CODA」と呼ばれる) に基づいて通信が使用されます。システムによりパフォーマンス データソースを 1 つまたは両方を実行することもできます。また、まったく実行していなくてもかまいません。

OVPM の一部のデータソースには、システム名を指定する必要があります。ユーザーがシステム名を入力することもできますが、OVPM 管理者がバッチ ユーティリティまたは OVPM 管理者 GUI を使用してシステム名を入力することもできます。ただし、OVPM がシステム名とシステムで提供されるデータソース名のリストを取得する場合、Reporter からこの情報を入手するのが最も簡単な方法です。Reporter はシステムとシステムのエージェントを検出し、編成してデータベース内に保存します。OVPM が Reporter に接続している場合、OVPM はこのシステム リストにアクセスできます。OVPM の Reporter への接続設定の詳細は、「[Reporter の設定](#)」を参照してください。

Reporter が利用できない場合、または Reporter に認識されていないシステムからのデータを表示する場合、OVPM でシステムをローカルに設定できます。OVPM で直接システムを設定する場合は、[OVPM 管理者インターフェイス](#)を使用します。

システムが設定されると、システムは OVPM ユーザー インターフェイスの「システム名の選択リスト」または「システム選択ツリー」に表示されます。上記のリストまたはツリーでシステムを選択するのが最も簡単な方法です。また、検索を容易にするためにシステムをグループ化する機能や、システムへのアクセスを特定の顧客ログインに制限する機能なども提供します。システムが事前に定義されていない場合、ユーザーがシステム名を手動で入力できます (ログイン ユーザーの権限が制限されていないことが条件です)。手動で入力されたシステム名は保存されず、使用のたびに再入力する必要があります。繰り返し使用されるシステムは、OVPM 管理者が正式に入力する必要があります。

[トップへ戻る](#)

---

## OVO 8 とのセキュアな通信

現在、OVPM とのセキュアな通信のためのオプションを提供しているのは、OVO エージェント バージョン 8.0 以降のみです。今後、他のエージェントもこの機能を搭載

することが望まれます。セキュアな通信により、ネットワークに転送したデータを他のユーザーに見られるのを防ぐだけでなく、エージェントへのアクセスをインストールごとに個別に有効にした OVPM に制限できます。

セキュアな通信は、データ移動時の暗号化と復号化の作業により通常の通信よりも多少速度が遅くなるため、必要なときにのみ使用してください。OVPM インストールの保護の詳細は、「[セキュリティ](#)」のセクションも参照してください。

OVO 8 エージェントとのセキュアな通信を使用するには、以下の手順に従います。

1. セキュアな通信のインストールと設定については、OpenView Operations (OVO) の指示に従ってください。
2. OVO コンソールから、OVO 8 エージェントを OVPM がインストールされているシステムに展開します。そのシステムに、OVO インストールの対象となるシステムグループへの所属のマークがつけます。これによって OVPM は他のエージェントと通信できます。

現在のところ、同じ OVPM システムを使用して、別の OVO コンソールにより展開された OVO エージェントに接続する方法はサポートしていません。この方法は可能ですが、設定時に適切な参照ヘルプで確認するようにしてください。

3. セキュアな通信を使用するシステムごとに、設定を変更し、SSL\_SECURITY を「ALL」に設定します。OVO の手順に従うか、各システムにログインして次のコマンドを実行します。

```
/opt/OV/bin/ovconfchg -namespace coda -set  
SSL_SECURITY ALL
```

セキュアな通信を有効にするその他の方法は、OVO マニュアルの『HTTPS エージェントガイド』を参照してください。

OVPM は現在、セキュアな通信 (https) が要求されるエージェントに対して自動的にこの接続を使用しています。OVPM はセキュアな通信用に設定されていないエージェント、またはセキュアな通信をサポートしていないエージェントに対して通常の接続 (http) を使用しています。エージェントを保護するために通信速度が少し低下する以外、保護されたエージェントでの操作は通常のエージェントと同じです。

[トップへ戻る](#)

---

## システム リストのバッチ エントリ

システムのリストを外部ソースから入力するための機能が提供されています。システムのリストは、2 つの異なるファイルで指定します。

**systemsCODA.txt** OpenView Operations Agent (バージョン 7 以降) および  
OpenView Performance Agent (バージョン 4 以降) を実行してい

るシステムのリストが記述されています。これらのエージェントはすべて HP BBC 通信ライブラリを使用します。

**systemsMWA.txt** DCE または NCS 通信を使用して OVPA を実行しているシステムのリストが記述されています。BBC 通信を使用する OVPA 4 エージェントは、systemsCODA.txt ファイルにリストされます。MeasureWare Agent と VantagePoint Performance Agent もこのファイルにリストされます。

サンプル ファイルは `<install_dir>/newconfig/OVPM` ディレクトリ内にあります。サンプル ファイルはテキスト エディタで編集できます。また、別のソースからスクリプトまたはプログラムにより生成することもできます。ファイルの構文は以下のとおりです。

- 空白行、および記号 # で始まる行は、コメントと見なされます。
- GROUP: で始まる行は、グループ名を指定します。ファイル内でこの行の後に続くシステムは、そのグループのメンバーと見なされます。後続の "GROUP:" 行は、新しいグループを開始します。グループ名は、"GROUP:" キーワードに続けて記述します。  
例: GROUP: Web Servers は、グループ Web Servers を開始します。
- グループ名のエントリがない場合もシステム名を使用できますが、そのシステムはグループに属しません。システム名を使用してもまったく問題ありません。
- コメント行以外のすべての行は、システム名と見なされます。システム名は、名前解決可能な名前である必要があります。システム名が有効であることを確認するには、ping コマンドを使用します。IP アドレスも使用できますが、ユーザーがシステムを選択するときにわかりにくくなります。
- 別の OVPA システムでプロキシされるログ ファイルを表すには、元のシステム名の前に、角括弧で囲んだホスト システム名を付けます。  
[hostname]originalsystem  
は、originalsystem のログ ファイルがシステム hostname 上の OVPA の下にマウントされていることを示します。
- 1 つのシステムが複数のグループに属していてもかまいません。この場合、必要とされる各グループの指定ごとにこのシステムをリストします。同一グループ内に 1 つのシステムを複数回入力しても、各システムは同一グループ内では一度しか表示されません。

systemsMWA.txt サンプル ファイル:

```
#####  
#####  
#systemsMWA.txt file  
#  
# This file contains the names of systems that are running  
the OpenView
```

```

# Performance Agent (OVPA) using DCE or NCS datacomm. OVPA
4 agents using
# the BBC datacomm should be listed in the systemsCODA.txt
file.
# The MeasureWare Agent and the VantagePoint Performance
Agent should also
# be listed in this file.
#
# The systems*.txt files are used to populate the drop
down box on the
# OpenView Performance Manager forms.
#
# Blank lines and lines starting with a pound sign "#"
will be treated as
# comments.
#
# GROUP: lines identify grouping of systems
#
# If you do not have the OpenView Reporter installed, then
you should
# enter the names of the systems to be used in this file
#####
#####
GROUP: Agent MWA
WebServer1
WebServer2
AppServer.city.company.com

GROUP: Web Servers
WebServer1
WebServer2

GROUP: Proxied Logs
[MyHost]bigbird

```

1つのシステムに複数のエージェント (MWA および CODA) がインストールされている場合は、ファイル systemsMWA.txt および systemsCODA.txt 内の同じグループにそのシステムを追加します。片方のファイルにしか存在しないグループにシステムを追加すると、Web フォーム インターフェイスでグループを選択したりグラフを作成する際に予期しない結果が生じる可能性があります。

1. リストしたいシステムを含むようにファイルを編集します。
2. 上記のファイルを <data\_dir>/conf/perf ディレクトリに置きます。

3. OVPM サーバーを再起動します。
4. 次に、OVPM 管理者インターフェイスを実行します。システムはシステム リストに表示されます。手動で編集するか、必要に応じて再度グループ化し、**[保存]** ボタンを押します。

最後の操作により、システムが通常の場合に保存され、システム ファイルの名前の末尾に .bak が追加されて名前が変更されます。ファイル名が変更されるので、OVPM サーバーの起動ごとにシステム名の処理が重複するのを防ぐことができます。 .bak ファイルは必要に応じて削除できます。

---

## ログファイルのプロキシ化

OVPA ログ ファイルを別のシステムに転送し、そのシステムの OVPA エージェント下にマウントした場合、そのログ ファイルは 2 番目のシステムによって「プロキシされている」といいます。プロキシ化されたログ ファイルは、Reporter がプロキシのホストシステムを検出すると、自動的に検出、設定されます。

プロキシ化されたログ ファイルは、システムを追加する場合と同様に手動で追加できます。一時的に追加する場合は、Java インターフェイスの **[追加]** ボタンを使用するか、Web フォーム インターフェイスの **[システム名]** フィールドにシステム ID を入力します。永続的に追加する場合は、OVPM 管理者インターフェイスを使用します。

プロキシ化されたログ ファイルの構文は `[hostsystem] actual/system` です (ここで、`hostsystem` はログ ファイルをホストしているシステムの名前で、`actualsystem` は元のログ ファイルを生成したシステムの名前です)。

[トップへ戻る](#)

---

## Reporter の統合

OVPM と Reporter を併用すると、いくつかの統合が有効になります。OVPM を Reporter と同じ Windows システムにインストールした場合、OVPM は自動的に統合されます。Reporter が OVPM の後にインストールされた場合、または Reporter が別のシステムにインストールされた場合、Reporter データベースを検索するように **OVPMconfig.ini** を変更する必要があります。OVPM と Reporter の両製品は、相互の連携により充実した機能を提供するように設計されています。主な統合領域は以下のとおりです。

- Reporter は、OVPA と OVO\_EPC をインストールしたシステムを検出します。さらに、Reporter はそれらのシステムをオペレーティング システム別にグループ化します (Reporter 管理者は、自動作成されたグループを変更したりグループを追加したりできます)。Reporter で定義されたシステムとグループは、OVPM が統合されると自動的に OVPM で使用できるようになります。

- Reporter (3.0 以上) では、顧客別にシステムを割り当てることができます。Reporter 内で顧客が設定されている場合、OVPM では、その定義を使用して顧客固有のグラフおよび表を作成できます。この機能を使用して、顧客は自分のシステムへのユーザー アクセスを特定できます (詳細は、Reporter と OVIS のマニュアルを参照してください)。

[トップへ戻る](#)

---

## OVPM の Reporter および OVIS との統合の設定

OVPM を Reporter または OVIS と統合するには、OVPM が Reporter と OVIS で使用される Reporter データベースに接続できなければなりません。Reporter データベースは、OVPM からアクセスするには、Oracle または SQL Server である必要があります (デフォルトの MSDE データベースも使用可能)。

**Reporter** 製品と統合するには、`<data_dir>/conf/perf/OVPMconfig.ini` ファイルの [REPORTER] セクションを編集します。サンプル行からコメント記号 ";" を削除し、各自のインストール内容に応じて残りの情報を置き換えます。

例:

```
;;If the Reporter product is installed:
;
[REPORTER]
SYSTEM = Belleview
DSN = reporter
TYPE = sqlserver
USER = openview
PASSWORD = openview
PORT = 1433
MINCONN = 5
MAXCONN = 10
CONNEXPIRE = 60
SLEEPTIME = 2000
MAXRETRY = 30
```

**OVIS** 製品と統合するには、`<data_dir>/conf/perf/OVPMconfig.ini` ファイルの [INTERNET\_SERVICES] セクションを編集します。

```
;; If the OpenView Internet Services product is installed:
;
```

```
[INTERNET_SERVICES]
SYSTEM = SunStroke
DSN = ovis
TYPE = oracle
USER = openview
PASSWORD = openview
PORT = 1521
MINCONN = 5
MAXCONN = 10
CONNEXPIRE = 60
SLEEPTIME = 2000
MAXRETRY = 30
```

上記の各項目の詳細は、[データベース設定項目](#)の表を参照してください。

**メモ:** OVPMconfig.ini ファイルの変更は、ovpm サービスを再起動するまで有効になりません。OVPM 設定を変更した後、ovpm restart コマンドを発行します。

[トップへ戻る](#)

---

## OVPM と Reporter または OVIS 間の統合に関する問題

Reporter または OVIS 5.20 か OVIS 6.0 を使用していて、OVPM 4.x をインストールしてから OVPM 6.0 にアップグレードした場合、サービス グループや顧客のリストといった設定項目は、毎晩設定が更新されるか、OVPM が一度停止された後再起動されるまでは更新されません。URL 要求のたびに、設定は更新されません。

Reporter および OVIS との統合に関する問題の詳細は、『OVPM リリース ノート』を参照してください。

[トップへ戻る](#)

---

## OVIS 制限表示機能の使用

OVIS は 2 つのセキュリティ モデルで使用できます。デフォルトではデータの顧客別分離が有効ですが、パスワード保護は適用されません。このモードでは、お互いにログインを認識していることを条件に、顧客が他の顧客のデータを見ることができます。「すべての顧客」としてログインすることで、ユーザーはすべての顧客のデータを一度に表示することができます。

OVIS には「制限表示機能」と呼ばれるセキュリティ モードもあります。このモードでは、他の顧客のデータを表示する場合、その顧客のパスワードを知らないとデータに

アクセスできません。通常このモードでは、「すべての顧客」としてのログインは、パスワードにより同様に保護されます。

OVIS と併用する場合、OVPM は OVIS の設定に合わせて、いずれかのセキュリティモードで実行できます。これらの注意事項は、OVIS の「グラフ」機能の使用にも適用されます。OVPM と OVIS の両製品はいずれも、共通のグラフ コンポーネントを共有するためです。OVPM リリース 5.0 以降、OVIS と OVPM の手動による同期が必要になる場合があります。

- 制限モードでの実行を OVIS に設定する場合、次の手順が必要です。
  1. OVIS で、顧客名「すべての顧客」にパスワードを追加します。  
その他の顧客のパスワードの追加も推奨されますが、必須ではありません。
  2. OVIS で [制限表示] を有効にします。
  3. OVPM で、OVIS の「すべての顧客」パスワードに合わせて、空白の顧客にパスワードを設定します。
- 無制限モードでの実行を OVIS に設定する場合、次の手順が必要です。
  1. OVIS で [制限表示] を無効にします。
  2. OVIS で、顧客名「すべての顧客」からすべてのパスワードを削除します。
  3. OVPM で空白の顧客のパスワードを空白に設定します。

OVPM が実行されている場合、OVIS 設定で顧客、パスワード、サービス グループが読み取られます。その後、毎朝午前 3 時にこの情報が更新されます。OVIS 設定の上記の領域 (顧客、パスワード、サービス グループ) に変更を加えた場合、OVPM と OVIS の「グラフ」機能には翌日まで変更内容が反映されません。変更内容をすぐに有効にする場合は、OVPM サーバーを再起動する必要があります (コマンド「ovpm restart」を使用)。

[トップへ戻る](#)

---

## Reporter からのシステム グループの除外

Reporter 製品を大規模な構成で使用すると、Reporter が OVPM に提供するシステムとグループの数により、Java ユーザー インターフェイスの初期化速度が低下する可能性があります。5,000 のシステムからなる構成で、各システムが異なる 4 つのグループに定義されているような場合、OVPM Java インターフェイスの [システム選択] ツリーに 20,000 もの項目が表示されることになります。システムがこのくらい多数になると、ツリーにロードするのに 1 分以上かかる場合があります。ロードが完了した後は、Java インターフェイスは通常どおり機能します。

OVPM Java インターフェイスのローディング速度を上げるには、Reporter が OVPM に提供するシステム グループの一部を除外します。この場合は `<data_dir>/conf/perf` ディレクトリのファイル `OVPMExclude.txt` を作成または編集します。OVPM から除外する Reporter グループを、このファイルの各行に 1 つずつ追加します。空白行と # で始まる行はコメントと見なされ無視されます。



## OVPMEexclude.txt サンプル ファイル

```
#####  
#####  
# The following groups, while extremely useful when using  
the OpenView  
# Operations product, are not necessary or helpful when  
they are copied  
# through the OpenView Reporter product and into OpenView  
Performance  
# Manager. Therefore, exclude them from OVPM.  
#####  
#####  
[ITO]AM_NT_PST  
[ITO]AM_NT_QIP  
[ITO]AM_NT_RF
```

Reporter データベースは、OVPM サーバーの起動時に処理され、その後は 1 日に一度処理されます。ファイル OVPMEexclude.txt への変更が反映されていることを確認するには、(コマンド ovpm restart を使用して) OVPM サーバーを再起動する必要があります。

[トップへ戻る](#)

---

## その他のデータベースに対する設定

OVPM は、Reporter データベースと OVIS データベースにアクセスできます。さらに、OVPM は次の基準に適合していれば、その他のデータベースにアクセスすることもできます。

- Microsoft MSDE、Microsoft SQL Server、Oracle 8 または 9。
- 表にデータが時系列に示され、各レコードに正しい日付と時間が指定された日付 / 時間型のフィールドを含む。
- 簡単な表またはユーザーが用意したビューを使用してデータを検索できる。OVPM では表の結合は行われません。
- データベースが過度に複雑ではない。数百以上の表を含むデータベース、または数百以上のメトリックを使用する表を含むデータベースは、処理に異常に時間がかかるため避けてください。
- 適切な量のデータを含む。OVPM はデータベースから要約化されていないデータを引き出します。非常に密度の高いデータを含み、グラフの作成時に数十万ものレコードの処理を必要とするような表は、OVPM を使用しても効率が上がらない場合があります。このような場合、OVPM によってデータベ

ースが選択される前に、ビュー (ストアド プロシージャ) を使用して、データベースでデータが縮約されるような方法を検討してください。

#### 汎用データベースを OVPM データソースとして設定する手順:

1. データベースが実行され、データが含まれていることを確認します。
2. データベースにリモート アクセスが許可され、次に示すような有効な設定データが揃っていることを確認します。

ファイル `OVPMconfig.ini` を編集します。セクション [DB1] から [DB10] を追加して、最大 10 個の汎用データベースを追加できます。該当するセクション フィールドの後に、データベース接続情報を追加します。以下に例を示します。

```
[DB1]
NAME = MyDatabase
SYSTEM = where.is.it.com
DSN = datasource
TYPE = oracle
USER = george
PASSWORD = ofthejungle
SHOWTABLES = SHEP FELLA URSELA *CREATURES
HIDETABLES = REPTILE_CREATURES
PORT = 1521
MINCONN = 5
MAXCONN = 10
CONNEXPIRE = 60
SLEEPTIME = 2000
MAXRETRY = 30
```

上記の項目はすべて [データベース設定項目](#) の表で説明しています。

3. OVPM を終了し、再起動します。OVPM のホーム ページにアクセスし、Web フォーム インターフェイスまたは Java インターフェイスを選択します。OVPM ログで、データベース起動に関する問題が記録されていないかチェックします。

汎用データベースはこれで使用できます。

Web フォーム インターフェイスの [デザイン] タブに、「MyDatabase (DB)」のようなデータソースが表示されます。このデータソースを選択して、データベースに基づいたグラフの作成を開始します。

Java インターフェイスの [デザイン] ウィンドウの [ソース] タブに、ソース ツリーのルートとして DB 項目が表示されます。この DB を展開すると、汎用データベース名のリ

スト (この場合は MyDatabase) が表示されます。必要なデータベースを選択し、[メトリック] タブの [追加] でメトリックを選択してグラフの作成を開始します。

[トップへ戻る](#)

## データベース設定項目

[REPORTER]、[INTERNET\_SERVICES]、および [DB1] - [DB10] のセクションの各オプションを以下に説明します。

SYSTEM	データベースが配置されているシステムの名前
DSN	データソース名 (通常は Reporter)。メモ: Oracle データベースでは、この項目は TNSNAMES.ORA ファイルにあるように SERVICE_NAME に設定します。下記の例を参照してください*。
TYPE	"sqlserver" または "oracle"
USER	データベース アクセスのためのユーザー名
PASSWORD	ユーザーのパスワード
PORT	<p>データベース サーバーがリスンするポート番号。Oracle データベースをホストするシステムの場合は通常 1521 ですが、別のポート番号も使用できます。Reporter が SQL Server データベースを使用している場合は、データベース システムで svrnetcn.exe を実行してポート番号を調べます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データベースがインストールされているシステムで svrnetcn.exe (C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥80¥Tools¥Binn 内にあります) を実行します。</li> <li>2. 使用可能なプロトコルのリストで [TCP/IP] を 1 回クリックして選択状態にします。</li> <li>3. [プロパティ] をクリックすると、ポート番号が表示されます。</li> </ol>
MINCONN	保持するデータベース接続の最小数。デフォルトは 1 です。
MAXCONN	保持するデータベース接続の最大数。デフォルトは 1 です。
CONNEXPIRE	接続が終了されるまでの時間、または自動的に終了して再接続されるまでに接続を確認することができる最大時間 (秒単位)。値 0 (ゼロ) は、接続確認の期限がないことを意味します。デフォルトは 60 秒です。
SLEEPTIME	スレッドが未使用の接続を取得できない場合の、再試行間隔 (スリープ時間、ミリ秒単位)。デフォルトは 2000 ミリ秒です。
MAXRETRY	スレッドが未使用のデータベース接続の取得を試行する最大回数。この回数を超えるとスレッドは接続の取得を中止します。デフォルトは 30 です。

\* Oracle の DSN 例:

# Generated by Oracle configuration tools.

```

DATABASE. EXAMPLE. COM =
  (DESCRIPTION =
    (ADDRESS_LIST =
      (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP) (HOST = example.com) (PORT
= 1522))
    )
    (CONNECT_DATA =
      (SERVICE_NAME = database)
    )
  )

```

この例では、DSN が "database" に設定されます。

**次の項目は汎用データベース、セクション [DB1] - [DB10] でのみ使用します。**

NAME	データベース名。[DB1]-[DB10] にユーザー インターフェイスで認識可能な名前を指定します。NAME を指定しない場合、セクション名 (DB1 など) が使用されます。
SHOWTABLES	<p>このデータソースに表示するデータベースの表およびビューを指定します。表またはビューの名前を空白で区切ってリストしたものを値とします。名前の代わりに、名前を部分的に入力し、その文字列の前か後にワイルドカード、すなわちアスタリスク * を入力することもできます。IOPS* は IOPS で始まるすべての表またはビューに一致します。*XYZ は XYZ で終わるすべての表またはビューに一致します。*ABC* は名前のどこかに ABC を含むすべてのビューまたは表に一致します。比較はすべて大文字または小文字を区別します。</p> <p>SHOWTABLES と HIDE TABLES のいずれの項目も指定しない場合、すべての表およびビューが表示されます。</p>
HIDE TABLES	<p>このデータソースに表示しないデータベースの表およびビューを指定します。SHOWTABLES 項目で説明したように、表 / ビューの名前またはパターンを空白で区切ったリストが値となります。</p> <p>HIDE TABLES が指定され、SHOWTABLES が指定されない場合、HIDE TABLES リストに一致するものを除くすべての表およびビューが表示されます。</p> <p>表が SHOWTABLES と HIDE TABLES の両パターンに一致する場合、この表は非表示になります。</p> <p>例:  SHOWTABLES = IOPS*  HIDE TABLES = IOPS_DETAIL_DATA</p> <p>IOPS_DETAIL_DATA を除く IOPS で始まるすべての表が表示されます。</p> <p>SHOWTABLES と HIDE TABLES のいずれの項目も指定しない場合、す</p>

すべての表およびビューが表示されます。

## Web サーバーの設定項目

WEB\_SERVER セクションの各オプションを以下に説明します。

PORT	OVPM Web サーバーのポート番号です。このポート番号は "OVPM config -port" コマンドで設定されます。デフォルトのポートは 8080 です。
TRACELEVEL	レベルは OVPM の Trace コマンドで設定されます。トレースがオンの場合、レベル 3 に設定されます。オフの場合は、レベル 0 に設定されます。それよりも詳細なトレースは、このレベルを手動で 5 に設定することでオンにできます。ただし、これは問題が発生した場合のトラブルシューティングとして Hewlett-Packard のサポート部門が行います。
REFRESH_RATE	<p>レートは、キャッシュにコピーされたデータソース接続を更新するために OVPM サーバーがエージェントに接続するまでにどの程度の時間が必要とされるかを設定します。OVPM5 バージョンでは、この値は 2 分にハードコードされていました。パフォーマンスを上げるための 1 つの方法として、この値を大きくすることができます。</p> <p>値はミリ秒単位です (たとえば、5 分の場合は <math>5 \times 60 \times 1000</math> の積になります)。OVPMConfig.ini ファイルでこのレートを指定しなかった場合、デフォルトは 5 分に設定されます。</p> <pre>;; Web Server Configuration ; [WEB_SERVER] PORT = 8080 TRACELEVEL = 1 AGENT_REFRESH_RATE = 300000</pre>

[トップへ戻る](#)

---

## フラット ファイル データソース

OVPM フラット ファイル データソースは、外部データを OVPM 製品、特に OVPM Planner 機能に迅速かつ簡単に追加するためのメカニズムです。このファイル形式は基本的には ASCII テキスト ファイルで、各行にレコードが 1 つずつ指定され、行内の各フィールドはタブまたはカンマで区切られています。ファイル上部の特別なヘッダー行では、メトリック名や順序を含むファイルの内容が定義されます。

フラット ファイル形式では、1 つのファイルで複数のメトリックをサポートしています。ファイルのデータソースごとに OVPM に表示されるクラスは 1 つだけです。これは "FILEDATA" と呼ばれます。各インスタンスを区別するために使用できるフィールドを取り込むだけで、複数のインスタンスをサポートできます。

この機能で使用されるファイルは、OVPM サーバー ディスク上に配置してください。クライアントシステムがシステムに固有のファイルにアクセスする場合は、このファイルが OVPM サーバー システムへ送信されるよう設定する必要があります。

#### ファイル例:

```
MDY TIMEp, TempOutside, WindChill, HiTemp, LowTemp, WindSpeed, WindHi, "WindDir", Rain
1/01/05 12:00a, 41.3, 38.6, 41.9, 40.8, 5.0, 16.0, ESE ,0.04
1/01/05 2:00a, 41.6, 41.6, 42.1, 38.9, 4.0, 10.0, ESE ,0.00
1/01/05 4:00a, 39.5, 39.5, 40.4, 38.2, 3.0, 8.0, E ,0.01
1/01/05 6:00a, 40.3, 40.3, 40.5, 40.0, 2.0, 7.0, E ,0.00
1/01/05 8:00a, 40.1, 40.1, 40.6, 39.4, 2.0, 5.0, E ,0.00
```

#### フラット ファイル形式の詳細:

- 各ファイルには、1 つ以上の数値フィールドおよびテキストフィールドから構成される ASCII データが含まれています。
- 先頭のヘッダ行を除き、ファイル内のそれぞれの行がデータ サンプル 1 つに対応しています。
- フィールドの先頭または末尾の空白は無視されます。
- 空白行およびポンド記号 "#" で始まる行は無視されます。

#### ヘッダ行:

- ファイルの先頭行はヘッダ行です。ファイル内のフィールドを識別します。ヘッダ行の各フィールドには、日付 / 時間の指定子またはメトリック名が含まれます。各フィールドは区切り文字 (タブまたはカンマ) で区切られます。二重引用符で囲まれたメトリック名は、このフィールドにテキスト データが含まれることを示します。引用符で囲まれていないメトリック名の場合は、数値フィールドです。
- メトリック名には区切り文字 (スペース、タブ、カンマ) を入れることはできません。
- フラット ファイルの先頭フィールドは、日付 / 時間フィールドです。ヘッダ行の日付 / 時間指定子は、文字 "Y"、"M"、"D" から構成され、日付フィールドの順序で指定されます。  
(YMD = 年、月、日)  
(MDY = 月、日、年) など。

時間指定子は文字列 "TIME" からなり、任意で AM/PM インジケータを含むこともできます。24 時間形式の場合は、"TIME" だけで十分です。12 時間形式の場合は、時間文字列の中で "PM" であることを示すインジケータ (TIMEPM など) を入力します。TIME は独立した列ではなく、日付 / 時間列の一部とみなされる点に注意してください。

日付 / 時間ヘッダー フィールドのサンプル:

ヘッダー	データ
MDY TIMEPM	12/31/05 11:59 PM
YMD TIME	2005-12-31 23:59
MDY	12.31.2005

#### データ行:

- 各フィールドは区切り文字 (タブまたはカンマ) で区切られます。
- テキスト フィールドの中に区切り文字が含まれる場合は、テキスト フィールド全体を二重引用符で囲みます。フィールド内に特殊文字がなければ、二重引用符は任意です。
- 数値データには整数でも浮動小数点でも使用できますが、OVPM 内では浮動小数点として扱われます。
- それぞれの行の先頭フィールドでは、日付は必ず指定しなければなりません。サンプルの時間の指定は任意です。日付には年、月、日を任意の順序で指定でき (ヘッダー行の指定に従う)、年、月、日の間は数値と区切り記号以外の文字で区切ります。

時間形式は時間と分の順序で、その間を数値と区切り記号以外の文字で区切ります。12 時間形式の場合は、末尾に AM/PM インジケータを指定してもかまいません。

- 指定できるデータ行の数には制限はありませんが、データ行の数が増えると、パフォーマンスが低下します。実務上最も効果的なビジネス単位ファイルでは、10,000 行程度です。

#### ファイル名と場所:

フラット ファイルは、簡単に検索および処理できるように、名前には埋め込みスペースを入れず、ファイル名の最後にファイル拡張子 ".bus" (ビジネス単位) を付けます。たとえば、"MyOwnData.bus" のような名前にします。

デフォルトでは、OVPM はログイン顧客のホーム ディレクトリ内で .bus ファイルを探します。

<data\_dir>/conf/perf デフォルトのログインの場合

<data\_dir>/conf/perf/VPI\_Cust\_logonname "logonname" の顧客によるログインの場合

これ以外のファイル名や場所も可能ですが、OVPM ユーザー インターフェイスで提供されるサポート レベルは下がります。

[トップへ戻る](#)

---

## 顧客、ユーザー、ログイン

OVPМ では、データ分離の方法として個々の顧客またはユーザーのみがデータを表示または変更するように、顧客またはユーザーを設定できます。これはオプション **password** を指定した**ログイン**を使用して制御します。顧客とユーザーの設定はさまざまな用途で用いられます。

- データを分離して、OVPМ の特定の**顧客**が別の顧客のデータを見るのを禁止することができます。これは主に、1 つの OVPМ を複数の顧客が共有する ISP のような状況で使用されます。顧客の使用は OVIS のアクセスには必須で、Reporter のアクセスにはオプションです。顧客を使用してシステムアクセスごとにデータを分離する方法は、OVPМ でもオプションです。顧客はパスワードにより不正なアクセスから保護されます。
- 誰かが OVPМ を使用して新しいグラフを作成した場合、サーバー システムに保存できます。このグラフは作成者のログインに基づいて、特定の領域 (sandbox) に保存されます。すべてのユーザーが同じログインを使用している場合、どのユーザーが作成したグラフ定義も表示、変更、削除できます。各顧客はログインが異なるため、顧客ごとに個別のグラフ用の sandbox があります。ユーザーの定義により一意のログインを追加作成でき、各ユーザーに sandbox を個別に割り当てられます。この方法では、別のユーザーのグラフ定義が表示されず、変更できません。ユーザーはパスワードにより不正なアクセスから保護されます。
- OVPМ を使用するユーザーが、グラフ テンプレートの保存または一時的な作成などの OVPМ の高度な機能を使用するのを禁止することができます。これはアクセスの制限されたユーザーを定義することで実現できます。
- 上記の状況が同時に起こる場合があります。このような場合、顧客とユーザーを同時に使用します。

[トップへ戻る](#)

---

### 顧客

OVPМ のデータは、異なる**顧客**に分離できます。各顧客のデータは、オプションのログイン パスワードで保護できます。顧客が別の顧客のデータを表示することは許可されません。

データを顧客別に分離する方法は、データソースにより異なります。**OVIS** のデータソースは、すべてのサービス データを顧客名で分離します。**Reporter** 製品では、異なるシステムから集められたパフォーマンス データを顧客別にグループ化できます。Reporter バージョン 3.0 以降、この機能はオプションです。OVPМ を使用して OVIS または Reporter からのデータを表示する場合、OVPМ は OVIS または Reporter 製品で使用される顧客の分離を実行できます。

**OVPА** と **OVOA** は、現在顧客の分離機能を実装していません。OVPМ は 2 つのエージェントを含むシステムに、2 通りの方法で顧客分離機能を追加します。



1. OVPM に Reporter 製品の使用が設定され、Reporter がシステムを顧客別に分離している場合、OVPM はエージェントからのデータを各システムで同じように分離します。
2. OVPM では、顧客と各顧客に関連付けられるシステムを定義する設定が自動的に行われます。

## デフォルト顧客

OVPM はすべてのデータにアクセスできるデフォルト顧客を必ず定義します。この顧客は All Customers として、または空白の顧客名により指定されます。デフォルト顧客は、不正なアクセスを防ぐためにパスワードの指定を要求するように設定できます。

OVPM を OVIS と併用する場合、OVPM の空白顧客のパスワードは OVIS の「すべての顧客」パスワードと同じものに設定する必要があります。これが特に必要になるのは、OVIS が制限付きビューで実行され、また OVPM が OVIS と同じシステムにインストールされている場合です。

## 顧客による OpenView Internet Services の使用

OVIS は常にデータを顧客別に分離します。一度 OVIS が OVPM にデータソースとして追加されると、OVIS の顧客名を OVPM ログイン時に使用し、その顧客のデータを表示できます。顧客ごとにパスワードを設定する場合は、OVIS 設定マネージャで制限表示機能を設定します。OVPM ログインの間にこのパスワードを使用する場合、OVPM 管理者インターフェイスを使用して空白の顧客のパスワードを空白以外の値に設定します。このパスワードを使用すると、すべての OVIS データにアクセスできます。有効な OVIS 顧客とパスワードを使用して OVPM にログインした場合、その顧客に属するデータのみが表示されます。

**Reporter で OVPM の顧客データを有効にするには、以下の操作を行います。**

1. Reporter データベースを使用するように OVPM を設定します。
2. 顧客のパスワードは Reporter ユーザー インターフェイス (Reporter 3.5 以降) を使用して、または OVPM 管理者インターフェイスを使用して設定できます。OVPM ログインの間にこのパスワードを使用する場合、OVPM 管理者インターフェイスを使用して空白の顧客のパスワードを空白以外の値に設定します。
3. Reporter を使用して顧客を追加します。
4. Reporter を使用して、システムを個々の顧客に割り当てます。

**メモ:** OVPM を Reporter に接続している場合、Reporter の顧客の定義は OVPA と OVO-EPC のデータソースにも適用されます。OVPM 管理者インターフェイスを使用すると、Reporter を使用している場合と全く同じ方法で、顧客を定義して既存の Reporter 顧客にシステムを追加できます。Reporter で定義されている顧客から、システムを削除することはできません。削除する場合は、OVPM ではなく Reporter インターフェイスを使用してください。

## OVPM で OVPA と OVOA の顧客を直接定義する方法

前記以外に、OVPM 管理者インターフェイスを使用して、OVPM がインストールされているシステムで直接このシステムの顧客を設定することもできます ([管理者ユーザーインターフェイス](#) を参照してください)。顧客が Reporter で定義され、さらに直接定義されている場合、OVPM は両方の設定を組み合わせで使用します。

Web フォーム インターフェイスを使用して OVPM にアクセスする場合、ログイン (顧客名) とパスワードを要求する 2 つのフィールドが表示されます。ホーム の Web ページに戻り、別の顧客、ユーザー、またはパスワードを指定します。Java インターフェイスを実行すると、[表示] 画面の左下部に [ログイン] ボタンが表示されます。このボタンをクリックして顧客名、ユーザー、パスワードを変更します。ログイン オプションの詳細は、「[ログイン](#)」セクションを参照してください。

[トップへ戻る](#)

## OVPM ユーザーの定義

OVPM への一意的ログインごとに、グラフ定義を保存および編集するための専用のプライベート領域にアクセスできます。OVPM は最初にインストールされると、ログインが 1 つだけ定義され (空白の顧客)、すべてのクライアントが同じ領域 (sandbox) を共有してグラフを保存します。顧客が定義されると、Reporter または OVPM 管理者インターフェイスにより各顧客に専用の sandbox が割り当てられます。これは、ある顧客が作成したグラフは別の顧客が表示または変更できないことを意味します。OVPM で追加された定義済みのグラフは、顧客が読み出すことはできますが、変更はできません。

顧客とユーザーは [OVPM 管理者インターフェイス](#) で定義します。

sandbox を追加する場合は、ユーザーを定義します。各ユーザーに定義済みのグラフと、ユーザーが保存したグラフが表示されます。他のユーザーが作成したグラフの表示または変更はできません。ユーザー ログインはパスワードで保護され、OVPM 内で特別な機能が使用できるように設定できます。

ユーザーを顧客に接続することができます。この場合、ユーザーへのデータ表示がその顧客に属するデータにのみ制限されます。またはユーザーを空白の顧客に接続し、すべてのデータへのアクセスを許可することもできます。

ユーザーに制限付きアクセスを定義できます。

標準	ユーザーは定義済みのグラフの作成のみ許可されます。また新しいグラフ定義および変更されたグラフ定義の編集と保存も許可されます。保存されたすべてのグラフ定義は、ユーザーの専用の sandbox に保存されます。
読み取り専用	ユーザーは定義済みのグラフの作成のみ許可されます。またグラフのローカルな編集および作成も許可されます。グラフ定義またはグラフの変更内容を保存することは許可されていません。
表示専用	ユーザーは定義済みのグラフの作成のみ許可されます。ユーザー独自のグラフ定義の作成、または既存のグラフ定義の変更は、ローカルであっても許可されていません。

	[表示] タブにはアクセスできますが、[デザイン] タブにはアクセスできません。
エキスパート	エキスパート ユーザーは、さらに高度の OVPM 機能にアクセスできます。高度な機能としては、 <a href="#">クライアント設定</a> 機能の追加項目、より高度のグラフ設計機能を設定できる Java インターフェイス設計モードの [エキスパート] タブへのアクセスなどが挙げられます。

[トップへ戻る](#)

## ログイン

OVPM に顧客もユーザーも設定されていない場合、ログインは必要ありません。OVPM ホーム ページと Java インターフェイスでは、ログイン オプションが表示されません。OVPM に Internet Services が設定されている場合、Internet Services は常に顧客を使用するため、ログイン フィールドが表示されます。

直接 OVPM 管理者インターフェイスを使用して、または Reporter か Internet Services を介して間接的に OVPM に顧客またはユーザーを設定している場合、OVPM でログインとパスワードを入力できます。Web フォーム インターフェイスの場合、OVPM ホーム ページの Web フォーム セクションに、ログインとパスワードを入力するための 2 つのフィールドが追加されます。Java インターフェイスでは、**[ログイン]** ボタンが最初の (表示) ウィンドウの左下に表示されます。**[ログイン]** ボタンを押すと、ダイアログが表示され、ここにログインとパスワードを入力します。

ログインごとに、グラフを保存するための独自の領域が割り当てられます。同じログインを使用するクライアントは、同じグラフ領域を共有します。

ログインには次の種類があります。

ログイン	パスワード	コメント
空白	空白顧客のパスワード	すべてのデータを表示できます。
顧客名	顧客のパスワード	この顧客のデータのみ表示できます。
ユーザー名	ユーザーのパスワード	ユーザーが特定の顧客に属している場合、この顧客のデータのみ表示できます。 ユーザーが空白の顧客 (管理者ユーザー) に属している場合、すべてのデータを表示できます。

## ログイン、ユーザーの定義

OVPM では顧客とユーザーを柔軟な方法で定義できます。より簡単な方法として、次の方式から、希望する OVPM の使い方に最も近いものを選択できます。

## 無制限

セキュリティが問題にならず、OVPM を使用するクライアントの数が少ない場合、またはクライアントが独自のグラフ定義を作成および保存しない場合、OVPM のデフォルト設定を使用できます。この場合、顧客は定義されず、すべてのクライアントが利用可能なすべてのデータを表示でき、ログインが要求されません。

この方式を実行する場合、OVPM 管理者インターフェイスを使用して空白の顧客のパスワードを空白に設定します。

## 顧客のみ

データをグループ別 (顧客別) に分離し、特定の顧客に属する複数のクライアントが個別にグラフを要求する心配がない場合、顧客のみの方式を使用できます。ある顧客のクライアントは、別の顧客が作成したグラフを表示することが許可されません。

この方式を実行する場合、OVIS 製品または Reporter 製品を使用して、または OVPM 管理者インターフェイスを使用して、顧客と顧客がアクセスできるデータを定義します。必要に応じて、顧客のパスワードを割り当てます。ログインごとに、クライアントにクライアントの顧客名および顧客パスワードを使用するように指示します。OVPM 管理者インターフェイスで、必ず空白の顧客のパスワードを空白以外に設定してください。空白に設定されていると、どのクライアントも空白のパスワードを使用して任意の顧客にログインできます。

## ユーザーのみ

データがグループ別に区分されていない場合、ユーザーごとに独自のグラフを保存するためのプライベート領域を割り当てるには、ユーザーのみを定義します。OVPM 管理者インターフェイスを使用して、空白の顧客のフィールドにすべてのユーザーの名前を入力します。クライアントには、それぞれのユーザー名とユーザーパスワードを使用してログインするように指示します。クライアントはすべて OVPM ですべてのデータを表示できますが、各自のグラフを保存する領域が個別に割り当てられます。

## 顧客およびユーザー

顧客とユーザーの両方の設定が必要になる場合があります。データの顧客別分離方法は、OVIS、Repoerter、または OVPM 管理者インターフェイスを使用して定義します。OVPM 管理者インターフェイスでユーザーを定義し、必要に応じてパスワードを割り当てます。空白の顧客の名前の下に定義されたすべてのデータにアクセスできる管理ユーザーと、特定の顧客の下に定義され、その顧客のデータの表示のみが許可されたユーザーを同時に設定できます。すべてのユーザーおよび顧客に、一意の名前を使用するように注意してください。クライアントに、それぞれのユーザー名およびユーザーパスワードを使用するか (グラフ保存用のプライベート領域を持つユーザーまたは特別な制限のあるユーザーの場合)、他のクライアントが共有するグラフ保存領域に、この顧客の顧客名および顧客パスワードを使用するように指示します。

[トップへ戻る](#)

---

## セキュリティ

OVPM セキュリティは以下の方法で設定できます。

1. **OVPM サーバーへの物理的アクセス。**OVPM の機密性の高い機能には、OVPM がインストールされたシステムへの物理的アクセスまたはログインアクセスを要求するものがあります。オペレーティング システムにより、追加的なシステム ログイン セキュリティが必要になる場合もあります。たとえば、Unix サーバーで OVPM を再構成する場合、root 証明書またはスーパーユーザー証明書によるシステムへのログインが必要になります。
2. **OVPM サーバーへのネットワーク アクセス。**クライアントとして OVPM サーバー システムにアクセスする場合、ネットワーク アクセスが必要です。このアクセスは、分離ネットワークまたはファイアウォールを使用することで制限できます。
3. **クライアント認証リスト。**OVPM は[クライアント認証セキュリティ](#)を使用するように設定できます。この場合、OVPM サーバーへのアクセスが試みられるたびに、許可されたシステム名または IP アドレスのリストに従って照合が行われます。このリストにないすべてのクライアントは、アクセスを拒否されます。
4. OVPM の[顧客とユーザーのログイン](#)とパスワードを使用することで、アクセスおよびデータ表示を制限できます。
5. OVPM サーバーの[デフォルト ポート番号](#)の変更。
6. クライアントからの [Secure Sockets \(https\)](#) 通信の使用。

[トップへ戻る](#)

---

### クライアント認証セキュリティの有効化

OVPM は、クライアント接続のオプションの認証を許可しています。たとえば、Web ブラウザや Service Information Portal (SIP) などによる認証です。この認証機能により、どのクライアントに OVPM への接続を許可するかを指定できます。

- 認証されていないユーザーには、次のエラー メッセージが表示されます。  
*"[IP Addr] hostname" からの無許可のアクセスがありました。*
- この情報は、OVPM サーバー上の OVPM ステータス ログ ファイル (`<data_dir>/log/ovpm.0.log`) にも記録されます。

認証は、OVPM サーバー上のデータ ディレクトリ (`<data_dir>/conf/perf`) にファイル `authip_vpi` が存在する場合に有効になります。`authip_vpi` ファイルにリストされているホストからの接続が許可されます。

- `authip_vpi` ファイルが存在しない場合、認証は実行されず、すべてのクライアントからの接続が許可されます。

- データ ディレクトリに authip\_vpi ファイルが存在する場合、その内容により、どのホストでクライアント接続が許可されるかが決まります。OVPM と同じホスト上で実行中のクライアントは、自動的に認証されるのでエントリは不要です。
- authip\_vpi ファイルが空の場合は、OVPM サーバー上で実行中のクライアントのみが接続できます。

OVPM クライアント認証機能には、ユーザーのネットワークが authip\_vpi ファイル内のクライアント エントリを解決できることが必要です。エントリの性質によっては、クライアント認証機能を使用するには DNS または NIS などによって提供されるネーム サービスが必要です。テストするには、OVPM ホストから各 authip\_vpi エントリに正常に ping できることを確認します。クライアント認証は、authip\_vpi ファイル内のクライアント エントリが OVPM ホストから ping 可能であるのと同じ要件で、ファイアウォールを通して実行されます。

authip\_vpi ファイルは、以下の形式に準拠している必要があります。

- 1 行あたり 1 つのクライアント ホストがリストされている。
- クライアント エントリは、以下の形式のいずれかである。
  - 完全修飾ドメイン名
  - エイリアス
  - 4 つの数値をピリオドで区切った IPv4 形式の IP アドレス
  - ワイルドカードを使用したドメイン名 (\* はその位置にある任意の内容を示す)
  - ワイルドカードを使用した IP アドレス (\* はその位置にある任意の内容を示す)
- クライアント エントリは、任意の列から開始できます。
- クライアント エントリには、埋め込みスペースがなくてもかまいません。
- クライアント エントリの末尾にはスペースを付加できます。
- 行内で # に続くものはすべてコメントと見なされ無視されます。
- 空白行または長さがゼロの行は無視されます。

たとえば、次のようなシステムがあるとします。

```
IP アドレス:      123.456.789.1
エイリアス:      testy
ネットワーク アドレス: testbox.group1.thecompany.com
```

authip\_vpi ファイル内の以下のエントリはいずれも、"testbox" ホストのクライアントからの接続を有効にします。

```
123.456.789.1
123.*.*.*
testy
testbox.group1.thecompany.com
*.*.thecompany.com
```

[トップへ戻る](#)

---

## Web サーバーのポート番号の変更

OVPM Web サーバーのポート番号を変更するには、次のように、まず `ovpm stop` コマンドで OVPM Web サーバーを停止した後、`ovpm config` コマンドを実行します。

```
ovpm stop
ovpm config -port <ポート番号>
ovpm start
```

Web サーバーのポート番号を変更する際は、システム上の別のプログラムが使用していないポート番号を選択してください。

Secure Sockets Layer (SSL または https) のデフォルトポートは、ポート 8443 です。このポート番号を変更する場合、多少作業が必要です。Unix の場合はファイル `<install_dir>/OVPM/conf/ovpmserver.xml`、Windows の場合はファイル `<Tomcat_dir>/conf/server/xml` を編集し、"SSL Coyote HTTP/1.1 Connector" エントリ内に含まれるすべての 8443 を変更するポート番号に置き換えます。この作業の後、`ovpm config` コマンド (パラメータは不要) を実行し、`ovpm` を再起動します。

**メモ:**OVPM 5.0 以降では、当初 OVPM に接続するために使われていたのと同じサーバー名で OVPM Web ページが返されます。この方法では、名前変換ファイアウォールの両側で異なる名前を使って OVPM にアクセスできるため、OVPM を再設定する必要はありません。このメカニズムでは、`http:` の代わりに `https:` を指定し、SSL ポート番号 (デフォルトでは 8443) を使用して OVPM と Secure Sockets Layer (SSL) 通信が行えます。

[トップへ戻る](#)

---

## Secure Socket Layer (SSL または https) の使用

OVPM をインストールすると、自動設定により `http` と `https` のいずれのアクセスも可能になります。この場合、`http` ではポート 8080 が、`https` にはポート 8443 が有効



になります。2つのポート番号の変更方法の詳細は、「[Web サーバー ポート番号の変更](#)」を参照してください。

OVPМ 管理者インターフェイスは、OVPМ 設定情報を安全に送信するためにセキュアな通信を必要とします。https を有効にしておく必要がない場合、OVPМ 管理者インターフェイスを実行する前に https を有効にし、後で無効にします。セキュアな通信を無効にするには、以下の操作を行います。

#### Unix ファイル

`<install_dir>/OVPМ/conf/ovpmserver.xml` を編集します。"SSL Coyote HTTP/1.1 Connector" のセクションをコメントアウトします。次に `ovpm config` コマンドと `ovpm restart` コマンドを実行します。

**Windows** ファイル `<Tomcat_dir>/conf/server.xml` を編集します。"SSL Coyote HTTP/1.1 Connector" のセクションをコメントアウトします。次に `ovpm restart` コマンドを実行します。

http を使用して OVPМ を開始する場合:

```
http://<system>:8080/OVPМ
```

OVPМ は通常の (非セキュア) モードで継続的に実行されている必要があります。

https を使用して OVPМ を開始する場合:

```
https://<system>:8443/OVPМ
```

OVPМ はセキュア モードで継続的に実行されている必要があります。

**Tomcat アプリケーション サーバーで SSL または https を使用する場合**、Tomcat のサーバー証明書の取得が要求されます。キーツールと呼ばれる Java SDK プログラムを実行して取得します。この手順の詳細は、Tomcat のデフォルトファイル `server.xml` に記載されています。証明書は OVPМ のインストール時に取得するようにしてください。

さまざまな理由から、OVPМ のインストール時に取得された証明書は変更することができます。

- https を使用して OVPМ に接続する場合、証明書はシステム名と照合され、両方が一致することが確認されます。名前が一致しない場合、ほとんどのブラウザは警告を発行し、ユーザーはこのときに接続を続けるか中断するか決定できます。OVPМ インストール時に使用された名前が、https ユーザーの使用する名前と異なる場合、名前の一致する別の証明書を取得することができます。
- 証明書に多くのフィールドを使って、証明書の発行者に関する情報を指定でき、情報を有効にすることにより安全な動作を保証します。OVPМ インストール時の証明書では、このようなフィールドのほとんどが空白です。表示されるフィールドを使用することで、ユーザーは https アクセスを続けるかどうかを簡単に指定できます。これらのフィールドには各ユーザーの個人的な情報を記入できます。



- 証明書のパスワードは、Tomcat マニュアルで指定されるデフォルトです。デフォルトを変更して、不正な変更を防ぐことができます。

tomcat SSL 証明書を置換するには、以下の操作を行います。

1. 既存の証明書を削除します。  
`<java_dir>/bin/keytool -delete -alias tomcat`  
パスワードは changeit です。
2. 新しい証明書を作成します。  
`<java_dir>/bin/keytool -genkey -alias tomcat -keyalg RSA`  
証明書と keystore の両方にパスワード changeit を使用。
3. OVPM サーバーを再起動します。

[トップへ戻る](#)

---

## 別の方法による OVPM へのアクセス

通常、OVPM には Web ブラウザを使用して OVPM ホーム ページの URL `http://<system>:8080/OVPM` にアクセスします。ここで、`<system>` は実際に OVPM がインストールされているシステムの名前です。

この URL から、ユーザーはオンライン ヘルプと、2 つの標準 OVPM ユーザー インターフェイス、Web フォーム インターフェイスまたは Java インターフェイスのいずれかにアクセスできます。

- [ショートカットと追加機能](#)に使用できる追加 URL があります。
- グラフと表は、直接[コマンドまたはスクリプト ファイル](#)を使用して OVPM サーバーから作成できます。
- データソースからのデータは[テキスト ファイルにエクスポート](#)し、別のプログラムで処理できます。

[トップへ戻る](#)

---

## OVPM への直接リンク

OVPM は Web ブラウザから実行できます。OVPM がインストールされているシステムから実行することも、それ以外のシステムから実行することも可能です。OVPM ホーム ページの URL

`http://<system>:8080/OVPM`

にアクセスします。ここで、<system> は実際に OVPM がインストールされているシステムの名前です。

セキュアな通信を使用して OVPM にアクセスするには、https を使用します。  
https://<system>:8443/OVPM

http://<system>:8080/OVPM/PMJavaUI.htm  
OVPM ホーム ページを省略し、直接 Java インターフェイスを起動します。

http://<system>:8080/OVPM/ReleaseNotes.html OVPM リリース ノートを表示します。

http://<system>:8080/OVPM/Help/C/Administrator.htm このドキュメント、管理者のマニュアルを Web ページ形式で表示します。

http://<system>:8080/OVPM/Analyzer?-GETNEWFORM:%20-NUMBEROFMETRICLINES:%201%20-FORMTEMPLATE:%20VPI\_StandardForm.txt%20-GRAPHTEMPLATE:%20"VPI\_GraphsAgents.txt"%20-ONLYNONDSN:%20-SKIN:%20%20-CUSTOMER:%20""%20-PASSWORD:%20""  
非常に長い URL ですが、Web フォーム インターフェイスが直接実行されます。この URL を少し変更するだけで、Web フォームの制御を向上できます。

- GRAPHTEMPLATE:%20"VPI_GraphsAgents.txt"	表示する初期グラフ テンプレートを指定します。
-SKIN:%20"Shifts"	「Shifts」スタイルの Web フォームの使用を指定します。
-SKIN:%20"StartDate"	「StartDate」スタイルの Web フォームの使用を指定します。
-CUSTOMER:%20"customer"	ログイン名を指定します (顧客名かユーザー名になります)。
-PASSWORD:%20"password"	ログイン パスワードを指定します。
-FORMTEMPLATE:%20VPI_DesignForm.txt	[表示] タブではなく、[デザイン] タブからの起動を指定します。 メトリックの行を 1 ではなく 8 に指定する場合は、- NUMBEROFMETRICLINES:%208 を指定します。

[トップへ戻る](#)

---

## バッチによるグラフの実行

通常、OVPM は、Web ブラウザまたはその他のアプリケーションからの要求により Web サーバー経由で実行されます。グラフを他の方法で処理できるように、OVPM によるグラフの事前生成が必要な場合もあります。定期的にグラフを生成し、それらを電子メールで送信するか、他のアプリケーションに移動することができます。作成に長時間を要するグラフは、オフ ピーク時間に生成すれば直接アクセスできるようになります。ここでは、コマンドライン インターフェイスまたはスクリプトから OVPM を実行する方法を説明します。

#### テクニックの要約:

ovpmbatch スクリプトを実行し、コマンドラインでパラメータを指定してグラフおよびその他の必要な情報を選択します。最低限必要な情報は、グラフ テンプレート ファイルおよびグラフ名です。グラフに使用されるデータソースによっては、システム名などの追加情報の指定も必須です。以下に例を示します。

```
<install_dir>/bin/ovpmbatch  
GRAPHTEMPLATE=Agents GRAPH="Global History"  
SYSTEMNAME=testsys1
```

#### 構文 の説明

GRAPHTEMPLATE=Agents	グラフ テンプレート ファイルです。
GRAPH="Global History"	グラフ名です。空白を含むので、二重引用符で囲まれています。
SYSTEMNAME=testsys1	グラフがデータを取得するシステムを指定します。このパラメータが必須かどうかは、グラフによって異なります。

ovpmbatch スクリプトの出力は、OVPM Web サーバーからアクセスできる作業領域に書き込まれます。ovpmbatch コマンドが正常に終了すると、このグラフの URL が表示されます。例:

```
Location:  
http://localhost:8080/OVPM/datafiles/VPI_All_C  
ustomers/ Global_History/7_day/admin/graph.htm
```

ディレクトリに出力するには、文字列の最初のパート、すなわち datafiles/ までを Unix の場合は "<data\_dir>/datafiles/ovpm" に、Windows の場合は "<install\_dir>\www\webapps\OVPM\datafiles" に置換します。この例の場合は次のようになります。

```
<data_dir>/datafiles/ovpm/VPI_All_Customers/  
Global_History/7_day/admin/graph.htm
```

これは Web ページの HTML の名前です。その他のファイルも同じディレクトリに保存されます。

パラメータ "outputdir=<directory>" を指定することで、各自で選択したディレクトリに出力先を変更できます。出力先のディレクトリが存在しない場合は作成されます。outputdir を指定すると、通常は標準出力に送られる出力が、指定したディレクトリのファイル stdout.txt に送られます。

その他のパラメータの詳細は、「[キーワード](#)」を参照してください。

## HTML グラフ

ovpmbatch は、通常のグラフを作成するとき、HTML ファイルおよび必要な png 画像ファイルを作成し、HTML ファイルの場所を表示します。

次のコマンドを入力すると、  
ovpmbatch *parameters*

ovpmbatch は次の URL を出力します。  
http://<servername>:<port>/OVPM/.../graph.htm

このような形式で場所が示されるため、別のシステムから Web サーバー経由で Web ページにアクセスできます。この情報の使用方法についての詳細は、「[出力ファイルとディスク容量の管理](#)」を参照してください。

別のユーザーがまったく同じグラフを生成すると、元のグラフ ファイルは上書きされません。したがって、ファイルを作成したら、出力ディレクトリを指定するか、即座にファイルを移動することをお勧めします。

## HTML 表

ovpmbatch は、HTML テキストの表出力が graph.htm ファイルに書き込まれます。

## Java のグラフおよび表

ovpmbatch 機能を使用して、Java のグラフと表を作成、表示できます。グラフを表示する場合、ovpmbatch コマンドは、表示されているグラフが閉じられるまで保留されます。

Java のグラフまたは表を表示するには、通常のパラメータを使用してグラフまたは表を生成した後、さらにパラメータ "JAVAGRAPH=2" を追加します。

```
export DISPLAY=mysystem:0.0
<install_dir>/bin/ovpmbatch
```

```
GRAPHTEMPLATE=Agents GRAPH="Global History"  
SYSTEMNAME=testsys1 JAVAGRAPH=2
```

[トップへ戻る](#)

---

## テキスト ファイルへのエクスポート

OVPМ には、バッチ操作専用の特別な機能があります。グラフまたは表のデータは、グラフ タイプを上書きすることによりテキスト ファイル形式で記述できます。以下のタイプのテキスト ファイルが提供されています。

**XML** OVPМ は、XML 出力を作成するとき、その出力を標準出力に出力します。これをスタンドアロンで使用するときは、標準出力をディスク ファイルにリダイレクトする必要があります。

```
ovpmbatch parameters >myfile.xml
```

または

```
ovpmbatch outputdir=mydir parameters  
(ファイル stdout.txt が作成される)
```

これらの行を削除すると、ファイルの最初の行は `<?xml version="1.0" ?>` になります。

ovpmbatch コマンドラインにパラメータ "GRAPHTYPE=XML" を含めることにより、すべての通常のグラフからの出力を強制的に XML にすることができます。

**CSV** カンマ区切り (GRAPHTYPE=CSV)。ファイル内の各アイテムは、カンマによって直前のアイテムと区切られます。この形式は、スプレッドシートやデータベースなどのさまざまなアプリケーションへのインポートに使用できます。ロケールが小数点区切り文字にカンマを使用して数字をフォーマットする場合、CSV 出力の小数点区切り文字は、フィールド区切り文字と重複しないようにピリオドに置き換えられます。

**TSV** タブ区切り (GRAPHTYPE=TSV)。各アイテムは、タブ文字によって直前のアイテムと区切られます。この形式も、各種アプリケーションへの入力に使用できます。データが列に整列されて見えることが多いので、視覚的に優れています。

これらのタイプのテキスト ファイルでは、各レコードの末尾は改行文字によって指定されます。数値は数字として表示され、小数点が付加される場合もあります。テキスト値は二重引用符で囲まれます。日付および時間の値は、OVPМ サーバー上の日付および時間の設定に従って表示されます。

テキスト ファイル出力を指定するには、パラメータ "GRAPHTYPE=CSV" または GRAPHTYPE=TSV を含めます。出力は標準出力に書き込まれるので、それをディ

スクファイルにリダイレクトする必要があります。たとえば、ovpmbatch コマンドを入力すると以下のようなパラメータが表示されます。

```
<install_dir>/bin/ovpmbatch  
graphtemplate=Agents graph="Global History"  
SYSTEMNAME=testsys1 GRAPHTYPE=CSV >myfile.csv
```

```
<install_dir>/bin/ovpmbatch  
graphtemplate=Agents graph="Global History"  
SYSTEMNAME=testsys1 GRAPHTYPE=TSV >myfile.tsv
```

Web ブラウザが処理できるレコード数は制限されています。ポイント数が、HTML の場合は 1024、Java の場合は 2048 を超えるグラフは作成できません。多くの Web ブラウザでは、表のレコード数が 2,000 ~ 3,000 を超えると動作が停止することがあります。このため、OVPM は 1 つの表のレコード数の上限を 5000 としています。個々のグラフおよび表は、NUMBEROFPOINTS キーワードを使用して制限を指定できます。この値は、ovpmbatch のパラメータに "NUMBEROFPOINTS=value" を追加して上書きできます。

テキスト ファイル出力は Web ブラウザのパフォーマンスによる制約を受けないため、CSV および TSV 出力のレコード数の上限は 100 万にまで増やすことができます。エクスポートするレコードの最大数を増やすには、1 ~ 1000000 の間の希望の数字を、パラメータ "NUMBEROFPOINTS=" に続けて指定します。この場合、"POINTSEVERY=" パラメータを指定して、希望の集計方法レベルを取得する必要があります。

[トップへ戻る](#)

---

---

## OVPM の保守

管理者の作業には、各ユーザーの OVPM システムの出力ファイルおよびディスク容量の管理が含まれます。日常の保守の一部は自動化されています。

---

### 出力ファイルとディスク容量の管理

HTML グラフを生成すると、グラフ生成に使用したパラメータに基づいて、HTML ファイルと PNG ファイルがディレクトリに格納されます。"outputdir" パラメータを指定していない場合は、ovpmbatch を実行すると、HTML ファイルの場所が標準出力に書き込まれます。次のコマンドを実行すると、

```
<install_dir>/bin/ovpmbatch
graphtemplate=Agents graph="Global History"
systemname=mysys.home.com
```

表示結果は以下のようになります。

```
Location:
http://localhost:8080/OVPM/datafiles/VPI_All_C
ustomers/
GlobalHistory/7_Days/mysyshomecom/graph.htm
```

Location: に続く完全な URL をブラウザで指定することにより、Web ページを呼び出すことができます。

ユーザーのシステム ディスク上でこれらのファイルを検索するには、最初の部分

```
"Location:
http://localhost:8080/OVPM/datafiles/"
```

を Unix システムの場合は  
"*<data\_dir>/datafiles/ovpm/"*、

Windows の場合は  
"*<install\_dir>%www%webapps%OVPM%datafiles"* に置  
き換えます。

この例の場合は、ファイルは次の場所にあります。

```
<data_dir>/datafiles/ovpm/VPI_All_Customers/
GlobalHistory/7_Days/mysyshomecom/
```

- HTML ファイルの名前は graph.htm です。
- 最初のグラフ画像はファイル graph.png にあります。
- ほかにグラフ画像がある場合は、それらの画像の名前は graph1.png、graph2.png のようになります。

なお、これらのファイルはディスク容量を再利用するために定期的に削除してください。OVPM は日常的な保守を実行し、不要になったファイルやディレクトリ、および 24 時間アクセスされていないデータソースを閉じるといったその他のクリーンアップのディスク容量を再活用します。この保守は毎日現地時間の午前 3 時に実行されるようにスケジューリングします。詳細は「[日常的な保守](#)」を参照してください。

[トップへ戻る](#)

---

## 日常的な保守

OVPM は日常的な保守を実行し、不要になったファイルやディレクトリ、および 24 時間アクセスされていないデータソースを閉じるといったその他のクリーンアップのディスク容量を再利用します。この保守は毎日現地時間の午前 3 時に実行されるようにスケジューリングします。

「[出力ファイルとディスク容量の管理](#)」のセクション

で説明しているグラフ ファイルは、24 時間アクセスされない場合自動的にクリーンアップされます。これらのファイルのいずれかを残しておきたい場合、別のディレクトリにバックアップします。

ディスク容量のクリーンアップは、すでに有効なものとして設定されなくなった顧客およびユーザーに対しても行われます。顧客およびユーザーごとに、顧客またはユーザーのグラフを格納するディレクトリが作成されています。これらのディレクトリとディレクトリ内のファイルは、顧客またはユーザーが設定されなくなると自動的に削除されます。

顧客またはユーザーを削除した後もこれらのファイルを残しておきたい場合は、次のディレクトリに移します。

- 顧客ごとに、次の設定ディレクトリがあります。  
<data\_dir>/conf/perf/VPI\_CUST\_<customername>
- 空白の顧客については、次の場所にユーザー ディレクトリがあります。  
<data\_dir>/conf/perf/VPI\_USER\_user
- 特定の顧客のユーザーについては、次の場所にユーザー ディレクトリがあります。  
<data\_dir>/conf/perf/VPI\_CUST\_<customername>/VPI\_USER/user

次のメッセージが OVPM ステータス ファイルに記録されます (ステータス ファイルの確認方法の詳細は、「[OVPM サーバーのトラブルシューティング](#)」のセクションを参照してください)。

```
毎日のデータソース メンテナンスの実行:  
設定の更新を実行します。  
データベースで、145 個の一意的システムが 0.54 秒で見つかりま  
した。  
データソース メンテナンスの終了: 8 個のファイル/ディレクトリ、  
17561 バイトをクリーンアップしました。
```

[トップへ戻る](#)

---

---

## グラフ テンプレート ファイルの高度な操作



ほとんどのグラフの指定は、OVPM ユーザー インターフェイスのいずれかを使用して入力できます。

これらのインターフェイスでサポートされない指定がいくつかあるため、[グラフ テンプレート ファイルの手動編集](#)が必要になります。

この場合でも、グラフ テンプレート作成のほとんどの作業は標準の OVPM ユーザー インターフェイスを使用して行い、必要な項目のみ手動による編集を行います。

このような機能は、通常、高度な性質を持ち、OVPM の動作に対して通常の OVPM エンド ユーザーに要求されるよりも高度な理解が必要とされます。

OVPM ユーザー インターフェイスを使用する場合、グラフは特定の領域に保存され、グラフを作成したユーザーはここでグラフを変更したり、または削除を行います。

ユーザーが作成したグラフを、すべてのユーザーが OVPM 定義済みグラフのように読み取り専用モードで利用できるようにする場合、OVPM 管理者は[ユーザー定義のグラフを恒久的グラフ領域に移動](#)できます。

OVPM サーバーはパラメータ集合を使用して実行されます。これらのパラメータは、グラフ定義テンプレートを構成するもので、バッチ機能で使用される以外にグラフの新規作成に URL 内で使用されます。

このような領域では、[OVPM キーワードとその用途](#)が正しく定義されていれば役立ちます。

[トップへ戻る](#)

---

## グラフ テンプレート ファイルの直接編集

通常、グラフの作成には Java インターフェイスか Web フォーム インターフェイスを使用します。

新しいグラフをゼロから作成する方法と、定義済みのグラフやユーザーが作成したグラフを必要に応じて修正し、新しいグラフとして保存する方法があります。

定義済みグラフは置き換えたり削除することはできません。ユーザーが Web から修正できるのは、Web インターフェイスを使用して保存したグラフ テンプレートだけです。

また、計算式などの Java でサポートされていない機能を使用する場合には、vi やメモ帳などのテキスト エディタを使用してグラフを作成することもできます (ただし、これは稀なケースです)。このような機能を使用するには、グラフ定義を手動で編集する必要があります。グラフ定義を手動でゼロから作成することもできますが、ユーザー インターフェイスで基となるグラフ定義を作成して保存し、その後で複雑な機能を手動で追加すると時間を節約できます。

エキスパートとして定義されているユーザー ([「ユーザーの定義」](#)を参照してください) の場合、このような機能の多くを Java インターフェイスの設計モードの [エキスパート] タブから使用できます。

グラフ テンプレート名はすべて VPI\_Graphs\*.txt になり、OVPM サーバー システムの異なるディレクトリに置かれます。

定義済みグラフ	<install_dir>/newconfig/OVPM
空白ログインのためのユーザー グラフ	<data_dir>/conf/perf
空白の顧客、非空白ユーザーのためのユーザー グラフ	<data_dir>/conf/perf/VPI_USER_user
顧客グラフ	<data_dir>/conf/perf/VPI_CUST_customer
顧客に属するユーザーのためのユーザー グラフ	<data_dir>/conf/perf/VPI_CUST_customer/VPI_USER_user

Web ブラウザ インターフェイスは、すべてのディレクトリから読み出すことができますが、ファイルを書き込むことができるのは <data\_dir> ディレクトリのみです。Web フォーム インターフェイスの便宜上、data ディレクトリ内のすべてのファイルの名前は "VPI\_GraphsUser" で開始します。これらのファイルは Web フォーム インターフェイスでは "User..." のように表示されるようになっています。これは、定義済みグラフ テンプレート ファイルとまったく同じ名前のグラフ テンプレート ファイルをユーザーが作成しないようにするためです。Java インターフェイスでは、グラフ テンプレート ファイル名の代わりに「ファミリ」と呼ばれる文字列が表示されます。

**注意:**

グラフ テンプレート ファイルを手動で編集する場合は、以下の条件を守るように注意してください。

- すべてのグラフの名前は VPI\_Graphs で開始し、末尾には拡張子 .txt を付けること。この条件を満たしていない名前のファイルはグラフ テンプレート ファイルとして認識されません。また、前述したとおり、ファイルは newconfig または data ディレクトリのいずれかに保存してください。
- newconfig ディレクトリには、名前が VPI\_GraphsUser で始まるグラフ テンプレート ファイルを保存しないこと。この接頭辞は data ディレクトリ内のユーザーが作成したファイルにのみ使用できます。
- data ディレクトリ内のグラフ テンプレート ファイルには接頭辞 VPI\_GraphsUser を付けない (VPI\_Graphs のみを使用する) ことも可能ですが、newconfig ディレクトリと data ディレクトリに同じ名前のグラフ テンプレート ファイルが存在していないことを確認してください。
- ファイル内の "FAMILY:" パラメータにまったく同じ文字列を使用しているグラフ テンプレート ファイルを 2 つ作成しないこと。このような状況でも処理は行われますが、同一のグラフ ファミリが 2 つあると、Java インターフェイスでわかりづらくなります。
- **警告:** newconfig ディレクトリ内の VPI\_Graphs テンプレート ファイルは更新しないでください。デフォルトのグラフを変更する場合は、別のファイル名でコピーを作成した後、その新しい名前で独自のテンプレートとして使用してください。これはデフォルトのファイルは製品アップデートで置き換えられるためです。

グラフ テンプレート ファイルの形式は、プレーン テキスト ファイルです。行の長さは 2000 文字より短くし、各行の末尾に改行記号を付けます。

その他の形式設定情報はファイル内に保存できません。  
 テンプレート ファイル内の行は、以下のカテゴリのいずれかに該当します。

コメント	空白行、またはポンド記号 # で始まる行は、コメントと見なされ無視されます。
単一行キーワード	ほとんどの行にはキーワード (すべて大文字、末尾にコロン : 付き) と 1 つ以上の空白が含まれ、また、値が含まれる場合もあります。
複数行キーワード	<p>一部のキーワードには、複数行にわたる値を指定できます。1 つのキーワード ("GRAPHHEADER:" など) でエントリが開始し、終了キーワード ("END_GRAPHHEADER:" など) までのすべての後続行は値の一部と見なされます。この場合、キーワードは単独の行に置く必要があります。以下に例を示します。</p> <pre> GRAPHHEADER: This is my graph header END_GRAPHHEADER: </pre> <p>次の例は正しく機能しません。</p> <pre> GRAPHHEADER: My header END_GRAPHHEADER: </pre>

単一のグラフまたは表を定義するキーワードは、"GRAPH:" キーワードと "END\_GRAPH:" キーワードの間に置きます。  
 一部のキーワードは、最初のグラフ定義または表定義の開始よりも前に置くことができます。  
 そのようなキーワードは、グラフ テンプレート ファイル全体に適用されます ("FAMILY:" など)。

グラフ定義ファイル内で使用できるすべてのキーワードの説明と使用方法は、「[キーワード](#)」を参照してください。OVPM に付属している定義済みグラフ テンプレートの内容も、グラフ作成時の参考になります。

[トップへ戻る](#)

## ユーザーが設計したグラフの恒久的な使用

OVPM ユーザー インターフェイスを使用して作成および保存されたグラフは、data ディレクトリに書き込まれます (さまざまなログインのファイルを探す方法は、「[グラフ テンプレート ファイルの直接編集](#)」セクションの[表](#)を参照してください)。

<data\_dir> ディレクトリのグラフ定義は、正しいログインおよびパスワードを知っていれば、OVPM のどのユーザーでも変更または削除できます。OVPM ユーザーは別のログインに属するグラフの読み出し、変更、保存が行えません。

これに対し、定義済みグラフは OVPM ユーザー インターフェイスから修正できません。

newconf ig ディレクトリにある定義済みグラフは、読み取りは可能ですが、OVPM インターフェイス ユーザーが変更することはできません。

ユーザー定義のグラフも、data ディレクトリから newconf ig ディレクトリに移動するだけで、修正が不可能な状態にすることができます。ただし、この場合は以下のルールに従ってください。

- これらの操作が可能なのは、OVPM がインストールされているシステムにログインしているユーザーだけです。操作はシステム コマンドとテキスト エディタ (vi やメモ帳など) を使用して行います。Web からは実行できません。これにより、「修正不可能」なグラフ テンプレートを修正しようとするユーザーが OVPM システムの物理的なセキュリティとログイン セキュリティを通過するのを防ぎます。
- 同一のグラフ テンプレート ファイルに基づくグラフにはすべて同じセキュリティが設定されます。グラフが別のファイルのものでない限り、一部のグラフのみ保護するということではできません。1 つのグラフのみ保護したい場合は、テキスト エディタを使用してそのグラフを別のファイルにコピーする必要があります。
- 定義済みグラフを編集する場合は、トラブルシューティングの目的でバックアップ コピーを作成してください。コピーを作成し、ファイル名を VPI\_Graph<name>. txt の命名方式に反する名前に変更します。こうすることで、このファイル (元のファイル名は VPI\_Graph<name>. txt) は OVPM ユーザー インターフェイスに表示されなくなります。「警告」を参照してください。
- newconf ig ディレクトリ内のグラフ テンプレート ファイルには、data ディレクトリにあるファイルと同じ名前を付けないでください。

Web インターフェイスで作成したすべてのグラフ テンプレート ファイルには VPI\_GraphUser <name>. txt という名前が付けられるため、newconf ig ディレクトリ内のグラフ テンプレートには User を指定しないでください。

**ユーザー グラフ テンプレート ファイルを、名前変更でファイル名の User の部分を削除せずに、単に data ディレクトリから newconf ig ディレクトリにコピーしないでください。**

- 2 つの異なるグラフ テンプレート ファイルに同じファミリ名 ("FAMILY:") を使用するの、通常はお勧めしません。Java インターフェイスでわかりづらくなるためです。

グラフを移動するには、以下の操作を行います。

1. 一度グラフを保存した後、vi やメモ帳などのテキスト エディタを使用してユーザー テンプレート ファイルを開きます。  
ユーザー テンプレート ファイルは、ユーザーのログインに基づいて `<data_dir>` ディレクトリに保存されます (表 を参照してください)。
2. 目的のグラフを検索し、GRAPH: 行と END\_GRAPH: 行を含めてその間にあるすべてのテキストをコピーします。
3. ファイルを新規作成するか、このテキストを定義済みグラフ領域 (newconfig) 内の既存のファイルに追加します。  
このファイルの名前は  
VPI\_Graph<name>.txt です。 <name>  
は、ファイル内のすべてのグラフの一般領域を識別します。  
「警告」を参照してください。
4. このファイルは、ユーザー テンプレート ファイルが格納されている  
`<data_dir>/conf/perf` ディレクトリではなく、  
`<install_dir>/newconfig/OVPM` ディレクトリに保存します。

まとめ: ユーザーが生成したグラフを data ディレクトリで検索し、前述したようにファイル名とファミリを変更して、newconfig ディレクトリに保存します。変更内容は即座に Web ユーザーに表示されます (現在アクティブなユーザーは表示を更新する必要があります)。

[トップへ戻る](#)

---

---

## OVPM インターフェイスの外観のカスタマイズ

OVPM は十分に設定されていますが、特定の様相をカスタマイズして、個人の好みに合わせて外観を調整することができます。このような変更の多くは、ログインごとに設定できます。OVPM 管理者は次の機能を変更できます。

- バックグラウンド色、サブタイトルなどのデフォルトのグラフ設定。
- Java インターフェイスの外観は、通常は実行しているクライアントに合っていますが、Windows、Motif、Metal 様式に設定することもできます。
- Web フォーム インターフェイスを変更して、会社のロゴの表示、カラー スキーマの変更、使用しないフィールドの削除ができます。

[トップへ戻る](#)

---

---

## スタイル ファイルによるデフォルト設定

スタイル ファイルはグラフ パラメータを上書きしたり、デフォルト値を指定したりします。スタイル ファイルは、各グラフを個別に変更せずに、すべてのグラフのパラメータをリ

セットするのに使われます。システムには複数の VPI\_Style.txt ファイルがありますが、使用されるファイルは、ユーザーが OVPM にログインした方法により異なります。OVPM は次の順序でスタイル ファイルを検索します。

1. ユーザーの "sandbox" のログイン ユーザー ファイル。  
<data\_dir>/conf/perf/VPI\_CUST\_customer/VPI\_USERuser/VPI\_Style.txt
2. ログイン顧客の "sandbox"。  
<data\_dir>/conf/perf/VPI\_CUST\_customer/VPI\_Style.txt
3. <install\_dir>/newconfig/OVPM/language/VPI\_SKINskin/VPI\_Style.txt の "ローカライズされたスキン" ファイル。
4. <install\_dir>/newconfig/OVPM/language/VPI\_Style.txt のローカライズされたデフォルト ファイル。
5. <install\_dir>/newconfig/OVPM/VPI\_SKINskin/VPI\_Style.txt のデフォルト "スキン" ファイル。
6. <install\_dir>/newconfig/OVPM/VPI\_Style.txt のデフォルト ファイル。

最初に見つかったスタイル ファイルのみが使用されます。他のファイルはすべて無視されます。

- システムのすべてのユーザーにスタイルを設定する場合、デフォルト ファイルでスタイルを設定します。
- 特定の顧客のすべてのユーザーにスタイルを設定する場合は、顧客の "sandbox" でスタイルを設定します。
- 特定のユーザーにのみスタイルを設定する場合は、ユーザーの "sandbox" でスタイルを設定します。
- 特定の Web フォームの "スキン" を使用する場合にのみ適用されるスタイルを設定する場合は、このスタイルを Skin ディレクトリで設定します。

VPI\_Style.txt ファイルには、グラフ テンプレートのすべての設定を上書きする **キーワード** およびそれらの設定が含まれていなければなりません。**注意:** 以下の表に示すキーワード以外のものを使用すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

スタイル ファイルの使用例を次に示します。

グラフおよび表のデフォルトバックグラウンドの設定	<b>GRAPHBACKGROUND:White</b>
すべての折れ線グラフのマーカーの無効化	<b>NOMARKERS:</b> または <b>MARKERS: No</b>
Java グラ	<b>NOTOOLBAR:</b> または <b>TOOLBAR: No</b>



フのツールバーの無効化	
デフォルトのデータソースおよびグラフテンプレートの設定	<b>DATASOURCE: IS</b> <b>GRAPHTEMPLATE: VPI_GraphsVPIS.txt</b>
Java グラフの最大ポイント数の設定	<b>JAVAGRAPHPOINTS: 2048</b>  Java グラフの最大データ ポイント数は 2048 ポイントです。この値を使用して、表示の精度と速度のバランスを取るために NUMBEROFPOINTS が制限されます。グラフごとに固有の NUMBEROFPOINTS 値を定義できます。実際の制限値は、グラフ定義とこの制限値のいずれか小さいほうになります。  <b>注意:</b> この値を大きく設定すると、Java グラフの生成時にデータ ポイント数が多くなり、一部のクライアントでメモリが不足する可能性があります。また、処理するデータ ポイント数が多くなり、グラフの表示速度が低下することもあります。
Java 表の最大ポイント数の設定	<b>JAVATABLEPOINTS: 5000</b>  Java 表の最大データ ポイント数は 5000 ポイントです。この値を使用して、表示の精度と速度のバランスを取るために NUMBEROFPOINTS が制限されます。グラフごとに固有の NUMBEROFPOINTS 値を定義できます。実際の制限値は、グラフ定義とこの制限値のいずれか小さいほうになります。  <b>注意:</b> この値を大きく設定すると、Java 表の生成時にデータ ポイント数が多くなり、一部のクライアントでメモリが不足する可能性があります。また、処理するデータ ポイント数が多くなり、表の表示速度が低下することもあります。場合によっては、多数の行と列がある表では、アプリケーションが大量の CPU を消費してフリーズすることもあります。
HTML グラフの最大ポイント数の設定	<b>HTMLGRAPHPOINTS: 1024</b>  HTML グラフの最大データ ポイント数は 1024 ポイントです。この値を使用して、表示の精度と速度のバランスを取るために NUMBEROFPOINTS が制限されます。グラフごとに固有の NUMBEROFPOINTS 値を定義できます。実際の制限値は、グラフ定義とこの制限値のいずれか小さいほうになります。  <b>注意:</b> この値を大きく設定すると、HTML グラフの生成時にデータ ポイント数が多くなり、一部のクライアントでメモリが不足する可能性があります。また、処理するデータ ポイント数が多くなり、グラフの表示速度が低下することもあります。
HTML 表の最大ポイント数の設定	<b>HTMLTABLEPOINTS: 5000</b>  HTML 表の最大データ ポイント数は 5000 ポイントです。この値を使用して、表示の精度と速度のバランスを取るために NUMBEROFPOINTS が制限されます。グラフごとに固有の NUMBEROFPOINTS 値を定義できます。実際の制限

	<p>値は、グラフ定義とこの制限値のいずれか小さいほうになります。</p> <p><b>注意:</b> この値を大きく設定すると、HTML 表の生成時にデータポイント数が多くなり、一部のクライアントでメモリが不足する可能性があります。また、処理するデータポイント数が多くなり、表の表示速度が低下することもあります。場合によっては、多数の行と列がある表では、アプリケーションが大量の CPU を消費してフリーズすることもあります。</p>																				
Java の外観の強制設定	<p><b>JAVALOOK:</b> system metal motif windows</p>																				
デフォルトグラフサブタイトルの設定	<p><b>GRAPHSUBTITLE:</b> <i>string</i></p> <p>置換変数はグラフサブタイトル文字列のどの位置にも配置できます。置換変数は、グラフの作成時に実際の値に置き換えられます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>変数</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>@@[SYSTEM]</td> <td>グラフ作成されるシステム名</td> </tr> <tr> <td>@@DATERANGE</td> <td>グラフに示される期間 (7 日間)</td> </tr> <tr> <td>@@POINTSEVERY</td> <td>各データポイントに要約する時間です (10 分)。</td> </tr> <tr> <td>@@SHIFT</td> <td>時刻のシフト (8:00-17:00 または "終日")</td> </tr> <tr> <td>@@SKIPDAYS</td> <td>スキップされる曜日のリスト (土曜日, 日曜日)</td> </tr> <tr> <td>@@SHOWDAYS</td> <td>スキップされない曜日のリスト (月曜日, 火曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日)</td> </tr> <tr> <td>@@NOHOLIDAYS</td> <td>休日をスキップするかどうかを指定します (空白または "休日なし")。</td> </tr> <tr> <td>@@STARTTIME</td> <td>グラフの開始時間 (3/1/04 3:00 PM)</td> </tr> <tr> <td>@@STOPTIME</td> <td>グラフの最後の時間 (3/8/04 3:00 PM)</td> </tr> </tbody> </table> <p>サブタイトルに短いテキストを使用し、表示する文字数を増やすには、最初に &lt;small&gt; を、最後に &lt;/small&gt; を追加します。例: &lt;small&gt;Points Every @@POINTSEVERY with Shift @@SHIFT @@SHOWDAYS @@NOHOLIDAYS&lt;/small&gt;</p>	変数	説明	@@[SYSTEM]	グラフ作成されるシステム名	@@DATERANGE	グラフに示される期間 (7 日間)	@@POINTSEVERY	各データポイントに要約する時間です (10 分)。	@@SHIFT	時刻のシフト (8:00-17:00 または "終日")	@@SKIPDAYS	スキップされる曜日のリスト (土曜日, 日曜日)	@@SHOWDAYS	スキップされない曜日のリスト (月曜日, 火曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日)	@@NOHOLIDAYS	休日をスキップするかどうかを指定します (空白または "休日なし")。	@@STARTTIME	グラフの開始時間 (3/1/04 3:00 PM)	@@STOPTIME	グラフの最後の時間 (3/8/04 3:00 PM)
変数	説明																				
@@[SYSTEM]	グラフ作成されるシステム名																				
@@DATERANGE	グラフに示される期間 (7 日間)																				
@@POINTSEVERY	各データポイントに要約する時間です (10 分)。																				
@@SHIFT	時刻のシフト (8:00-17:00 または "終日")																				
@@SKIPDAYS	スキップされる曜日のリスト (土曜日, 日曜日)																				
@@SHOWDAYS	スキップされない曜日のリスト (月曜日, 火曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日)																				
@@NOHOLIDAYS	休日をスキップするかどうかを指定します (空白または "休日なし")。																				
@@STARTTIME	グラフの開始時間 (3/1/04 3:00 PM)																				
@@STOPTIME	グラフの最後の時間 (3/8/04 3:00 PM)																				
デフォルトのメトリックラベル形式の設定	<p><b>DEFAULTLABEL:</b> <i>string</i></p> <p>個別のメトリックラベルが指定されていないグラフを作成する場合、デフォルトのメトリックラベル文字列が使用されます。デフォルトのラベル文字列では、テキストと次の置換変数の一部または全部を取り込むことで、ラベルを生成するためのスタイルが設定されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>変数</th> <th>置換される内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>@@[LABEL]</td> <td>データソースで指定されるメトリックラベル。(CPU %)</td> </tr> </tbody> </table>	変数	置換される内容	@@[LABEL]	データソースで指定されるメトリックラベル。(CPU %)																
変数	置換される内容																				
@@[LABEL]	データソースで指定されるメトリックラベル。(CPU %)																				



		ック名が使用されます。
	@@[METRIC]	メトリック名 (GBL_CPU_TOTAL_UTIL)
	@@[CLASS]	メトリック クラス (GLOBAL)
	@@[SYSTEM]	メトリックを提供するシステム名 (mysys.net.com)
	@@[DATASOURCE]	このメトリックのデータソース (MWA、CODA など)
	@@metric	同じデータソースおよびクラスからの <i>metric</i> メトリックの値。 たとえば @@BYDSK_DEVNAME と指定すると、BYDSK_DEVNAME メトリックの値がメトリックのラベルとして表示されます。BYDSK_DEVNAME メトリックの値が "0" である場合、Disk @@BYDSK_DEVNAME のラベルは Disk 0 になります。
	<p>例: @@[SYSTEM]:@@[CLASS]:@@[METRIC]  では "mysys.net.com:GLOBAL:GBL_CPU_TOTAL_UTIL"  のようなラベル名が表示され、デフォルトの @@[LABEL] では "CPU %" のようなラベルになります。</p> <p>1 つのメトリックのみを含むグラフの場合は、複数のシステムを選択したときに、メトリックラベルの前にシステム名が自動的に表示されます。</p>	
日付形式 の設定	<b>DATEFORMAT: &lt;DateString&gt;</b>	
	通常、日付は OVPM サーバーがインストールされているシステムの言語に基づいた形式になります。ただし、これはこのフィールドに新しい形式を入力することで上書きできます。正しい形式には、次の 3 つのフィールドが必要です。この順序に基づいて、グラフや表の日付の形式、および現地形式で入力する場合に求められる日付の形式が決まります。これ以外の文字は、特殊な形式設定文字 "GyMdhHmsSEDFwWakKz&apros;" でなければ、指定されたとおりに繰り返されます。	
	v または	2 桁だけが使用されます。1998 = "98". 2005 = "05" になります。
	yyyy	4 桁が使用されます。
	M	先頭にゼロを付けずに、月が表示されます。2 月 = "2"
	MM	先頭にゼロを付けて、月が表示されます。2 月 = "02"
	d	先頭にゼロを付けずに、日が表示されます。
	dd	先頭にゼロを付けて、日が表示されます。
<p>例: 2005 年 2 月 4 日の場合、次のように表示されます。</p>		

	<b>M-dd-yyyy</b> 2-04-2005		
時刻表示 の設定	<b>TIMEFORMAT: &lt;TimeString&gt;</b>		
	通常、時刻は OVPM サーバーがインストールされているシステムの言語に基づいた形式になります。ただし、これはこのフィールドに新しい形式を入力することで上書きできます。正しい形式には、次のフィールドがなければなりません。この順序に基づいて、グラフや表の時間の形式、および現地形式で入力する場合に求められる時間の形式が決まります。これ以外の文字は、特殊な形式設定文字 "GyMdhHmsSEDFwWakKz&apos;" でなければ、指定されたとおりに繰り返されます。		
	<b>24 時間</b>	H	先頭にゼロを付けない、24 時間時計 (0 ~ 23) に基づく時刻
		HH	先頭にゼロを付けた、24 時間時計 (0 ~ 23) に基づく時刻
	<b>12 時間</b>	h	先頭にゼロを付けない、12 時間時計 (0 ~ 11) に基づく時刻
		hh	先頭にゼロを付けた、12 時間時計 (0 ~ 11) に基づく時刻
	<b>分</b>	m	先頭にゼロを付けない分
		mm	先頭にゼロを付けた分
	<b>AM/PM</b>	a	AM/PM インジケータ (ローカル言語)。この項目はオプションで、時刻が 12 時間形式の場合に限り使用します。
	例: 8:05 PM (20:05) の場合、次のように表示されます。		
<b>形式</b>	<b>時刻</b>		
<b>h:m a</b>	8:05 PM		
<b>hh:mm a</b>	08:05 PM		
<b>HH:mm</b>	20:05		

このようなパラメータの多くは、エキスパート ユーザーが [クライアント設定](#) 機能を使用して設定することもできます。スタイル ファイルとクライアント設定オプションの両方が設定されている場合は、スタイル ファイルが優先されます。このため、クライアント設定オプションを使用する場合は、対応する値をスタイル ファイルに設定しないでください。

[トップへ戻る](#)

## プレゼンテーション スタイルに影響するスキンの作成

OVPM 管理者は、OVPM 実行時のグラフおよび Web フォームの外観を変更できます。最も簡単な方法は、新しい「スキン」を作成することです。1 つの OVPM インストールに複数のスキンを作成できるため、ユーザーごとに異なる外観を表示できます。

各スキンのファイルは <install\_dir>/newconfig/OVPM/VPI\_Skin\* ディレクトリ ("\*" はスキンの名前) に置きます。

スキンは Web フォーム インターフェイスにのみ影響し、Java インターフェイスの外観に影響しません。Java インターフェイスの外観を制御する場合は、VPI\_Style.txt ファイルと "JAVALOOK" パラメータを使用します。

Skin ディレクトリには、デフォルト ファイルとは異なるファイルのみを置く必要があります。デフォルト ファイルはすべて、<install\_dir>/newconfig/OVPM に格納されています。スキン ディレクトリ内で使用するファイルにはスタイル ファイルとフォーム テンプレート ファイルがあります。

- **スタイル** ファイルは、グラフおよび表を設定することができます。デフォルトのスタイルは、グラフ定義のすべての仕様に準拠しています。スタイル ファイルを使用して、共通の背景色の設定、折れ線グラフのマーカーの無効化などを行います。
- **フォーム** テンプレート ファイルは、ユーザーが OVPM を実行したときに表示する Web フォームを定義します。

スキンでフォーム テンプレート ファイルを変更するのは複雑になる場合があります。フォーム ファイルは、HTML と特別な置換変数から構成されます (置換変数はすべて @@ から始まります)。HTML を操作したことがあれば、OVPM のロゴは簡単に自社のロゴに置き換えられます。さらに複雑な変更も可能ですが、製品の標準的な用途の範囲を超えているため HP ではサポートされません。

もし独自の判断で変更挑戦してみようという場合は、次に述べる自分専用のスキンの作成に関するヒントを参照してください。

1. まず既存のスキンから必要なものに近いスキンを探し、そのディレクトリと、ディレクトリ内のすべてのファイルを新しいディレクトリにコピーします。スキンのディレクトリ名はすべて VPI\_Skin から始まり、<install\_dir>/newconfig/OVPM ディレクトリ内にあります。新しいディレクトリにも同様の名前を付けてください。
2. 変更する Web フォームの入ったテンプレート ファイルを探します。

VPI_StandardForm.txt	Display フォームは、既存のグラフの作成に使用します。
VPI_DesignForm.txt	Design フォームは新しいグラフの作成、または既存のグラフの編集に使用します。
VPI_PromptForm.txt	Prompt フォームは、INSTANCE=*PROMPT* を使用してグラフのインスタンス名の指定を要求する場合に使用します。
VPI_Graph.txt	このファイルは、HTML グラフの表示様式を設定します。
VPI_Table.txt	このファイルは、HTML 表の表示様式を設定します。
VPI_GraphJava.txt	このファイルは、Java グラフおよび表の表示様式を設定します。
VPI_Style.txt	<a href="#">スタイル ファイル</a> は多くの項目のデフォルトを設定します。

	詳細は前のセクションを参照してください。
VPI_Analyzer.txt	このファイルはデフォルト ディレクトリ <code>&lt;install_dir&gt;/newconfig/OVPM</code> 内のみ存在し、OVPM ホーム ページの生成に使用します。ホームページの生成には <code>ovpm config</code> コマンドが使用されます。また Web フォームの [表示] タブまたは [デザイン] タブからホームページに戻る場合も、常にホームページが生成されます。

3. カスタマイズの必要のない、デフォルト ファイルが使用されるテンプレート ファイルを削除します。
4. ファイルを注意しながら編集します。

テンプレート ファイルの編集には HTML エディタを使用しないでください。HTML エディタで置換変数を使用すると、ほとんどの場合混乱を招きます。代わりに、メモ帳や vi など通常のテキスト エディタを使用します。

5. OVPM ホーム ページでスキンを選択し、結果をテストします。他のスキンのいずれかを入力してから [ホーム] を選択し、ホームページを再生成する必要があります。結果をトラブルシュートするには、Web ブラウザに Web ページのソースを表示します。置換変数が置換された後に HTML が表示されます。
6. 結果が希望どおりにならない場合、HP にサポートを依頼しないでください。HTML と OVPM に熟知したコンサルタント サービスを探してください。

[トップへ戻る](#)

## クライアント設定によるデフォルト設定

エキスパート ユーザーはクライアント設定機能を使用することで、[スタイル ファイル](#)と同じように、デフォルト値を設定できます。スタイル ファイルではすべてのクライアントが適用対象となるのに対し、クライアント設定の場合は特定のクライアントブラウザからの OVPM へのアクセスだけに限られます。また、この設定は、どの OVPM ログインが使用されるかに関係なく、適用されます。クライアント設定情報はクライアントの "Cookie" に保存されるため、別の OVPM セッションに変わっても無効になることはありません。設定タブが予期したように機能するには、クライアントブラウザで cookies が有効になっている必要があります。cookies が無効であると、設定タブで行った変更は保存されません。

グラフや表のポイント数を制限するための機能など、クライアント設定の一部の機能はエキスパート ユーザーしか使用できません。ただし、このような値は一度設定すれば、たとえエキスパート ユーザー以外のログインの場合であっても、それ以降このクライアントからのすべてのアクセスに適用されます。ユーザーの設定方法およびユーザーへの "expert" フラグの設定または設定解除の方法についての詳細は、「[ユーザーの定義](#)」および「[管理者インターフェイス](#)」を参照してください。デフォルトのログ

イン (空白) では、クライアント設定パラメータを設定することはできません。エキスパートユーザーの場合は、Java インターフェイスの下部に [設定] ボタンが表示されるか、Web フォーム インターフェイスに [設定] タブが表示されます。

クライアント設定を一度行うと、たとえエキスパート モード機能にアクセスできない OVPM ログインに変わっても、設定が保持されます。クライアント設定で設定可能なパラメータの詳細は、[クライアント設定] 画面からオンライン ヘルプを参照してください。

クライアント設定とアクティブな "スタイル" ファイルの両方にパラメータが設定されている場合、スタイル ファイルの値が使用されます。このため、スタイル ファイルで設定したパラメータをクライアント設定で上書きすることはできません。OVPM ログインまたはスキンを変更することで、別のスタイル ファイルが選択され、クライアント設定値が適用される可能性もあります。

[トップへ戻る](#)

---

---

## トラブルシューティング

問題が発生した場合は、まず始めにエラー メッセージを確認します。さらに詳細な情報が必要な場合や、他のユーザーが直面している問題を調べるには、いくつかの一般的な手順があります。それでも問題が解決しない場合は、この項の末尾にある個々のエラー状況の一覧を参照して、同様の症例があれば、推奨されている処置を行ってください。

トラブルシューティングのヒントは、2 つのセクションに分けられます。

- [OVPM クライアント](#)の問題。
- [OVPM サーバー](#)の問題。

>

[トップへ戻る](#)

---

---

## OVPM クライアントのトラブルシューティング

次のトラブルシューティングのヒントは、クライアントの観点から見た OVPM に的を絞っています。多くの場合、問題はクライアント側での Web ブラウザの設定ミスや間違ったプラグインにより起こります。通常は、このような問題は、個々のクライアントだけで発生します。

---

---

## 特定のクライアントにより OVPM が動作する

OVPM がインストールされているシステム上の Web ブラウザで OVPM を実行できるが、他のシステムから実行できない場合、ネットワークの接続かセキュリティ問題を調べてください。

- 他のシステムが OVPM サーバーの Web ポートへのアクセスを妨げる可能性があるパーソナル ファイアウォールを確認します。
- 外部ネットワークのセキュリティをチェックし、他のシステムが OVPM サーバーに接続するのを妨げていないか確認します。クライアントシステムから OVPM サーバーに「ping」できますか? 「telnet system 8080」を実行し、OVPM ポート番号が応答するかどうか確認してください。
- メッセージ「Unauthorized access from "[IP Addr] hostname".」が表示された場合、「[クライアント認証セキュリティの有効化](#)」のセクションを参照して、authip\_vpi セキュリティ ファイルの使い方の規則を確認してください。

## [トップへ戻る](#)

---

## グラフが更新されない

コンピュータは、頻繁にアクセスされたページのコピーを Web ブラウザのメモリ キャッシュまたはディスク キャッシュに保存します。Web ブラウザを [ページを表示するごとに確認する] に設定することにより、保存されているページのより新しいバージョンを Web ブラウザが確認するように設定する必要があります。この設定により、システムでグラフ イメージが正しく更新されるようになります。この設定を行わない場合、グラフ イメージはブラウザによりキャッシュされ、小さな変更を選択してグラフを再作成しても更新されません。設定方法を以下に示します。

### Internet Explorer

Internet Explorer がページの更新についてネットワークを確認する頻度を指定するには、次の操作を行います。

1. IE ブラウザを開きます。[ツール]、[インターネット オプション] の順に選択します。[インターネット一時ファイル] の [設定] ボタンをクリックします。
2. [ページを表示するごとに確認する] ラジオ ボタンを選択します。[OK] をクリックします。

### Netscape と Mozilla

Netscape または Mozilla がネットワークでページの更新を確認する頻度を指定する (古いページが長期間キャッシュ内に保持されないようにする) には、次の操作を行います。

1. [編集] メニューから [設定] を選択します。

2. [詳細] カテゴリをクリックし、次に [キャッシュ] をクリックします。
3. [セッション毎] ラジオ ボタンを選択します。表示されるページは必ず最新のものになります。

[トップへ戻る](#)

---

## Java プラグインの問題

1.4.2 以前の Java プラグインがサポートされなくなっている点に注意してください。

- Java グラフ機能を使用するには、ブラウザを実行しているシステムに Java プラグインをダウンロードする必要があります。ブラウザが初めてこの機能を使用するときに、プラグインのダウンロードを要求されます。それ以外の場合、プラグインは <http://java.sun.com/j2se/1.4.2/ja/download.html> から手動でダウンロードできます。
- 使用している Java プラグインのバージョンを確認するには、次の操作を行います。
  - ブラウザから Java コンソールを有効にします。
  - OVPM Java インターフェイスを起動します (または起動を試みません)。
  - Java コンソールの最初の数行に、使用される実際の Java プラグインのバージョンがリストされます。複数のプラグインがインストールされている場合、予測されるバージョンと異なる場合があります。
- Unix システムでは、ダウンロード中に示されるインストール手順に従い、プラグインが適切にインストールされるように前提条件が満たされていることを確認してください。プラグインが正しく動作するように、システムの再起動が要求される場合があります。
- HPUX では、プラグインは <http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/jpi/downloads/index.html> からダウンロードできます。HPUX 用プラグインは Netscape の特別版が必要です。 <http://www.hp.com/go/netscape> からダウンロードできます。
- Java グラフを初めて作成するとき、ブラウザにより Java アプレットの証明書を受け入れるかをたずねるメッセージが表示されます。

このメッセージは、Java アプレットがこの製品の一部であり、変更されていないことを証明するものです。このメッセージに対し、アプレットを許可するか、拒否する (許可しない) かを選択します。現在のセッションのみアプレットを許可する (このセッションで許可する) ことも、常に許可する (常に許可する) こともできます。今後、このメッセージが表示されないように、[常に許可する] を選択することをお勧めします。許可をしない場合でも Java アプレットは実行されますが、クリップボードへのコピーと貼り付けなど、システムとインタラクティブに行われる操作の一部は使用できません。

または、このメッセージで、セキュリティ証明書の期限が切れたことが示される場合があります。セキュリティ証明書は短期間のみ有効とされます。このメッセージはこの期間が経過したことを警告しているだけです。このメッセージを無視し、証明書を受け入れてください。



[トップへ戻る](#)

---

## Java 画面が中断される

これは使用している Java プラグインのバージョンが正しくない場合に起こることがあります。また表示の右側に幅の広いグレーの帯が表示される場合もあります。解決策として、Java プラグインの全バージョンをアンインストールします (コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] を使用)。次に、Java プラグインのバージョン 1.4\_2 またはそれ以降を手動で Web からインストールします。

[トップへ戻る](#)

---

## グラフにデータが表示されない

グラフに表示されるはずのデータが表示されないことがあります。

- 「エージェントへ接続できませんでした」または「このデータソース上にグラフ <graphname> のメトリックが見つかりません」というエラー メッセージが表示された場合は、OVPM が要求されたシステムまたはデータソースに接続できなかったか、接続はできたもののクラスとメトリックの一覧がグラフ定義で要求されているものと一致しなかったことを意味します。
- 選択したシステムが、グラフに指定したメトリックを提供しているかどうか、またそのシステムが稼動中かつ接続可能かどうかを確認してください。作成しようとしているグラフが Smart Plug-In (SPI) で提供されているグラフの場合は、SPI の配布とデータ収集が正しく行われていることを確認してください。新しく配布したエージェントまたは SPI からデータを使用できるようになるには、10 ~ 15 分ほど待たなければならない場合があります。
- システム情報機能を使用して、使用しようとしているシステムが応答していることを判断し、各データ クラスに有効な期間を決定します。
- グラフ定義をチェックして、選択したデータソースとグラフ定義を比較し、両者が適合していることを確認してください。データを引き出そうとしているシステムに対して OVPM システム情報機能を使用すると、手がかりが得られることがよくあります。システムによりグラフ定義のクラスとメトリックが提供され、クラスに指定された範囲のデータが含まれていることを確認します。

### Java インターフェイスによるグラフ定義の確認:

1. OVPM Java インターフェイスの [デザイン] タブでグラフを開きます。  
[メトリック] タブでメトリックを調べます。
2. [ソース] タブからデータソースとシステムを選択します (該当するものがある場合)。
3. [メトリック] タブに戻り、[追加] を選択して、グラフ定義内のメトリックとデータソースのメトリックを比較します。

### Web フォーム インターフェイスによるグラフ定義の確認:



4. [デザイン] タブで、同じテンプレート ファイルとグラフ名について [グラフを開く] を選択します。
  5. 使用しているデータソースを選択します。そのデータソースでサポートされていないメトリックは、フォームのメトリック列で名前が空白で表示されます。
- 表または XML ドキュメントに対比させてグラフを表示している場合、数値項目のみを表示できます。非数値項目は、引用符で囲まれた名前付きでメトリック リストに表示されます。1 つのグラフに対して少なくとも 1 つの数値メトリックが選択されていることを確認します。
  - 作成したグラフが空の場合:
    - [表示期間] と [最終日時] の選択内容が、データが存在していない時間帯に指定されていないことを確認します。確認には、システム情報機能を使用します。[表示期間] を [すべて] に変更してグラフを再度作成します。グラフが作成された場合は、グラフを調べてデータが存在する日時を確認します。
    - 選択した表示期間にデータが存在しているのに、期間を短くしてグラフを作成するとデータが表示されない場合や空のグラフが作成される場合は、データが散発的に存在しているか、[ポイント間隔] の設定より大きい間隔でデータが存在している可能性があります。

この場合は、グラフの種類を [表] に変更して、[ポイント間隔] を [要約なし] に設定してください。このグラフを作成すると、データソースの各データ ポイントが表示されます。この表が空の場合は、選択した表示期間に実際にデータが存在しないことになります。[表示期間] を [すべて] にして再試行してください。

- データソースのデータが [ポイント間隔] の設定より小さい間隔で存在している場合は、グラフにはデータは表示されません。線を描くには 2 つの連続するポイントが必要なためです。この場合は、以下の操作を行います。
  - 各データ ポイントのマーカを選択するようにグラフの設定を変更します。
  - [データがない場合] の設定を [前の値] または [ゼロ] に変更します。
  - [ポイント間隔] の設定を変更して、各データ ポイントの間隔と同じか大きくします。

[トップへ戻る](#)

---

## Java ロギングの有効化

Java グラフの作成に問題が生じた場合や、アプリケーションの Java コンポーネントに不具合がある場合は、Java コンソールを有効にします。Windows では、Java アプレットが実行されるたびに Java コンソールが起動するように設定できます。コントロール パネルから [Java Plug-In] を開き、[Java コンソール] で [コンソールを表示] を選択します。インストールされている Java プラグインのバージョンに応じたダイアログが表示されます。

または、Java アプレットが実行されている場合は、Windows のタスクバーにアイコンが表示されます。このアイコンを右クリックして [コンソールを開く] を選択することで、必要なときに Java コンソールを有効にできます。その他のブラウザでは、Java コンソールは「ツール」などのメニュー項目を使用して有効にします。

[Java コンソール] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには Java アプリケーションと Java アプレットのトレース情報が表示されます。このトレースでエラー メッセージをチェックしてください。

[トップへ戻る](#)

---

## OVPM が応答しない

- OVPM では、ダイアログ ボックスが画面から消えてしまい、次の操作へ進めないことがあります。Windows では、Alt + Tab キーを押してダイアログ ボックスを表示してください。Alt + Tab キーを押すと、ウィンドウが切り替わり、消えてしまった (実際には他のウィンドウで隠れている) ウィンドウが表示されます。Unix では、非表示のダイアログ ボックスが表示されるように他のウィンドウを最小化または移動してみてください。
- Analyzer がタイムアウトになると、空のボックスが淡色表示されます。この場合は、タイムアウトの原因を特定して修正する必要があります。その後で、OVPM を再起動してください。

[トップへ戻る](#)

---

## [システム名] ボックス (Web フォーム) または [データソース] ウィンドウ (Java インターフェイス) に名前が表示されない

- Web フォーム インターフェイスの [システム名] ボックスに表示される内容は、選択したレポート テンプレートが使用するデータソースの種類に応じて変わります。[システム名] ボックスはデータソースが MWA または Coda の場合にのみ表示されます。データソースが Reporter または Internet Services の場合は表示されません。テンプレート ファイルで複数のデータソースを使用している場合は、[システム名] ボックスには複数のデータソース名を組み合わせさせた名前が表示されます。
- Java インターフェイスでは、設定されているすべてのシステム名が表示されます。顧客が定義されている場合、現在のログイン顧客が属するシステムのみが表示されます。不正な顧客やパスワードを入力すると、システム名は表示されません。顧客または顧客のユーザーの 1 人として Java インターフェイスにログインしている場合、システムの追加が許可されません。顧客は顧客に設定されたシステムのデータのみに表示が制限されているためです。
- システム名が見つからなかった場合、[システム名] には何も表示されません。OVPM は自動的にシステム名を検出しません。そのため、[Reporter](#) 製品を使用して、または [OVPM 管理者](#) がシステム名を指定する必要があります。

[トップへ戻る](#)

---

## Java インターフェイスでグラフが表示されない

Java インターフェイスでは、データソースを選択するまでグラフの一覧は表示されません。また表示されるグラフも、Java インターフェイスの [表示] タブの上部の [ソース] フィールドの設定内容により異なります。

ソース	グラフの対象
個別のシステム	OVPA、OVO-EPC、Reporter (単一システムおよび全体)
システム グループ	Reporter 全体 (単一システム以外)
サービス	Internet Services

複数のデータソースを使用した複雑なグラフは、[ソース] 設定に関係なく表示されません。

[トップへ戻る](#)

---

## 面グラフにおけるデータのオーバーラップ

面グラフでオーバーラップしているデータを表示するには、[積み重ね] にするか、[塗りつぶしスタイル] を [実線] 以外にする必要があります。

---

## エージェントがシステム上に見つからない

グラフ作成時に、「MeasureWare Agent が "XYZ" に見つかりません (ソケット接続が拒否されました)」というメッセージが表示されることがあります。これは、OVPM が、そのシステム上で実行されているエージェントに接続できなかったことを示しています。

- まずシステム上のエージェントを調べて、選択したタイプのエージェントがそのシステムで実際に実行中であることを確認します (インストールされていないか、停止していることも考えられます)。システムに対して OVPM システム情報機能を選択することは、システムと通信できるかどうかを確認し、システムが提供するデータソースの種類を確認するのに適切な方法です。
- 次に、このシステムに設定されているデータソースの種類 (システム情報レポートの上部に表示) が、システムの実際のデータソースと一致しているかどうかを確認します。一致していない場合、[管理者インターフェイス](#) で訂正します。
- [パフォーマンス履歴] (Agents テンプレート ファイル) からグラフを作成します。

- その他のグラフも作成してみます。

[トップへ戻る](#)

---

## 選択した期間内に設定データが見つからない

[設定の詳細] グラフで「選択された表示期間 ... にデータが見つかりません」と表示される場合は、ここで説明するヒントをもとに、この種類のグラフを各種エージェントで作成してください。

- **システム情報**機能で、システムが応答しているか、またクラスに選択した期間のデータが含まれているかを判断します。
- MWA (OVPA) データソース: [期間] で、情報がログに記録された時間が含まれるように、[ポイント間隔] を「日」にするなど表示期間を大きく設定します。MWA は、エージェントの起動時にのみ設定レコードを記録します。これはシステムごとに異なります。
- Coda (OVO-EPC) データソース: [期間] で、データが含まれるように、表示期間を小さく設定します（「1 時間」など）。
- Netscape ブラウザでは、ページをキャッシュしないように設定されている場合でも、作成したグラフが更新されないことがあります。この問題の対処法としては、Shift キーを押しながらブラウザ ウィンドウの [再読み込み] ボタンをクリックすると、ページを強制的に更新できます。場合によっては、画像を右クリックして [画像を表示] を選択し、さらに表示された画像外で右クリックして [再読み込み] を選択する必要があります。

[トップへ戻る](#)

---

## OVPM に接続できないクライアントがある

クライアントが OVPM に接続するには、クライアントが OVPM サーバー システムの名前を解決できなければなりません。以下にクライアントの名前解決のホスティングを確認するいくつかの手順を示します。

1. **DNS が機能していることを確認します。**

`nslookup` コマンドと `ifconfig` コマンドで、ネットワーク接続を確認します。たとえば `nslookup` エラー "*Trying DNS...Non-authoritative answer..*" は、OVPM に影響するような名前解決問題があることを意味します。

2. **`/etc/hosts` を使用した回避策**

Domain Name Service が環境で正しく機能していない場合、ファイル `/etc/hosts` (Unix) または `/system32/drivers/hosts` (Win32) を

編集して上書きします。設定の変更後、テストの前に `ipconfig /flushdns` を実行してキャッシュをフラッシュします。

### 3. 別のポートでの OVPM の実行

ネットワークがデフォルトのネットワークポート番号を使用した OVPM へのアクセスを許可していない場合、別のポートを使用するように OVPM を設定できます。

```
ovpm config -port 7180
```

上記コマンドは、ポート 7180 を使用するように OVPM を設定します。ポート番号の変更後、OVPM を再起動します。

### 4. ローカル アクセスのチェック

OVPM サーバーと同じシステムで Web ブラウザを実行して、OVPM のアクセスの問題の原因がネットワークにあるのかどうかを判断します。OVPM にアクセスして Web フォーム インターフェイスを実行できる場合、OVPM 自体は正しく機能しているが、特定のクライアントの問題がネットワークの設定を原因としている可能性があるかと推測できます。

OVPM サーバーで `ovpmbatch` コマンドを使用してローカルで OVPM をテストします。コマンド `ovpmbatch info=1` は、XML 情報の長いリストを返します。次のコマンドを発行します。

```
ovpmbatch graphtemplate=Agents graph="Global  
History" systemname=system
```

*system* は OVPA または OVO エージェントがインストールされたシステムです。数秒後、次のような行が表示されます。

```
Location: http://サーバー  
名:8080/OVPM/datafiles//VPI_All_Customers/Global_His  
tory/...
```

グラフが生成されたことを意味します。

### 5. Java インターフェイスのみが故障している場合

Java インターフェイスを実行するためには、または Java グラフまたは表を表示するためには、クライアントシステムに正しい Java プラグインをインストールする必要があります。場合によっては、次の方法が簡単です。まず Web ブラウザ クライアントから Java インターフェイスまたはグラフを起動します。Java プラグインがインストールされていない場合、Web からダウンロードするかどうかの問い合わせが表示されます。

他のクライアントでは、操作が多くなる場合があります。Unix の Web ブラウザのほとんどは、必要な場合に自動的に Java プラグインをダウンロード

しません。このため、Sun Java ダウンロードの Web ページ <http://java.sun.com/j2se/1.4.2/ja/download.html> を表示して、システムに合わせてダウンロードを選択する必要があります。

HP-UX クライアントの場合、Web ブラウザが正しいことを確認します (Netscape は HP から提供されます。Web サイト <http://www.hp.com/go/netscape> を参照してください)。Netscape と Mozilla の場合、HP の Web サイト <http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/jpi/downloads/index.html> から Java プラグインをダウンロードします。

Java プラグインが正しくインストールされたことを確認します。サポートされるプラグインに関する最新の情報については、リリースノートを参照してください。Java コンソールを有効にすると、使用しているプラグインの種類がわかります (このプロセスはブラウザごとに異なります)。プラグインのバージョンは、コンソールを最初に起動したときにコンソールに出力されます。

OVPM のバージョン	サポートする Java プラグインのバージョン
A.04.02 および A.04.04 (Windows)	1.3.x
C.04.05 (HP-UX および Solaris) C.05.00 (全プラットフォーム)	1.3.x 1.4.0、1.4.2 <b>1.4.1 はサポート外</b>
C.06.01 (全プラットフォーム)	1.4.2 および 1.5

[トップへ戻る](#)

---

### 警告: マニフェスト: Depends-On で名前が重複している

この特別なエラー メッセージは、OVPM アプリケーションの起動時に何度も Tomcat ステータス ファイル (catalina.out) に表示されます。また、OVPM Java インターフェイスの起動時にも、Java コンソール内に表示されます。これは Java 1.4.2 の「特徴」であり、Java ファイルのいずれかの内部に発生した冗長性を報告しますが、その他の影響はありません。このメッセージが表示されても無視してください。

[トップへ戻る](#)

---

### sun.plugin.cache.DownloadException

この一連のエラー メッセージは、OVPM 管理者インターフェイスを Web ブラウザから実行したときに、Java スタック マーカーのトレースに付随して表示されます。また、セキュアな通信 (https) を使用して OVPM Java インターフェイスを実行する場合にも表示されます。このようなエラーは、複数の代替場所に特定の設定ファイルが見つからなかったことを報告しているにすぎません。最終的にファイルはみつきり、すべてが正しく動作するため、このメッセージが表示された場合は無視してください。

[トップへ戻る](#)

---

## OVPM サーバーのトラブルシューティング

次のトラブルシューティングの手順は、OVPM サーバーにのみ関連しています。

---

### 手順 1: OVPM が正しく動くようにサーバーが設定されているかどうかのチェック

OVPM は、OVPM サーバー システムの Tomcat アプリケーションの下で Java サーブレットとして実行されます。Java 仮想マシンは、Tomcat アプリケーション サーバーと OVPM サーブレット コードを同時に実行します。要求が処理されると、Java スレッドが作成され、並列処理が可能になり応答時間も向上します。各スレッドは、実行時に、Java 仮想マシンによる仮想メモリの割り当てを要求します。このメモリは、スレッドが終了すると再利用されます。

OVPM サーバーを実行するシステムは、Java 仮想マシンが OVPM の要求の管理ジョブを実行するのに十分なスペースが確保されるように設定する必要があります。要求される各リソースの大きさは、OVPM へのアクセス数とアクセスの種類により異なります。軽く頻度の少ない要求は、次の要求が開始する前に終了することが多いため、リソースの利用率は低くなります。複数の同時要求、および大量のデータ処理を必要とする要求は、より多くのリソースを必要とします。

リソース不足の症例として、ビジー時の全体的な速度低下があります。ひどいときには、Java 仮想マシン自体がリソースの枯渇によりクラッシュすることもあります。この場合、OVPM サーバーが停止し、それ以降、要求が処理されなくなります。不足しているリソースについては、Tomcat のステータス ファイルで調べてください。共通の問題のほとんどは、スレッドまたは仮想メモリの不足が原因です。

Tomcat のステータス ファイルの場所は、Unix システムでは `<tomcat_dir>/logs/catalina.out`、Windows では `<tomcat_dir>/logs/stdout.log` です。tomcat\_dir は `<install_dir>/nonOV/tomcat/a/` です。

#### HP-UX システムのみを対象とした特記事項



デフォルトの HP-UX 構成 (特にカーネル パラメータとシステム調整パラメータ) では、一部の Java アプリケーションに対応できません。手動による調整が必要なアプリケーションの典型的なものは、OVPM のように、稼動時間が長い、スレッド数が多い、クライアントからサーバーへの接続比率が高いなどの特徴を持つ大規模なサーバーサイド Java アプリケーションです。

**Java Out-of-Box** はスタンドアロンのバンドルで、インストール時に起動 (RC) スクリプトをインストールし、カーネル パラメータを変更した後、カーネルを再構築してシステムを再起動します。起動スクリプトは、起動時にシステム調整パラメータを修正します。これにより、Java の「out of the box」のコンセプトに沿った動作になっています。詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/outofbox/index.html>

**HPjconfig** は HP-UX 11 PA-RISC & Itanium システムのカーネル パラメータを、アプリケーションの特徴に合わせて調節するための Java 設定ツールです。HPjconfig は、Java エンタープライズ サービス (Web サーバー、アプリケーション サーバーなど) や HP-UX ハードウェア プラットフォームに合わせたカーネル パラメータ推奨値を指定します。調整済みの推奨値をユーザー ベースに簡単に配布するための、保存機能と復元機能を備えています。

<http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/hpjconfig/index.html>

## 手順 2: アプリケーション サーバーのチェック

コマンド `<install_dir>/bin/ovpm status` を実行して、OVPM アプリケーション サーバーが実行されていることを確認し、Tomcat と OVPM のステータス ファイルの最後の数行を一覧表示します。アプリケーション サーバーがダウンしている場合は、Tomcat のステータス ファイル `<install_dir>/OVPM/logs/catalina.out` を調べます。

アプリケーション サーバーがダウンまたはハングしている場合は、以下の手順でアプリケーション サーバーを再起動します。

1. OVPM サーバーで root またはスーパーユーザーでログインし、次のコマンドを実行して OVPM を停止します。

```
<install_dir>/bin/ovpm stop
```

OVPM が実行されていない場合やハングしている場合は、アプリケーションが応答しないことを示すエラーが生成されます。

2. Java 仮想マシンが停止したら、OVPM を再起動します。

```
<install_dir>/bin/ovpm start
```

3. オプション: アプリケーション サーバーのログ ファイルを調べて、アプリケーション サーバーが正常に実行されていることを確認します。

```
<install_dir>/bin/ovpm tail tomcat
```

[トップへ戻る](#)



### 手順 3: 動作のテスト

1. ブラウザで次の URL にアクセスし、OVPM が実行されている Tomcat アプリケーション サーバーのテストを行ないます。 `http://<system>:8080`

<system> は OVPM が実際にインストールされているシステムの名前です。

- アプリケーション サーバーが正しく実行されている場合は、"hp OpenView Software" と HP ロゴが示された Web ページが表示されます。
  - このページが問題なく表示されれば、アプリケーション サーバーが機能していることとなります。表示されない場合は、管理者に問題の解決を依頼してください。
2. ブラウザで次の URL にアクセスし、OVPM のホーム ページのテストを行います。 `http://system:8080/OVPM`

これは OVPM のホーム ページの URL です。このページが表示されない場合や、表示が正しくない場合は、OVPM の設定が正常に終了しなかったこととなります。そのような場合には、OVPM 設定コマンドを再度実行します。

```
<install_dir>/bin/ovpm config [-port  
portno]
```

*portno* はポート番号です (通常は 8080)。この後で、もう一度テストを行います。

Windows の場合、<Tomcat\_dir>/conf/server.xml ファイルで使用しているポート番号が参照されていることを確認します。

3. OVPM ホーム ページの **[Web フォーム インターフェイス]** ボタンを押して、Web フォーム インターフェイスをテストします。これにより OVPM アプリケーションが起動可能なこと、コマンドに応答可能なことを確認します。
4. OVPM ホーム ページに戻って **[Java インターフェイス]** ボタンをクリックし、Java インターフェイスをテストします。この時点までのすべての動作に問題がないのに Java インターフェイスが起動しない場合は、以下の手順を実行します。
  - a. ブラウザを使用して次の URL を参照します。

```
http://<system>:8080/OVPM/Analyzer?-info2
```

多数の XML データが画面に表示されます。古いブラウザを使用している場合は、XML が表示されないこともあります。ブラウザの [表示] > [ソース] オプションを使用します。

- b. ブラウザを使用して次の URL を参照します。

```
http://<system>:8080/OVPM/Analyzer?-info
```

さらに XML データが表示されます。古いブラウザを使用している場合は、XML が表示されないこともあります。

- c. この両方の手順に問題がなく、それでも Java インターフェイスが起動しない場合は、ブラウザを実行しているシステムにおける Java プラグインのインストールに問題がある可能性があります。別のシステムで試してみるか、正しいプラグインをインストールしてください。

[トップへ戻る](#)

---

#### 手順 4: ステータス ファイルのチェック

OVPM の実行時には、すべての警告とエラーがテキストファイル `ovpm.0.log` に記録されます。このファイルは `<data_dir>/log` ディレクトリにあります。`ovpm.0.log` 内のテキスト行は場合によっては膨大な数になります。最近のエントリを表示するには、`tail` コマンドを使用します。

```
<install_dir>/bin/ovpm status  
または  
tail -50 <data_dir>/log/ovpm.0.log
```

ほとんどの警告はあまり重大ではなく、頻繁に発生しない限り、特に気にする必要はありません。エラーには、システムが要求した接続に失敗したなどの単純なものもあります。重大なエラーは、試用期間が過ぎているため製品が実行できないといった問題を示している場合があります。ステータス ファイルの各行に、このメッセージが生成された日時が表示されます。

ステータス ファイルのサイズが 1 メガバイトに達すると、そのファイル名は `ovpm.1.log` に変更され、新たに `ovpm.0.log` ファイルが作成されます。ただし、ログ ファイルは 2 つまでしか保持されません。`ovpm.0.log` ファイルがいっぱいになった時点で既に `ovpm.1.log` ファイルが存在している場合は、既存の `ovpm.1.log` ファイルは削除されます。

[トップへ戻る](#)

#### 手順 5: トレースの有効化

ステータス ファイルの記録よりもさらに詳細な情報が必要な場合は、OVPM メインプログラムの実行に対してトレースを有効にします。OVPM のトレース ログ ファイルを生成するには、次のコマンドを実行します。

```
<install_dir>/bin/ovpm trace log
```

どのプログラムも、再起動する必要はありません。トレースを設定すると、その直後からトレースが開始されます。トレース データはファイル `<data_dir>/log/Analyzer.trc` に書き込まれます。これはバイナリファイル

ですので、サポート担当者に転送する際はファイル転送モードをバイナリに指定してください。

トレース ファイルは急速にデータを蓄積し、かなりのディスク容量を消費します。トレース データを記録する場合は期間を短く設定してください。

ログ ファイルを生成せずにトレース データをその場で表示するには、次のコマンドを実行します (ただし、この方法は、サポート担当者から指示がない限りお勧めしません)。

```
<install_dir>/bin/ovpm trace  
<install_dir>/bin/ovpm tail trace
```

このモードの実行中は、Ctrl + C キーで終了できます。

**注意:** トレース レコードは、専門知識を持つサポート担当者のためのもので、詳細な内容が記述されています。したがって、その内容についてはここでは説明しません。

トレースを中止するには、次のコマンドを実行します。

```
<install_dir>/bin/ovpm trace off
```

[トップへ戻る](#)

## 最初の Web ページが見つからない

OVPM をインストールまたは再初期化すると、Web サーバーの OVPM ディレクトリに Web ページ index.html が作成されます。OVPM の起動時にエラー メッセージが表示された場合は、この Web ページを表示できないことが原因として考えられます。

- Unix の場合は ファイル  
<install\_dir>/OVPM/webapps/OVPM/index.htm を、Windows の場合はファイル <install\_dir>\www\webapps\OVPM\index.htm を確認します。このファイルが存在しない場合や、ファイル内にテキストが記述されていない場合は、スクリプト <install\_dir>/bin/ovpm config を実行してファイルを再度作成してみてください。
- ファイルが存在し、その内容が空ではない場合は、ローカル システム上で Web ブラウザを使用してファイルを開きます。正常に開くにもかかわらず Web サーバー経由のアクセスが失敗する場合は、Web サーバーが正しく動作していることを調べます。同じディレクトリ内にある次のファイル (単純な Web ページ) を開いてみてください。

[トップへ戻る](#)

## グラフが見つからない

Web フォーム インターフェイスの使用時にグラフが見つからない場合は、グラフ名に空白が連続して入っている可能性があります。グラフ名には連続するスペースを使用しないでください (Web フォーム インターフェイスでは、"This is my graph" というグラフ名は検索できますが、"This is my graph" は検索できません)。

[トップへ戻る](#)

## キーワードが認識されない

メッセージ "Keyword Unrecognized" が表示された場合は、OVPM Analyzer のバージョンが古いか、グラフ定義の項目が誤って入力されていることを示しています。

[トップへ戻る](#)

## データベース オープン エラー

このエラーは、Reporter、Internet Services、Generic Database のいずれかのデータソースへのアクセス中に発生することがあります。OVPMconfig.ini ファイルのデータベース情報が正しく記述されていることと、データベース セキュリティが適切に設定されていることを確認してください。

以下に、代表的なエラー メッセージとその原因をいくつか紹介します。

### **DBDriver exception Io exception: The Network Adapter could not establish the connection**

OVPMconfig.ini ファイルでホストまたはポートが正しく設定されていない。

### **DBDriver exception Io exception: Connection refused ...**

OVPMconfig.ini ファイルで DSN が正しく設定されていない。

### **DBDriver exception ORA-01017: invalid username/password; logon denied**

OVPMConfig.ini ファイルでユーザー名またはパスワードが正しく設定されていない。

[トップへ戻る](#)

## データベース接続のトラブルシューティング

1. データベース サーバーが稼働しているシステムに対して *ping* を実行します。*ping* コマンドでデータベース サーバー システムが特定できない場合は、OVPM も特定できません。データベース サーバー システムが IP アドレスでアクセス可能な場合は、システム名を IP アドレスに置き換えます。

```
ping <systemname>
```

```
ping <ipaddress>
```

2. 設定されているポート番号のリスナー プロセスが実行中かどうかをテストします。以下のコマンドを実行します。

```
telnet <systemname> <port>
```

接続が確立された場合は、リターン キーを押した後、「exit」と入力して telnet セッションを終了します。「接続に失敗しました」というメッセージが表示された場合は、そのポート上でリスンしているサーバーが存在しないことになります。データベース管理者に問い合わせ、使用しているポート番号が正しいことと、データベースのリスナー プロセスが実行中であることを確認してください。

[トップへ戻る](#)

## ホスト名を解決できない

OVPM ホーム ページには正常にアクセスできるが、Java インターフェイスまたは Web フォーム インターフェイスを起動しようとするとホスト名解決のエラーが表示される場合は、サーバー システムの構成方法に問題がある可能性があります。

- ブラウザが URL を検索できない場合は、URL の最初の部分を確認してください。サーバー名は完全修飾名 (例: *myserver.division.company.com*) でなければなりません。
- URL のサーバー名が完全修飾名でない場合 (例: *myserver*) や正しく指定されていない場合 (例: *www.myserver.com*) は、サーバー システムのネットワーク ID 情報を確認してください。

OVPM は最初の接続から、プロトコル (http または https)、システム名、ポート番号を判断し、その後のすべてのアクセスにこの情報を使用します。

[トップへ戻る](#)

---

---

## 仕様の詳細

[メトリック](#)

[表示期間](#)

[グラフ上のポイント数](#)

[フィルタ](#)

[ラベル](#)

[パラメータ](#)

[日付形式文字列](#)

## [時間形式文字列](#)

### [キーワード](#)

---

## メトリック

メトリックは、データソースで使用可能なクラス値およびメトリック値に正確に一致するものから提供されます。メトリックの比較では、大文字と小文字が区別されます。

**計算式** も使用できます。計算式では、他のメトリックに対する計算を行うことができます。計算式のメトリック名は、他のメトリック名、定数、および演算子 +、-、\*、/、(、) から構成されます。

メトリックの計算は、数学的な優先順序の規則は適用されず、左から右の順序で行われます。計算に 乗算 / 除算 と 加算 / 減算 の組み合わせを含める場合は、かっこを使用する必要があります。以下に例を示します。

- $3+(2*10) = 23$
- $3+2*10 = 50$

かっこを使用する場合は、かっこの開始、終了が正しく対応していることを確認してください。また、計算式にはスペースを含めないでください。計算式の長さには制限はありませんが、過度に複雑な式を指定すると、パフォーマンス低下の原因になります。

計算式の例:

```
CLASS:      APPLICATION
METRIC:     (APP_CPU_TOTAL_TIME*100.0)/INTERVAL
```

## [仕様の詳細の索引へ戻る](#)

---

## 表示期間

DATERANGE:、BEGINDATE:、ENDDATE: (または ENDDATEMONTH:、ENDDATEDAY:、ENDDATEYEAR:、ENDDATEHOUR、ENDDATEMINUTE:)、STARTTIME:、STOPTIME:

DATERANGE:、ENDDATE:、STARTDATE:、STARTTIME:、STOPTIME: のいずれも指定しなかった場合、デフォルトの表示期間として "7 日"、最終日時として "現在の時刻" が使用されます。

データは、クラス内の最初の日時タイプのメトリックに基づいて、データソースから選択されます。通常、これはローカル時間を表す「DATETIME」メトリックになります。

表示データの開始日時と最終日時は、以下の3つの方法で設定できます。

- "STARTTIME:" および "STOPTIME:" パラメータを使用して、開始日時と最終日時を明示的に設定します。この場合、DATERANGE:、BEGINDATE:、ENDDATE: に指定した値は無視されます。  
"STARTTIME:" および "STOPTIME:" による日時の指定には、ロケールに中立的な形式を使用します (YYYY,MM,DD HH:MM:SS)。
- "BEGINDATE:" および "ENDDATE:" パラメータを使用して、開始日時と最終日時を明示的に設定します。この場合、DATERANGE: に指定した値は無視されます。BEGINDATE: および ENDDATE: による日時の指定には、Performance Manager がインストールされているシステムのロケールで設定された形式を使用します。
- 選択する期間の長さを DATERANGE: に設定し、その期間の最終日時を ENDDATE: (または、ENDDATEMONTH:、ENDDATEDAY:、ENDDATEYEAR:、ENDDATEHOUR、ENDDATEMINUTE: のいずれかを含む代替形式) に設定します (期間の開始日時は、この2つの値から計算されます)。この方法が最も一般的に使用されます。

#### DATERANGE: および ENDDATE:

DATERANGE: には、数値、および単位を表す識別子を設定します。単位の識別子には、「分」、「時間」、「日」、「週」を指定できます。

- "デフォルトの表示期間は、"7 日" です。特別な表示期間である "すべて" を指定すると、データソースで使用可能なすべてのデータが選択されます。
- ENDDATE には、DATERANGE に設定した期間の最終日時を設定します。デフォルトの最終日時は **"現在の日時"** で、この設定では現在の日時が表示期間の最終日時になります。 **最後の日時** は、ログファイルにデータが最後に追加された日時を示します。
- 日時を指定することも可能です。日付は、OVPM サーバー システムで設定されている日付形式に従って、年、月、日を特定の順序で指定します。日付に続けて、時刻を 24 時間形式で指定します。各フィールドの区切り文字には、数字以外の任意の文字 (スペース文字を含む) を使用できます。フィールドは、右から左の順序で省略可能です。日付のみを指定し、時刻を省略した場合、時刻はその日の最後 (24:00) に設定されます。メモ: HTML グラフ内のタイムスタンプは最終日時として選択した時刻を示すとは限りません。これは [表示期間] および [ポイント間隔] の組み合わせに基づいて時刻が概算されるためです。

ENDDATE: を入力する代わりに、パラメータを使用して最終日時を指定することができます。日時の各部分について1つずつパラメータを使用します。いずれかのパラメータが指定されていると、ENDDATE: 値は無視されます。

キーワード	説明	デフォルト値
ENDDATEYEAR:	年 (1970~2037)	現在の年
ENDDATEMONTH:	月 (1~12)	現在の月
ENDDATEDAY:	日 (1~31)	現在の日
ENDDATEHOUR:	時刻 (0~24)	24 (午前 0 時)
ENDDATEMINUTE:	分 (0~59)	0

#### STARTTIME: および STOPTIME:

これらのフィールドの値によって、データ取得期間の開始日時と終了日時が設定されます。これらの値は、BEGINDATE:、ENDDATE: の値より優先されません。

このフィールドには、日時を示す数値を、数字以外の文字で区切って指定します。ここで使用する形式は、OVPM サーバー システムの設定には依存しません。年、月、日、時間、分、秒の順序で数値を指定してください。年を2桁で指定することはできません。一部のフィールドを省略した場合は、右側から以下のデフォルト値が使用されます。

月 = 2  
 日 = 1  
 時間 = 0  
 分 = 0  
 秒 = 0

たとえば、2000年7月4日の午前0時は、次のように指定します。

2000,7,4,0,0,0  
 または  
 2000,7,4

#### BEGINDATE: および ENDDATE:

STARTTIME: および STOPTIME を指定しなかった場合、これらのフィールドの値によって、データ取得期間の開始日時と終了日時が設定されます。

これらの日付の形式は、OVPM がインストールされているシステムの設定に依存します。この形式では、月、日、年を特定の順序で指定し、その後に時、分を指定します。各値が、数字以外の文字で区切られる場合もあります。この形式は、ロケールの仕様と正確に一致している必要はありません。ロケールの設定に関わらず、時刻は必ず24時間形式で指定します。AM/PM インジケータは使用できません。空白を含む場合は、その値を二重引用符で囲ってください。



たとえば、US における 2000 年 7 月 4 日の午前 0 時は、次のように指定します。

"7/4/00 24:00"

または

"7/4/2000"

[仕様の詳細の索引へ戻る](#)

---

## ポイント数

POINTSEVERY および NUMBEROFPOINTS

"円グラフ" および "ベースライン" 以外のグラフでは、以下の 2 つのいずれかの方法で、X 軸上のデータ ポイント数を指定できます。

- **"NUMBEROFPOINTS:"** に続けて、X 軸上に表示するポイント数を 1 ~ <maxpoints> の範囲で指定します (この値は、各データ ポイントに 5 分間隔の整数値が含まれるように、多少切り詰められる場合があります)。デフォルトのポイント数は 50、またはグラフ定義で指定した値 になります。

<maxpoints> は、作成するグラフの種類に応じて 変わります。

グラフの種類	最大ポイント
円グラフ	1
ゲージ	1
Web フォーム グラフ	1024
Web フォーム 表	5000
Java グラフ	2048
Java 表	5000
テキスト形式 (TSV、CSV)	1,000,000
XML	5000
Excel	65,000
予測	5000

Java グラフまたは Java 表の最大ポイント数の設定値は、スタイル ファイル (VPI\_Style.txt) 内の JAVAGRAPHPOINTS パラメータおよび JAVATABLEPOINTS パラメータを使用して上書きできます。

**注意:** 一部の Web ブラウザでは、1000 行を超える表が正しく表示されないことがあります。グラフや表に大量のポイントを表示すると、Java がハングアップしたり、過度の CPU リソースが使用されたりすることがあります。

- **"POINTSEVERY:"** に続けて、以下のオプションのいずれかを指定します。これにより、表示期間 (DATERANGE 値または STARTTIME/STOPTIME 値に指定) が、各期間に表示可能な最大ポイント数に基づいて分割されます。この場合、1 ~ [最大ポイント] の範囲に収まるようにポイント数が調整されることがあります。

自動	各データポイントにポイント数を自動的に計算します (デフォルト)
5 分	5 分ごとに 1 つのポイントを表示します。
15 分	15 分ごとに 1 つのポイントを表示します。
30 分	30 分ごとに 1 つのポイントを表示します。
時間 1 時間	1 時間ごとに 1 つのポイントを表示します。
3 時間	3 時間ごとに 1 つのポイントを表示します。
6 時間	6 時間ごとに 1 つのポイントを表示します。
12 時間	12 時間ごとに 1 つのポイントを表示します。
日 1 日	24 時間ごとに 1 つのポイントを表示します。
<number>	<number> は各ポイントに対してユーザーが指定した時間 (分単位) です。
raw	データソースからのデータを要約せずに表示します。

## [仕様の詳細の索引へ戻る](#)

## フィルタ

フィルタを使用すると、データの一部を選択できます。フィルタは、要約が実行される前に、各データレコードに対して適用されます。フィルタ指定に合致しないデータレコードは、最後に実行される計算に使用されません。

フィルタは、メトリック名、比較演算子、および比較対象の値から構成されます。メトリック名は、そのフィルタを適用するメトリックと同一のクラスから選択する必要があります。比較対象の値には、リテラル文字列、または以下に示す特別な形式を指定します。比較演算子には以下のものを使用できます。

=	等しい
>	より大きい
<	未満
>=	以上
<=	以下
!=	等しくない
!>	より大きくない (<= と同じ)
!>=	以上でない (< と同じ)
!<	未満でない (>= と同じ)
!<=	以下でない (> と同じ)
~	似ている (like) (先頭または末尾にワイルドカード "*" を指定可能な文字列との比較)
!~	似ていない (not like) (先頭または末尾にワイルドカード "*" を指定可能な文字列との比較)

たとえば以下のフィルタを使用して、Reporter データソースの単一システムのデータを選択できます (SYSTEMNAME は Reporter についてのみ使用されません)。

**FILTER: SYSTEMNAME=MYOWNSYS**

複数のフィルタを組み合わせるには、&& を使用します

**FILTER: SYSTEMNAME=MYOWNSYS&&APP\_NAME=Other**

このフィルタでは、システム名が "MYOWNSYS"、アプリケーション名が "Other" のデータだけが選択されます。

Reporter およびその他のデータソースについては、以下のフィルタを使用できます。

**FILTER: APP\_NAME=Other**

このフィルタでは、アプリケーション名が "Other" のデータだけが選択されます。

**特別な形式**のフィルタでは、値 "@" ("*metricname=@*") はデータソースのすべての値に合致します。ただし、各値はそれぞれ別のメトリックとして表示されます。

**FILTER: APP\_NAME=@**

このフィルタでは、すべてのデータが選択され、アプリケーション名ごとにグラフのメトリックが作成されます。 '@' 記号は複数のフィルタを組み合わせる場合にも使用できます。たとえば、以下のようになります。

`FILTER:SYSTEMNAME=@&&APP_NAME=@`

このフィルタでは、すべてのデータが選択され、システムとアプリケーション名の組み合わせごとに、固有のメトリックが作成されます。

メモ: '@' を使用した特別な形式のフィルタは、フィルタ メトリックがテキスト形式の場合に使用すると便利です。

**LIKE (類似) および NOT LIKE (非類似) 比較演算子 ("~" および "!~")** では、ワイルドカードを使用して文字列を比較できます。

- 先頭にアスタリスク "\*" を付けて値を指定した場合、その文字列を末尾に含むデータがマッチします。たとえば `"metric~*abc"` は `"Iknowmyabc"`、`"abc"` にマッチしますが、`"abcd"` にはマッチしません。
- 末尾にアスタリスク "\*" を付けて値を指定した場合、その文字列を先頭に含むデータがマッチします。たとえば `"metric~abc*"` は、`"abcdefg"` および `"abc"` にマッチしますが、`"Iknowmyabc"` にはマッチしません。
- 先頭と末尾の両方にアスタリスク "\*" を付けて値を指定した場合、その文字列を含むデータがマッチします。たとえば `"metric~*abc*"` は、`"Iknowmyabc"`、`"abc"`、`"abcdefg"`、`"Iknowmyabcswell"` のすべてにマッチします。
- アスタリスクを先頭でも末尾でもない場所に指定した場合、その文字はワイルドカードとしてではなく、アスタリスク文字自体として扱われます。たとえば `"metric~abc*d"` は、`"abc*d"` のみにマッチし、`"abcd"` や `"abdxd"` にはマッチしません。
- "NOT LIKE" 比較演算子 "!~" は、"LIKE" 比較演算子がマッチしないときにデータを返します。

#### 別のキーワード構文を使用する方法

フィルタは、上記に説明した方法で、単一の FILTER: キーワードを使用して指定できます。これは最も一般的な方法で、複数のフィルタ条件をこの方法で指定できます。別の方法として、"メトリック比較値" 形式でフィルタを指定することもできます。この方法では、シンプルなフィルタの各部分を3つのキーワードで指定します。

SFMETRIC:   メトリック名

SFCOMPARE: 比較演算子

SFVALUE:     比較値

kp> 以下のコマンドが同等になります。 FILTER:  
APP\_NAME=other SFMETRIC: APP\_NAME SFCOMPARE: = SFVALUE:  
other

[仕様の詳細の索引へ戻る](#)

## 表 フィルタ

表 フィルタは、通常のフィルタと非常によく似ていますが相違点もいくつかあります。表 フィルタは表にのみ適用され、すべてのグラフで無視されます。フィルタと異なり、表 フィルタは データが収集され要約された後に適用されます。通常のフィルタは、データの要約前に適用されます。Java 表を使用する場合、表の表示後に表 フィルタを変更して、表示するデータを変更することができます。このため、データソースに戻って新しいデータを取り出す必要がありません。この方法により表形式のデータを迅速に操作でき、検索内容を簡単に見つけられます。

表 フィルタは、通常のフィルタと同様に "&&" (**AND**) コネクタを使用して連結できます。また、"||" (**OR**) コネクタで連結することもできます。&& を使用する場合、フィルタが真になるためには、すべてのフィルタ指定が真になる必要があります。|| を使用する場合、いずれかのフィルタ指定が真であると、フィルタ全体が真になります。

別の形式によるフィルタ指定 (SFMETRIC: SFCOMPARE: SFVALUE:) は、表 フィルタでは使用できません。

表 フィルタで使用されるメトリックは、通常のフィルタのように、同じデータクラス、またはデータソース のものである必要はありません。メトリックは表に含まれているだけで充分です。メトリックはメトリック名で識別されるため、表内に同じ名前のメトリックが複数ある場合、最初の名前が表 フィルタで使用されます。

---

## ラベル

任意のメトリックにラベルを割り当てられます。ラベルを割り当てない場合は、デフォルトのメトリック ラベル指定がグラフ上で使用されます。デフォルトのメトリック ラベルは通常、このメトリックのデータソースで指定されるラベル、つまりメトリック名になります。デフォルトのメトリック ラベルは OVPM 管理者が変更します。

メトリックのフィルタ値に @ を使用した場合、ラベルでも '@@' に続けてメトリック名を指定することにより、ラベル内でその部分をメトリックの値に置換することができます。

```
FILTER: APP_NAME=@
```

```
LABEL: Application @@APP_NAME
```

このように指定すると、ラベルの "Application " の後の部分が実際のアプリケーション名に置換されます。たとえば "Application Other" や "Application Program Development" などになります。

以下のように1つのラベルで複数の異なるメトリック名を結合することもできます。

```
FILTER: SYSTEMNAME=@&&APP_NAME=@
```

```
LABEL: @@SYSTEMNAME:@@APP_NAME
```

このように指定すると、ラベルは "MYOWNSYS:Other" や "TheOtherSystem:Program Development" のようになります。

この機能は、Java インターフェイスでのみ使用可能です。

Web フォーム インターフェイスでは使用できません。

## [仕様の詳細の索引へ戻る](#)

---

### パラメータ

テンプレート ファイル処理中に、9 つまでのパラメータ PARAMETER1 ~ PARAMETER9 を使用して置換を行うことができます。置換は、テンプレートの行ごとに、その行の処理前に行われます。これらのパラメータを使用して、テンプレート ファイル構文中の任意の部分 (フィルタ値、メトリック名、クラス名など) で置換を行うことができます。

パラメータのデフォルト値は、テンプレート ファイル内で "PARAMETER" ステートメントを使用して指定します。このステートメントは、"PARAMETER"、次に 1 ~ 9 の 1 桁の数値、最後にコロンという構文に従って記述します。"PARAMETER1:"、"PARAMETER2:" ~ "PARAMETER9:" のようになります。

パラメータにデフォルト値が指定されると、それ以降のテンプレート行で見つかったすべての "@@PARAMETERn" (n は 1 ~ 9 の数字) が置換されます。たとえば、以下のステートメントは同等になります。

```
FILTER: SYSTEMNAME="MYSYSTEM"  
と  
PARAMETER1: MYSYSTEM  
FILTER: SYSTEMNAME=@@PARAMETER1
```

パラメータを使用すると汎用的なテンプレートを簡単に作成でき、パラメータ値ごとに異なるグラフテンプレートを作成する必要がなくなります。

パラメータの値は、URL またはコマンドライン インターフェイスから上書きできます。これにより、プログラムの実行ごとに異なるパラメータを指定することができます。

## [仕様の詳細の索引へ戻る](#)

---

### 日付形式文字列

通常、日付は OVPM サーバーがインストールされているシステムの言語に基づいた形式になります。ただし、DATEFORMAT キーワードを使用して新しい形式を入力することで上書きできます。通常、この作業は SAVECONFIG コマンドを使用してクライアント設定を保存するか、スタイル ファイルで行います。

正しい形式には、次の 3 つのフィールドが必要です。この順序に基づいて、グラフや表の日付の形式、および現地形式で入力する場合に求められる日付の形式が決まります。これ以外の文字は、特殊な形式設定文字 "GyMdhHmsSEDFwWakKz&apos;" でなければ、指定されたとおりに繰り返されます。

年	y または yy	2 桁だけが使用されます。1998 = "98" 2005 = "05"
	yyyy	4 桁が使用されます。
月	M	先頭にゼロを付けずに、月が表示されます。2 月 = "2"
	MM	先頭にゼロを付けて、月が表示されます。2 月 = "02"
日	d	先頭にゼロを付けずに、日が表示されます。
	dd	先頭にゼロを付けて、日が表示されます。

例: 2005 年 2 月 4 日の場合、次のように表示されます。

形式	日付
<b>M/d/yy</b>	2/4/05
<b>MM/dd/yy</b>	02/04/05
<b>M-dd-yyyy</b>	2-04-2005

日付形式を変更した場合、新たにグラフを作成した時点で変更内容が反映されます。

## [仕様の詳細の索引へ戻る](#)

---

### 時間形式文字列

通常、時刻は OVPM サーバーがインストールされているシステムの言語に基づいた形式になります。ただし、TIMEFORMAT キーワードを使用して新しい形式を入力することで上書きできます。通常、この作業は SAVECONFIG

コマンドを使用してクライアント設定を保存するか、スタイルファイルで行います。

正しい形式には、次のフィールドが必要です。この順序に基づいて、グラフや表の時刻の形式、および現地形式で入力する場合に求められる時刻の形式が決まります。これ以外の文字は、特殊な形式設定文字 "GyMdhHmsSEDFwWakKz&apros;" でなければ、指定されたとおりに繰り返されます。

<b>24 時間</b>	H	先頭にゼロを付けない、24 時間時計 (0 ~ 23) に基づく時刻
	HH	先頭にゼロを付けた、24 時間時計 (0 ~ 23) に基づく時刻
<b>12 時間</b>	h	先頭にゼロを付けない、12 時間時計 (0 ~ 11) に基づく時刻
	hh	先頭にゼロを付けた、12 時間時計 (0 ~ 11) に基づく時刻
<b>分</b>	m	先頭にゼロを付けない分
	mm	先頭にゼロを付けた分
<b>AM/PM</b>	a	AM/PM インジケータ (ローカル言語)。この項目はオプションで、時刻が 12 時間形式の場合に限り使用します。

例: 8:05 PM (20:05) の場合、次のように表示されます。

#### 形式          時刻

**h:m a**          8:05 PM

**hh:mm a**        08:05 PM

**HH:mm**          20:05

[仕様の詳細の索引へ戻る](#)

[トップへ戻る](#)

---

---

## キーワード

以下の指定は、Performance Manager ランタイム エンジンにさまざまなタスクを指示するために使用します。

ovpmbatch を使用した場合、すべてのキーワードがパラメータを取り、通常パラメータを取らないものでもパラメータが必要になります。通常パラメータを取らない場合は、キーワードの値を "1" に設定します ("SUMFROMRAW=1" など)。



これらのキーワードは、使用方法に応じて構文を少しずつ変えて指定できます。

<b>Web ブラウザ</b>	<p><b>-KEYWORD:</b> <i>value</i>          キーワードの前にダッシュ、後にコロンを付けます。          キーワードが値を要求しない場合、ダッシュとコロンは省略できます。-  <b>SKIPDAY1:</b>          空白を含む値は引用符で囲みます。-<b>GRAPH:</b> "Global History"          複数のキーワードは、空白で区切ります。-<b>GRAPHTEMPLATE:</b> Agents          -<b>GRAPH:</b> "Global History"</p>
<b>URL の構文 1</b>	<p><b>-KEYWORD:</b>%20<i>value</i>%20          上記の構文と同じですが、空白の代わりに %20 (16 進コードの空白) を使用します。ほとんどの Web ブラウザで自動的に処理されますが、URL が他の方式で生成される場合は、手動で実行する必要があります。-  <b>GRAPHTEMPLATE:</b>%20Agents%20-  <b>GRAPH:</b>%20"Global"%20History"</p>
<b>URL の構文 2</b>	<p><b>KEYWORD=</b><i>value</i><b>&amp;</b>          この構文を使用する場合、空白は記号 "+" に置き換えます。等号 記号 "=" およびアンパサンド "&amp;" を含む、キーワードまたは値内の特殊記号は、16 進コードに置き換えます。  <b>GRAPHTEMPLATE=</b>Agents<b>&amp;</b>GRAPH=Global+History<b>&amp;</b></p>
<b>ovpmbatch</b>	<p><b>KEYWORD=</b><i>value</i>          ovpmbatch については、値を要求しないキーワードの場合でも "=value" が必要です。例: SKIPDAY1=1  <b>GRAPHTEMPLATE=</b>Agents GRAPH="Global History"</p>

以下の指定はグラフ全体に適用されます。メトリックに個別に指定することはできません。

一般的な指定		
キーワード	値	説明
PARAMETER<n>: -p<n>	パラメータ値	ここで、<n> は 1 ~ 9 の数字です。デフォルトのパラメータ値を定義します。グラフテンプレートファイル内のパラメータ値は、実行時に指定するパラメータにより上書きできます ( <a href="#">「パラメータ」</a> を参照してください)。
CUSTOMER:	顧客名 または "すべての顧客"	顧客名は、表示されるデータをその顧客に属するデータに限定します。各顧客のデータにアクセスするには、それぞれ異なるパスワードが必要です。顧客は、Internet Services などの他製品のインターフェイスを使用して設定されます。"すべての顧客" がエントリされている場合で、顧客により制限されるビューが有効な場合、管理者パスワードを入力する必

		必要があります。
PASSWORD:	パスワード	顧客により制限される表示がデータソースに対して有効な場合、その顧客のデータにアクセスするにはパスワードが必要です。このパスワードには、それぞれの顧客に固有のパスワードか 特別な管理者パスワード (空白のユーザー パスワード) を使用できます。すべての顧客を指定するには、制限されるビューを有効にするたびに管理者パスワードを指定する必要があります。
GROUP:	グループ名	一部のデータはグループに分割されません。グループ名を指定すると、表示されるデータがそのグループに属するデータに限定されます。グループには、データソースに応じて異なる意味があります。例: Internet Services はサービスのグループを提供し、Reporter は システムのグループを提供します。
AUTOREFRESH:		グラフが定期的 (2 分ごと) に自動更新されるように指定します。ベースライン グラフは、この機能をサポートしません。
GRAPHTEMPLATE: (または最初の名前なし値)	テンプレートファイル名	グラフの指定が含まれているファイルの名前を特定します。
GRAPH: (または 2 番目の名前なし値)	グラフ名	グラフ テンプレート ファイル内のグラフの名前を特定します。デフォルトは、グラフ テンプレート ファイル内の最初のグラフです。
GRAPHTITLE:	タイトル文字列	グラフのタイトル文字列を指定します。*
GRAPHSUBTITLE:	2 番目のタイトル文字列	グラフの 2 番目のタイトル文字列を指定します。*
	* タイトルまたはサブタイトル フィールドに、実際の値を代入するキーワードを追加できます。	
	@@[SYSTEM]	グラフ作成されるシステム名
	@@DATERANGE	グラフに示される期間 (7 日間)
	@@POINTSEVERY	各データ ポイントに要約する時間 (10 分)
	@@SHIFT	時刻のシフト (8:00 ~ 17:00 または "終日")
	@@SKIPDAYS 90	スキップされる曜日のリスト (土曜日, 日曜日)
	@@SHOWDAYS	スキップされない曜日のリスト (月曜日, 火曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日)
		土曜日をスキップするかどうかを指

	<code>@@NOHOLIDAYS</code>	休日をスキップするかどうかを指定します (空白または "休日なし")。
	<code>@@STARTTIME</code>	グラフの開始時刻 (3/1/04 3:00 PM)
	<code>@@STOPTIME</code>	グラフの最後の時刻 (3/8/04 3:00 PM)
	<p>また、サブタイトルの前に <code>&lt;small&gt;</code> を、最後に <code>&lt;/small&gt;</code> を追加することで、サブタイトルを短くしてテキストを増やすことができます。</p> <p>例: <code>&lt;small&gt;@@DATERANGE with points every @@POINTSEVERY @@SHOWDAYS&lt;/small&gt;</code></p>	
<code>YAXISTITLE:</code>	タイトル文字列	左 Y 軸のラベルを指定します。
<code>YAXISTITLERIGHT:</code>	タイトル文字列	右 Y 軸のラベルを指定します。
<code>GRAPHTYPE:</code>	line	折れ線または混合グラフ
	area	塗りつぶされた面グラフ
	bar	棒グラフ
	hbar	横向きの棒グラフ
	mixed	メトリックを折れ線、棒、面に組み合わせたもの
	pie	円グラフ
	table	時間が縦、メトリックが横の表
	htable	時間が横、メトリックが縦の表
	gauge	スピードメーター型ゲージ、各メトリックに 1 つ
	xml	XML データ表示
	csv	カンマ区切りのテキストファイル
	tsv	タブ区切りのテキストファイル
	excel	Microsoft Excel スプレッドシート (クライアントシステムに Excel が必要)
	baseline	ベースラインレポート表示
<code>GRAPHBACKGROUND:</code>	<code>&lt;color&gt;</code>	グラフ背景の色です。Java のデフォルトは透明です (アプリケーションの背景と同じ色になります)。
<code>GRAPHMETRICSPERGRAPH:</code>	<code>&lt;number&gt;</code>	単一グラフ上のメトリックの最大数です。デフォルトは 8 です。
<code>GRAPHMULTIPLEGRAPHS:</code>	Yes または No	デフォルトは NO。Yes にすると、グラフ化するメトリックの合計数が <code>GRAPHMETRICSPERGRAPH:</code> の値を超えた場合に追加グラフを作成します。Java グラフでは無視されます。

		テキスト エディタにはデフォルト値は表示されません。デフォルトの設定を変更するには、具体的なキーワードを含める必要があります。
DATERANGE:	<daterange>	グラフに含める日付 / 時間の範囲です (「 <a href="#">表示期間</a> 」を参照してください)。
BEGINDATE: ENDDATE:	<datetime>	グラフに含める最初および最後の日付 / 時刻です。このパラメータは、グラフ全体に含める時刻を設定する "DATERANGE:" パラメータと連動して作用します。ENDDATE: フィールドの形式は、Performance Manager サーバシステム上の設定により異なります。最初に、年、月、および日をサーバシステムのロケールに合致する特定の順序で入力します。時と分はオプションですが、それらは上の 3 つの日付フィールドの後に入力する必要があります。フィールド間には、数値以外の任意の区切り文字を使用できます。US では、2001 年 12 月 25 日、深夜 0 時の 1 分前は、次のように入力します。"12/31/01 23:59".
STARTTIME:	<datetime>	グラフに含める最初の日付 / 時刻です。形式は YYYY,MM,DD,HH,MM,SS です。
STOPTIME:	<datetime>	グラフに含める最後の日付 / 時刻です。形式は YYYY,MM,DD,HH,MM,SS です。 STARTTIME と STOPTIME の両方が指定されている場合はこのデータ範囲が使用され、DATERANGE と ENDDATE が指定されていてもそれらは無視されます (「 <a href="#">表示期間</a> 」を参照してください)。
SHIFT:	HH:MM- HH:MM	24 時間時計を使用したシフトの開始および終了時刻。終日は、00:00 ~ 24:00 のように指定します。
SHIFTSTART:	HH:MM	24 時間時計 (00:00 ~ 24:00) を使用したシフトの開始時刻。SHIFTSTOP と一緒に使用します。
SHIFTSTOP:	HH:MM	24 時間時計 (00:00 ~ 24:00) を使用したシフトの終了時刻。SHIFTSTART と一緒に使用します。
SKIPDAYS:	1234567 SAT,SUN,... Local day of week	グラフから除外する曜日。1 ~ 7 の数字はそれぞれ日曜日から土曜日に対応します。ローカライズされた曜日が使用できるのは、OVPM がロケールでローカライ

		ズされている場合だけです。SKIPDAY1 から SKIPDAY7 も参照してください。
SKIPDAY1: SKIPDAY2: SKIPDAY3: SKIPDAY4: SKIPDAY5: SKIPDAY6: SKIPDAY7:		グラフから除外する曜日。SKIPDAY1 は日曜日を、SKIPDAY2 は月曜日を、それぞれ除外します。SKIPDAYS も参照してください。同じ要求で SKIPDAYS と SHOWDAYS を使用しないようにしてください。
SHOWDAYS:	1234567 SAT,SUN,... <i>Local day of week</i>	グラフに含める曜日。1 ~ 7 の数字はそれぞれ日曜日から土曜日に対応します。ローカライズされた曜日が使用できるのは、OVPM がロケールでローカライズされている場合だけです。SHOWDAY1 から SHOWDAY7 も参照してください。
SHOWDAY1: SHOWDAY2: SHOWDAY3: SHOWDAY4: SHOWDAY5: SHOWDAY6: SHOWDAY7:		グラフに含める曜日。SHOWDAY1 は日曜日を、SHOWDAY2 は月曜日をそれぞれ含めます。SHOWDAYS も参照してください。同じ要求で SKIPDAYS と SHOWDAYS を使用しないようにしてください。
NOHOLIDAYS:		グラフから休日を除外します。休日は管理者が管理する設定ファイルで定義されます。
GRAPHSIZE:	small	通常よりも小さいグラフを作成します。より細かく制御をするには、PIXELSWIDE: と PIXELSHIGH: を使用します。Java グラフでは、すべてのグラフ サイズ値は無視されます。
	medium	通常のサイズのグラフを作成します。より細かく制御をするには、PIXELSWIDE: と PIXELSHIGH: を使用します。
	large	通常より大きいグラフを作成します。より細かく制御をするには、PIXELSWIDE: と PIXELSHIGH: を使用します。
PIXELSWIDE:	<number>	グラフ画像ファイルの幅のピクセル数 (デフォルトは 600) です。より単純な制御には GRAPHSIZE: を使用します。Java グラフでは無視されます。
PIXELSHIGH:	<number>	グラフ画像ファイルの高さのピクセル数 (デフォルトは 500) です。より単純な制御には GRAPHSIZE: を使用します。Java グラフでは無視されます。
GRID:	none、horiz、vert、または	水平または (および) 垂直のグリッド線を描画するかどうかを指定します。

	horiz と vert	
GRIDHORIZ:		水平グリッド線を描画します。
GRIDVERT:		垂直グリッド線を描画します。
SORTBY:	value、reverse、または label	メトリックを平均値 (降順)、平均値 (昇順)、またはラベル文字列でソートします。デフォルトでは、指定でエントリされている順序でメトリックをソートします。
SORTBYVALUE:		メトリックを平均値でソートします。
SORTBYLABEL:		メトリックをラベル文字列でソートします。
STACKED:		面グラフおよび棒グラフは、1 つのメトリックの値を前のメトリックに "積み重ね" ます。
3D:	<blank> yes true 1	三次元効果処理を施したグラフを表示します。空白、yes、true、1 以外の値を指定すると、三次元効果が無効になります (デフォルト)。
NUMBEROFPOINTS:	<number>	<p>表示するデータ ポイントの数です (デフォルトは 50 ポイント)。この値が POINTSEVERY 指定と共に使用されることで、各データ ポイントでデータをどの程度要約するかが決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフおよび面グラフでは、&lt;number&gt; は 1 ~ 255 です。Java では 1 ~ 1024 です。HTML の横向きの棒グラフでは 20 ポイントまでに制限されます。</li> <li>表および xml グラフでは、&lt;number&gt; は 1 ~ 5000 ですが、1000 行を超える表を正しく処理できないブラウザもあるので注意してください!</li> <li>円グラフおよびベースライン グラフでは、この指定は無視されます (円は 各メトリックに必ず 1 つの ポイントを表示し、ベースラインは 1 時間ごとに 必ず 1 つの ポイントを表示します)。</li> </ul> <p>(「<a href="#">PointsEvery</a>」を参照してください)</p>
JAVAGRAPHPOINTS:	<number>	Java グラフの最大データ ポイント数は 255 ~ 2048 ポイントです (デフォルトは 1024 ポイントです)。この値を使用して、表示の精度と速度のバランスを取るために NUMBEROFPOINTS が制限されま

		す。値を大きくすると、ポイントの多い Java グラフの表示に 数分間を要します。この項目は、 <a href="#">スタイル ファイル</a> の中で最も頻繁に使用します。
JAVATABLEPOINTS:	<number>	Java 表の最大データ ポイント数は 50 ~ 2048 ポイントです (デフォルトは 1024 ポイントです)。この値を使用して、表示の精度と速度のバランスを取るために NUMBEROFPOINTS が制限されます。値を大きくすると、ポイントの多い Java 表の表示に 数分間を要します。場合によっては、多数の行と桁がある表では、アプリケーションが大量の CPU を消費して 'フリーズ' することさえあります。この項目は、 <a href="#">スタイル ファイル</a> の中で最も頻繁に使用します。
POINTSEVERY:	<pointsevery>	どの程度のデータを各データ ポイントに要約するかを選択します。この 値が NUMBEROFPOINTS 値と共に使用され、要約のレベルが決まります ( <a href="#">「ポイント数」</a> を参照してください)。
FORCEPOINTSEVERY:	<pointsevery>	pointsevery 値をこの値に強制設定することを指定します。これを指定すると、グラフの作成時にユーザーが選択した pointsevery 値に上書きされます。
SUMFROMRAW:	*メモを参照	MeasureWare データソースからのデータを要約されていない形でシステムから取得し、Performance Manager で要約することを指定します。この機能は、MeasureWare によるデータの要約が望ましくない場合にのみ使用します。この機能を使用すると、システムから大量のデータが転送され、グラフの作成が遅くなる場合があります。この機能は、MeasureWare データソースにのみ有効です。*メモ: このキーワードにはパラメータはありませんが、ovpmbatch で必要とされるパラメータ パターン "key=value" を保持するには、"SUMFROMRAW=value" 形式で使用する必要があります。
MINY:	<real number>	左 (デフォルト) Y 軸の最小値です。グラフの種類が ゲージの場合は、ゲージの目盛り上の最小値を選択します。
MAXY:	<real number>	左 (デフォルト) Y 軸の最大値です。グラフの種類が ゲージの場合は、ゲージの目盛り上の最大値を選択します。



MINYR:	<real number>	右 (オプション) Y 軸の最小値です。
MAXYR:	<real number>	右 (オプション) Y 軸の最大値です。
XML:		選択したグラフまたは表のデータを XML 形式で返します。グラフの種類によっては追加情報が提供されます。グラフの種類がゲージの場合はゲージ設定 (最小、最大、緑、黄、赤、単位など)、グラフの種類が“ベースライン”の場合はその週の毎日の 1 時間ごとの統計値が返されます。

次の指定は、予測タイプのグラフで使用されます。

Planner (予測) グラフの指定		
FORECASTTYPE:	smooth	元のメトリックを、メトリックの線を平滑化して作成します。平滑化は、各データポイントで 7 点の移動平均 (データポイントの前後 3 つずつとデータポイント自体) を取り、最大 10 回繰り返すことで行います。平滑化されたデータについては、予測は行われません (このため、“予測最終” 日付は使用されません)。
	linear	最小 2 乗法による線形回帰計算を行って、元のデータに直線を当てはめます。その後、データがない部分についても、この予測される線形を延長し、“予測最終” 日付を計算します。
	exp	ほとんどのデータは線形方法で予測できますが、非線形の動作が判明しているメトリックもあります。たとえば、システムの負荷が高くなるにつれ、通常、応答時間は指数的に低下します。このようなタイプのメトリックでは、指数曲線方法が適しています。
	s	データによっては、特定の範囲の値だけに限られることがわかっているものもあります。たとえば、CPU の使用率は 0% を下回ることはありません。また 100% を上回ることもありません。線形方法や指数方法による予測は制約が加えられていないため、無限の値の予測に使用されます。“S 字カーブ” 予測では、予測される線形が、“S-Curve Min” 値と “S-Curve Max” 値の間に入るように、“S” 字のカーブ フィットを適用します。

	bus	それ以外の傾向分析方法では、メトリックの動作を時間の関数として予測します。メトリックが時間の関数として変化している場合に、これらの方法を使用します。メトリックの変化がスムーズな経時変化ではないものの、他の何らかのメトリックを追跡していることがわかっている場合は、ビジネス単位方法を使用できます。ビジネス単位のキーワード BUDATASOURCE、BUSYSTEMNAME、BUEXTENDED、BUCLASS、BUMETRIC を参照してください。
FORECASTDATEDAY: FORECASTDATEMONTH: FORECASTDATEYEAR:	<1-31> <1-12> <1970-2037>	予測期間の終わり。この日付は常にグラフの最終日時以降になります。予測の最終日時は、傾向分析方法 "平滑化" には使用されません。
SHOWVALIDATE:		最終日時以降から予測の最終日時よりも前のデータを 確認データとして表示します。このデータはモデリング方法からは除外されますが、予測が実データと一致しているかどうか確かめるために表示されます。
INTERVALTYPE:	none	予測のために、上限および下限の信頼限界曲線は描画されません。
	confidence	上限および下限の信頼線が描画され、予測値の平均 (傾向線) が 所定の割合の時間に入る範囲が示されます。
	prediction	上限および下限の予測線が描画され、予測値 (すべてのポイント) が 所定の割合の時間に入る範囲が示されます。予測限界間の範囲は 常に信頼限界よりも広くなります。予測限界はすべてのポイントに適用され、平均値だけに適用されるわけではないためです。
CONFIDENCE:	<number>	信頼間隔または予測間隔の表示に使用されるパーセント。標準値は 70、75、80、90、95、96 です。
SEASONHOD:		時間による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は時間による周期性を考慮します。
SEASONDOW:		曜日による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は曜日による周期性を考慮します。
SEASONWOM:		週による周期性で予測精度が向上する

		かどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は週による周期性を考慮します。
SEASONMOY:		月による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は月による周期性を考慮します。
BUDATASOURCE:	reporter mwa coda is db file	ビジネス単位メトリックのデータソースを指定します。これは、FORECASTTYPE が "bus" の場合に限り使用されます。詳細は、DATASOURCE キーワードを参照してください。
BUSYSTEMNAME:	<system name>	ビジネス単位メトリックのシステム名を指定します。これは、FORECASTTYPE が "bus" の場合に限り使用されます。詳細は、SYSTEMNAME キーワードを参照してください。
BUEXTENDED:	<datasource:system name>	ビジネス単位メトリックのデータソースとシステム名を指定します。これは、FORECASTTYPE が "bus" の場合に限り使用されます。詳細は、DSEXTENDED キーワードを参照してください。
BUCLASS:	<class name>	ビジネス単位メトリックのクラスを指定します。これは、FORECASTTYPE が "bus" の場合に限り使用されます。詳細は、CLASS キーワードを参照してください。
BUMETRIC:	<metric name>	ビジネス単位メトリックのメトリック名を指定します。これは、FORECASTTYPE が "bus" の場合に限り使用されます。詳細は、METRIC キーワードを参照してください。

以下の指定は、メトリックより先に行うことができます。その場合、指定した内容がデフォルトの指定になります。以下の指定は、必要に応じてメトリック単位で上書きできます。

デフォルトのメトリック指定		
DSN:	<name>	名前付きのデータソースを識別する文字列です。
DATASOURCE:	reporter	Reporter データベースがデータソースです。システム名は必須ではありません。

	mwa	MeasureWare エージェントがデータソースです。この場合、エージェントを実行しているシステムの 名前を SYSTEMNAME 指定に含める必要があります。
	CODA	Linux の場合の VPPA などの、CODA Agent がデータソースです。この場合、CODA エージェントを実行しているシステムの 名前を SYSTEMNAME 指定に含める必要があります。
	is	OVIS 製品がデータソースです。この場合、システム名 を SYSTEMNAME 指定に含める必要はありません。システム名が指定されていても、無視されます。
	db	ユーザーが提供する一般データベースがデータソースです。この場合、システム名がデータベースの名前であると解釈されます。この名前は、Reporter 製品に設定した "その他のデータベース" のいずれかと一致する必要があります。SYSTEMNAME 指定を使用してデータベース名を指定します。
	file	"フラット ファイル" データソース。SYSTEMNAME 指定を使用してファイル名を指定します。
		データソースが指定されないが、1 つ以上のシステム名が指定された場合、データソースは各システム上のエージェントに基づいて選択されます。1 つのシステム上で複数のエージェントが 使用可能な場合、使用するエージェントは次の順に選択されます [MWA、CODA]。
SYSTEMNAME:	<system name>	MeasureWare エージェントを実行しているシステムの名前を指定します (この指定は、DATASOURCE が MWA または CODA に設定されている場合に必須です)。複数の システム名を (メトリック定義よりも前に) 指定した場合、各システムについてグラフ全体が繰り返されます。  指定されたデータソースが db の場合、このフィールドには、Reporter の [データベースの構成] 機能で指定したものと同一データベースの名前を含める必要があります。
DSEXTENDED:	<datasource:systemname>	このキーワードにより、DATASOURCE と SYSTEMNAME を同時に指定できます。指定する値は、DATASOURCE 値、1 つ

		の colon、および SYSTEMNAME 値から なります。SYSTEMNAME 値が 必須でな い場合、DATASOURCE 値のみで十分で す。有効な拡張データソース値は、 DSEXTENDED: MWA:mssystem、 DSEXTENDED: is、DSEXTENDED: db:mydatabase です。
CLASS:	<class name>	名前付きのデータソースにより提供される メトリックのクラスの 名前を 指定します。データソースがこのデータ クラスを公開しな い場合、この メトリックは無視されます。 同じクラス内のメトリックであれば、各メトリ ックに対してこの指定を繰り返す必要はあ りません。
MISSINGDATA:	hidden	このメトリックを使用できないデータ ポイントはグラフ化されません。なお、マーカ ーを指定していない場合、失われたデータで 囲まれた単一のデータ ポイントは、それ自 体が失われたように見えます (1 つの ポイ ントのみでは線を描けないためです)。この 場合はマーカーを使用します。
	zero	このメトリックを使用できないデータ ポイ ントは、0 の値で グラフ化されます。
	previous	このメトリックを使用できないデータ ポイ ントは、失われていない最後の値と等しい値 でグラフ化されます。
DATAINTERVAL:	<number>	データのログが "まばらに"、0 の値を除い て記録されることを示します。指定された 場合、<number> は、予測されるレコード 間隔を分単位で示します。この指定は、 予想されるがログに記録されなかったレコ ードを要約レコードの数に含めるよう強制 するので、メトリック値の平均値計算に影 響します。
FILTER:	<filterstring>	データに適用されるデータ フィルタを指定 します。これは通常、このメトリックの値 を、フィルタ指定に合致する値のみに制限 する 結果になります ( <a href="#">「フィルタ」</a> を参照して ください)。
SFMETRIC:	<filtermetric>	次の単純なフィルタ構文に使用されるメトリ ック名です。 <metricname> <comparecode> <value> SFMETRIC:、SFCOMPARE:、および SFVALUE: を同時に使用して、より一般的 な FILTER: の代わりに使用します ( <a href="#">「フ ィルタ」</a> を参照してください)。
SFCOMPARE:	<comparecode>	次の単純なフィルタ構文に使用される比較

		<p>演算子です。</p> <p><code>&lt;metricname&gt; &lt;comparecode&gt; &lt;value&gt;</code></p> <p>比較 演算子は次のいずれかです。</p> <p><code>= != &gt; &gt;= &lt; &lt;= ~ !~</code></p> <p>SFMETRIC:、SFCOMPARE:、および SFVALUE: を同時に使用して、より一般的な FILTER: の代わりに使用します (<a href="#">「フィルタ」</a>を参照してください)。</p>
SFVALUE:	<code>&lt;filter value&gt;</code>	<p>次の単純なフィルタ構文で比較される値です。</p> <p><code>&lt;metricname&gt; &lt;comparecode&gt; &lt;value&gt;</code></p> <p>SFMETRIC:、SFCOMPARE:、および SFVALUE: を同時に使用して、より一般的な FILTER: の代わりに使用します (<a href="#">「フィルタ」</a>を参照してください)。</p>
INSTANCE	<code>&lt;value&gt;</code> <code>*PROMPT*</code>	<p>キー付きの複数インスタンス データ クラスの場合、キー値が指定された値に等しいレコードのみを選択します。*PROMPT* が指定されている場合、グラフの作成時に、ユーザーは使用できる値のリストから値を選択するよう要求されます。</p>
RANGEYELLOW:	<code>&lt;real number&gt;</code>	<p>グラフ タイプ ゲージについて、ゲージが緑から黄へ変化するポイントを選択します。RANGERED の値が RANGEYELLOW よりも大きい場合、左に緑、右に赤でゲージが作成されます。RANGERED の値が RANGEYELLOW よりも小さい場合、左に赤、右に緑でゲージが作成されます。</p>
RANGERED:	<code>&lt;real number&gt;</code>	<p>グラフ タイプ ゲージに対して、ゲージが黄から緑へ変化するポイントを選択します。RANGERED の値が RANGEYELLOW よりも大きい場合、左に緑、右に赤でゲージが作成されます。RANGERED の値が RANGEYELLOW よりも小さい場合、左に赤、右に緑でゲージが作成されます。</p>
YAXISTITLE:	<code>&lt;units string&gt;</code>	<p>グラフ タイプ ゲージに対して、ゲージの最下部に表示されるユニット ラベルを選択します。</p>

以下の指定は、特定の1つのメトリックに関してのみ 指定できます。その次のメトリックが以下の指定を指定しない場合、それらの指定はデフォルト値に戻ります。

メトリックの指定		
METRIC:	<code>&lt;metricname&gt;</code>	データソースにより提供されるメトリックの名前を指定します。このメトリックが CLASS 内部で公開されない場合、この

		メトリックは 無視されます ( <a href="#">「メトリック」</a> を参照してください)。														
LABEL:	<label string>	<p>グラフでこのメトリックを識別するときに使用するラベルを指定します。このラベルには、リテラル値と特別な置換変数の参照を取り込むことができます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>変数</th> <th>置換される内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>@@[LABEL]</td> <td>データソースで指定されるメトリックラベル。("CPU %" など) データソースでラベルが指定されていない場合は、メトリック名が使用されます。</td> </tr> <tr> <td>@@[METRIC]</td> <td>メトリック名 ("GBL_CPU_TOTAL_UTIL" など)</td> </tr> <tr> <td>@@[CLASS]</td> <td>メトリック クラス ("GLOBAL" など)</td> </tr> <tr> <td>@@[SYSTEM]</td> <td>メトリックを提供するシステム名 ("mysys.net.com" など)</td> </tr> <tr> <td>@@[DATASOURCE]</td> <td>このメトリックのデータソース ("MWA"、"CODA"、"RepSys" など)</td> </tr> <tr> <td>@@metric</td> <td>同じデータソースおよびクラスからの <i>metric</i> メトリックの値。 たとえば、 "@@BYDSK_DEVNAME" と指定すると、BYDSK_DEVNAME メトリックの値がメトリックのラベルとして表示されます。 BYDSK_DEVNAME メトリックの値が "0" である場合、"Disk @@BYDSK_DEVNAME" のラベルは "Disk 0" になります (<a href="#">「ラベル」</a>を参照してください)。</td> </tr> </tbody> </table> <p>例: @@[SYSTEM]:@@[CLASS]:@@[METRIC] では、 "mysys.net.com:GLOBAL:GBL_CPU_TOTAL_UTIL" のようなラベル名が表示され、 デフォルトの @@[LABEL] では "CPU %" のようなラベルになります。</p> <p>ラベルが指定されていない場合は、デフォルトのラベル指定に基づいてメトリックのラベルが表示されます。デフォルトでは、これは @@[LABEL] と同じですが、OVPM サーバシステム上の設定ファイルを編集することで変更できます。</p>	変数	置換される内容	@@[LABEL]	データソースで指定されるメトリックラベル。("CPU %" など) データソースでラベルが指定されていない場合は、メトリック名が使用されます。	@@[METRIC]	メトリック名 ("GBL_CPU_TOTAL_UTIL" など)	@@[CLASS]	メトリック クラス ("GLOBAL" など)	@@[SYSTEM]	メトリックを提供するシステム名 ("mysys.net.com" など)	@@[DATASOURCE]	このメトリックのデータソース ("MWA"、"CODA"、"RepSys" など)	@@metric	同じデータソースおよびクラスからの <i>metric</i> メトリックの値。 たとえば、 "@@BYDSK_DEVNAME" と指定すると、BYDSK_DEVNAME メトリックの値がメトリックのラベルとして表示されます。 BYDSK_DEVNAME メトリックの値が "0" である場合、"Disk @@BYDSK_DEVNAME" のラベルは "Disk 0" になります ( <a href="#">「ラベル」</a> を参照してください)。
		変数	置換される内容													
		@@[LABEL]	データソースで指定されるメトリックラベル。("CPU %" など) データソースでラベルが指定されていない場合は、メトリック名が使用されます。													
		@@[METRIC]	メトリック名 ("GBL_CPU_TOTAL_UTIL" など)													
		@@[CLASS]	メトリック クラス ("GLOBAL" など)													
		@@[SYSTEM]	メトリックを提供するシステム名 ("mysys.net.com" など)													
		@@[DATASOURCE]	このメトリックのデータソース ("MWA"、"CODA"、"RepSys" など)													
@@metric	同じデータソースおよびクラスからの <i>metric</i> メトリックの値。 たとえば、 "@@BYDSK_DEVNAME" と指定すると、BYDSK_DEVNAME メトリックの値がメトリックのラベルとして表示されます。 BYDSK_DEVNAME メトリックの値が "0" である場合、"Disk @@BYDSK_DEVNAME" のラベルは "Disk 0" になります ( <a href="#">「ラベル」</a> を参照してください)。															
COLOR:	<color>	このメトリックをグラフ化するときに使用する色。デフォルトでは、各メトリックに一意な色が選択されます。														
LINEWIDTH:	<number>	このメトリックに対して描く線の幅のピクセル数です。この指定は、GRAPHTYPE が line で、LINESTYLE が solid のと														



		きのみ有効です (Java には適用されません)。デフォルトは 1 です。
LINESTYLE:	solid	実線 (LINEWIDTH が有効) です (Java には適用されません)。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	dashed	破線です。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	dotted	点線です。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	dash-dotted	一点鎖線です。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	dash-dot-dotted	二点鎖線です。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	bar	棒です。GRAPHTYPE が line または bar のときのみ使用します。Java では塗りつぶしが可能です。
	area	塗りつぶされた面です。GRAPHTYPE が line または area のときのみ使用します。
FILLSTYLE:	solid	円グラフおよび棒グラフの塗りつぶしパターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	25%	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの 25 パーセントの塗りつぶしパターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	50%	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの 50 パーセントの塗りつぶしパターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	75%	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの 75 パーセントの塗りつぶしパターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	horizontal	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの水平パターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	vertical	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの垂直パターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	45degrees	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの 45 度のパターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	135degrees	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの 135 度のパターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	diagonal	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの斜線パターンです (Java グラフにのみ影響します)。
	cross	円グラフ、面グラフ、および棒グラフの交差パターンです (Java グラフにのみ影響します)。
MARKER:	none	ライン上にマーカーを付けません。
	auto	Java グラフでのライン マーカーを自動選択します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	square	有効な各ポイントに空の正方形を表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	circle	有効な各ポイントに円を表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	triangle	有効な各ポイントに三角形を表示します。GRAPHTYPE が

		line のときのみ使用します。
	dot	有効な各ポイントに球を表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	cube	有効な各ポイントに立方体を表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	diamond	有効な各ポイントにひし形を表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	star	有効な各ポイントに星を表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	cross	有効な各ポイントにクロス マーカーを表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	vertical	有効な各ポイントに垂直マーカーを表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
	horizontal	有効な各ポイントに水平マーカーを表示します。GRAPHTYPE が line のときのみ使用します。
SUMTYPE:	auto	データソース (MWA と CODA) で指定される要約方式を使用するか、"Average" を使用します。
	average	合計してから値の数で除算して数値を結合します (平均)。数字以外のデータは最後の値を使用します。
	sum	値を追加して数値を結合します。
	minimum	最小の値をとって数値を結合します。
	maximum	最大の値をとって数値を結合します。
	last	最後に受信した値をとって、数値または非数値を結合します。
	count	各データポイントに結合されたデータソースのレコード数をカウントします。
YAXISRIGHT:		このメトリックを、右側の Y 軸を基準にして表示します。YAXISRIGHT を選択している メトリックがない場合、右側 Y 軸は表示されません。

次の指定は表にのみ適用されます。表が表示される前に、表内のデータに対して行われる特殊な後処理を示しています。Java 表を使用する場合、データソースに戻らずにデータの表示方式を変えるために、これらの指定は大きく変わることがあります。これらの設定を表 テンプレートで使用した場合、Java 表では初期設定となり、HTML 表では最終設定となります。

表の指定	
TABLEFILTER:	フィールドの値に基づいて、表のデータの一部を削除します。 "FILTER:" パラメータと非常に似た機能を持ちますが、FILTER: がデータの要約の前に処理されるのに対し、TABLEFILTER: はデータの要約の後に処理されます。また、TABLEFILTER: では、1 つ前の条件 または 1 つ後の条件のいずれかが真であることを表すのに、フィルタ条件を二重垂直棒 "  " で区切ります。この他に、1 つ前の条

	件と1つ後の条件がいずれも真であることを示す二重アンパサンド "&&" があります。TABLEFILTER: の指定は表全体に適用され、METRIC: の指定の前に使用する必要があります。(「 <a href="#">フィルタ</a> 」を参照してください)												
TABLEHIGHLIGHT:	<p>この指定は、表内の項目の色を変える場合に使用できます。 METRIC: 指定の後に置き、この指定に適用します。</p> <p>構文: <i>Condition Value Color [&amp;&amp; ...]</i> 例: &gt;80 Red 複数の指定は "&amp;&amp;" で区切って指定します。最後の 真の指定により、使用される色が設定されます。</p> <p>例: &gt;5 Yellow &amp;&amp; &gt;10 Magenta &amp;&amp; &gt;80 Red</p> <table border="1"> <tr> <td><b>normal</b></td> <td>&lt;=5</td> </tr> <tr> <td><b>Yellow</b></td> <td>&gt;5 および &lt;=10</td> </tr> <tr> <td><b>Magenta</b></td> <td>&gt;10 および &lt;= 80</td> </tr> <tr> <td><b>Red</b></td> <td>&gt; 80</td> </tr> </table> <p>例: &gt;80 Red &amp;&amp; &gt;10 Magenta &amp;&amp; &gt;5 Yellow</p> <table border="1"> <tr> <td><b>normal</b></td> <td>&lt;=5</td> </tr> <tr> <td><b>Yellow</b></td> <td>&gt; 5</td> </tr> </table>	<b>normal</b>	<=5	<b>Yellow</b>	>5 および <=10	<b>Magenta</b>	>10 および <= 80	<b>Red</b>	> 80	<b>normal</b>	<=5	<b>Yellow</b>	> 5
<b>normal</b>	<=5												
<b>Yellow</b>	>5 および <=10												
<b>Magenta</b>	>10 および <= 80												
<b>Red</b>	> 80												
<b>normal</b>	<=5												
<b>Yellow</b>	> 5												

以下の指定には、説明のとおり特別な意味があります。

特殊用途の指定		
JAVAGRAPH:		ゲージ、ベースライン、XML 以外のすべてのグラフタイプで、Java インターフェイス グラフ機能を使用します。
ENDOFMETRIC:		この指定は、グラフ テンプレート ファイル内で使用し、1つのメトリックの指定終了をマークします。また、メトリック指定は、新しいメトリックが開始するとき (DATASOURCE:, CLASS:, または METRIC: キーワード)、および グラフの末尾により終了します。
END_GRAPH:		この指定を使用して、グラフ テンプレート ファイル内の1つのグラフ定義を終了します。これにより、単一のテンプレート ファイル内に複数のグラフ定義を作成できます。
FORMTEMPLATE:	<file name>	Web ページ フォームの作成に使用するフォーム テンプレート ファイルの名前を指定します。デフォルトのフォーム テンプレート ファイルは "VPI_Form.txt" です。すべての フォーム テンプレート ファイルは、<install_dir>newconfig ディレクトリにあります。GETNEWFORM が

		指定されている ときのみ使用します。
NUMBEROFMETRICLINES:	<number>	これは、新しい Web ページ フォームの作成時に作成する個々の メトリック指定の数です。GETNEWFORM が指定されているときのみ使用します。
*GETNEWFORM:		<p>* メモ: これらのパラメータには、相互に排他的になっているものもあります。</p> <p>グラフまたは表を生成するのではなく、Web ページフォームの HTML 指定を返すように、ランタイム エンジンに指示します。これらのフォームは、グラフおよび表の要求に使用できます。"FORMTEMPLATE" パラメータを指定した場合、ロードするフォームはそのパラメータにより決まります。</p> <p>NUMBEROFMETRICLINES と組み合わせて使用します。NUMBEROFMETRICLINES は、このフォームに表示される メトリックの数を示します。</p>
*DRAWGRAPH:		グラフまたは表の生成をランタイム エンジンに指示します。
*SAVECONFIG:		現在のクライアント 設定をクライアントのシステムの cookie に保存するよう、ランタイム エンジンに指示します。
*SAVEGRAPHCMD:		現在のグラフ パラメータを、"SAVETEMPLATENAME:" パラメータで指定した グラフ テンプレート ファイル (デフォルトでは "User" ファイル) に保存するよう、ランタイム エンジンに指示します。テンプレート ファイル内にグラフの名前を指定するには、"SAVEGRAPHNAME" パラメータ の指定が必須であり、空の "SAVEGRAPHNAME" パラメータは指定できません。同じ名前のグラフが既に存在する場合、そのグラフは上書きされます。同じ名前のグラフが存在しない場合、新しいグラフが テンプレート ファイルに追加されます。
*LOADGRAPHCMD:		"LOADTEMPLATENAME:" パラメータで指定した グラフ テンプレート ファイルからグラフ パラメータを読み込むよう、ランタイム エンジンに指示します。このコマンドは、保存したグラフ テンプレートと一致するフォームをロードするために使用します。テンプレート ファイルから読み込むグラフの名前を指定するには、"LOADGRAPHNAME:" パラメータ の指定が必須であり、空の "LOADGRAPHNAME" パラメータは指定できません。

*DELETEGRAPHCMD:		"SAVETEMPLATENAME:" パラメータで指定したグラフ テンプレート ファイル (デフォルトでは "User" ファイル) からグラフを削除するよう、ランタイム エンジンに指示します。テンプレート ファイルから削除するグラフの名前を指定するには、"SAVEGRAPHNAME:" パラメータの指定が必須であり、空の "SAVEGRAPHNAME:" パラメータは指定できません。
*LOADTEMPLATENAME:		LOADGRAPHCMD 操作で使用するテンプレート名です。このパラメータが 空である場合または指定しなかった場合、 "SAVETEMPLATENAME" パラメータまたは "GRAPHTEMPLATE:" パラメータで指定したテンプレートが使用されます。このような代替パラメータ名が使用されるのは、 "GRAPHTEMPLATE:" パラメータに他の用途があるような複雑なフォーム上の LOAD/SAVE 操作を 簡素化するためです。
*SAVETEMPLATENAME:		SAVEGRAPHCMD 操作または DELETEGRAPHCMD 操作で使用するテンプレート名です。このパラメータが 空である場合または指定しなかった場合、 "LOADTEMPLATENAME" パラメータまたは "GRAPHTEMPLATE:" パラメータで指定したテンプレートが使用されます。保存および削除したすべてのグラフは、データ ディレクトリ "VPI_GraphsUser<name>.txt" に書き込まれます。ここで、<name> は "SAVETEMPLATENAME:" パラメータで指定した名前です。このような代替 パラメータ名が使用されるのは、"GRAPHTEMPLATE:" パラメータに他の用途があるような複雑なフォーム上の LOAD/SAVE 操作を 簡素化するためです。
*LOADGRAPHNAME:		LOADGRAPHCMD 操作で使用するグラフ名です。このパラメータが 空である場合または指定しなかった場合、"SAVEGRAPHNAME:" パラメータまたは "GRAPH:" パラメータで指定したテンプレートが使用されます。このような代替パラメータ名が使用されるのは、 "GRAPH:" パラメータに他の用途があるような複雑なフォーム上の LOAD/SAVE 操作を 簡素化するためです。
*SAVEGRAPHNAME:		SAVEGRAPHCMD 操作および DELETEGRAPHCMD 操作で使用するテンプレート名です。このパラメータが 空である場合または指定しなかった場合、

		"LOADGRAPHNAME:" パラメータまたは "GRAPH:" パラメータで指定したテンプレートが使用されます。このような代替パラメータ名が使用されるのは、"GRAPH:" パラメータに他の用途があるような複雑なフォーム上の LOAD/SAVE 操作を簡素化するためです。
*RESETFORM:		ユーザーが情報を選択していないフォームを再作成するよう、ランタイム エンジンに指示します。このオプションは、フォームの指定を "最初からやり直す" ために使用します。
*DISCOVERSYSTEM:		システムにデータを供給するデータソースを照会して、システム情報レポートを生成します。
SKIN:	<skin name>	"外観" を決定するスタイル設定、特別なフォーム、および グラフ Web ページ指定が含まれているスキン ディレクトリを指定します。「 <a href="#">プレゼンテーションスタイルに影響する"スキン"の使用</a> 」を参照してください。
NOMARKERS:		主に、すべてのグラフのライン マーカーをオフにするために、 <a href="#">スタイル ファイル</a> 内で 使用します。これにより、定義済みグラフ テンプレートまたはカスタム グラフで設定したすべてのマーカーが上書きされます。
MARKERS:	on   off	主に、すべてのグラフのライン マーカーをオンまたはオフにするために、 <a href="#">スタイル ファイル</a> およびユーザー設定情報で 使用されます。これにより、定義済みグラフ テンプレートまたはカスタム グラフで設定したすべてのマーカーが上書きされます。
NOTOOLBAR:		主に、Java グラフのツールバーをオフにするために、 <a href="#">スタイル ファイル</a> 内で使用します。
TOOLBAR:	on   off	主に、Java グラフのツールバーをオンまたはオフにするために、 <a href="#">スタイル ファイル</a> およびユーザー設定情報で 使用されます。
FAMILY:	<Family Name>	グラフ テンプレート ファイルに含まれるグラフをより具体的に示す名前を指定するために、そのグラフ テンプレート ファイル内で使用します。グラフのセットを一意に識別するファミリ名は、慎重に選択する必要があります。各グラフ テンプレート ファイル内で、"FAMILY:" パラメータを 1 つのみ使用します。
CATEGORY:	<Category Name>	グラフ テンプレート ファイル内で、後続のグラフの一般カテゴリを示すために使用します。別の "CATEGORY:" パラメータが現れるまで、各グラフにそのカテゴリが 関連付けられます。
DESCRIPTION:	<string>	グラフ テンプレート ファイル内で、グラフを説明する文字列を指定するために使用します。

		各グラフに異なる DESCRIPTION を指定できます。
GRAPHHEADER:		このパラメータは、グラフ テンプレート ファイル内でのみ使用します。HTML グラフの 上に置かれる 1 行以上のテキストのセクションを開始します。この セクションを終了するには、"END_GRAPHHEADER:" パラメータを使用します。プロパティ ページ ([注釈]) から Java にアクセス可能です。
GRAPHTRAILER:		このパラメータは、グラフ テンプレート ファイル内でのみ使用します。HTML グラフの 下に置かれる 1 行以上のテキストのセクションを開始します。この セクションを終了するには、"END_GRAPHTRAILER:" パラメータを使用します。プロパティ ページ ([注釈]) から Java にアクセス可能です。
DATEFORMAT:	<dateString>	このパラメータは、使用されている日付形式を上書きします。通常、日付形式は OVPM サーバーの設定から取り込まれます。このキーワードを使用することで、ユーザー固有の形式を指定できます。このキーワードは、クライアント設定オプションを設定するために、通常 SAVECONFIG コマンドと一緒に使用されます。この文字列の設定方法についての詳細は、「 <a href="#">日付形式</a> 」を参照してください。
TIMEFORMAT:	<timeString>	このパラメータは、使用されている時間形式を上書きします。通常、時間形式は OVPM サーバーの設定から取り込まれます。このキーワードを使用することで、ユーザー固有の形式を指定できます。このキーワードは、クライアント設定オプションを設定するために、通常 SAVECONFIG コマンドと一緒に使用されます。この文字列の設定方法についての詳細は、「 <a href="#">時間形式</a> 」を参照してください。
-init		初期 htm ファイル "OVPM.htm" を作成し、それをインストール環境に合わせてカスタマイズします。

[トップへ戻る](#)